

Ⅱ 18 歳以上の区民の方が対象

～ 暮らし・保健・環境の分野など ～

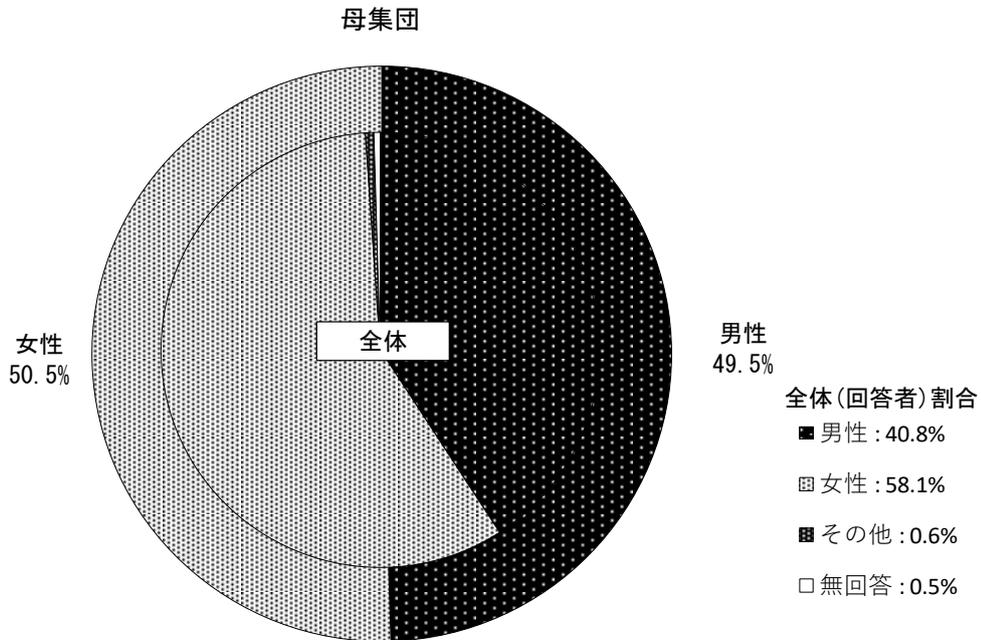
1 回答者の属性について

(1) 性別

母集団：大田区18歳以上の人口 (n=642,559) 令和6年1月1日現在

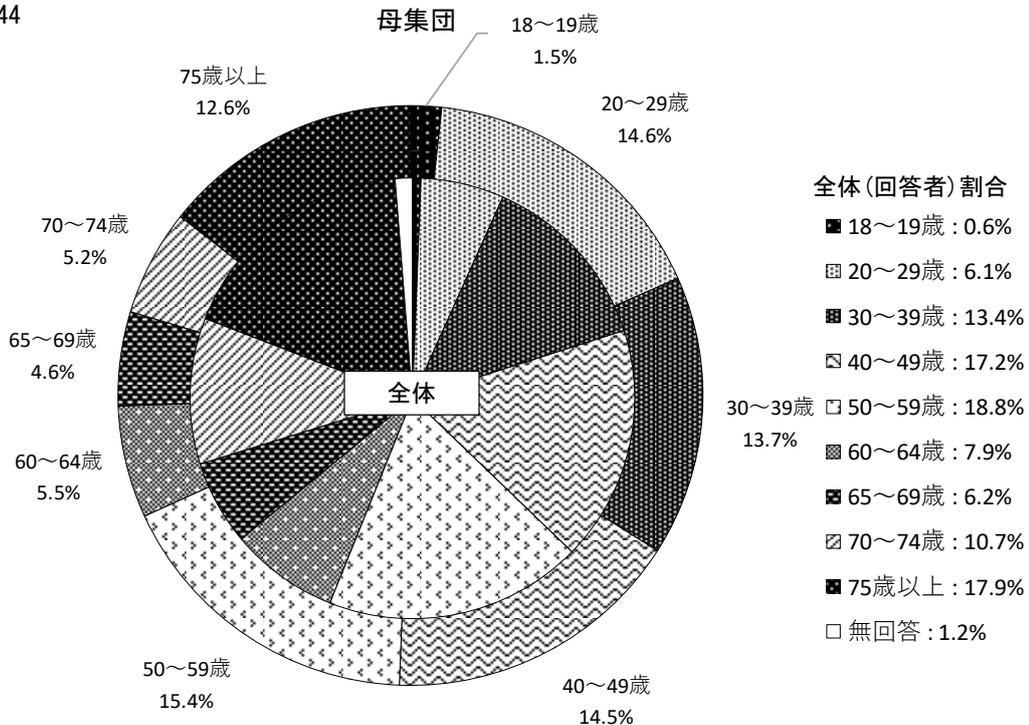
全体：有効回収数 (n=644)

全体 n=644



(2) 年齢

全体 n=644

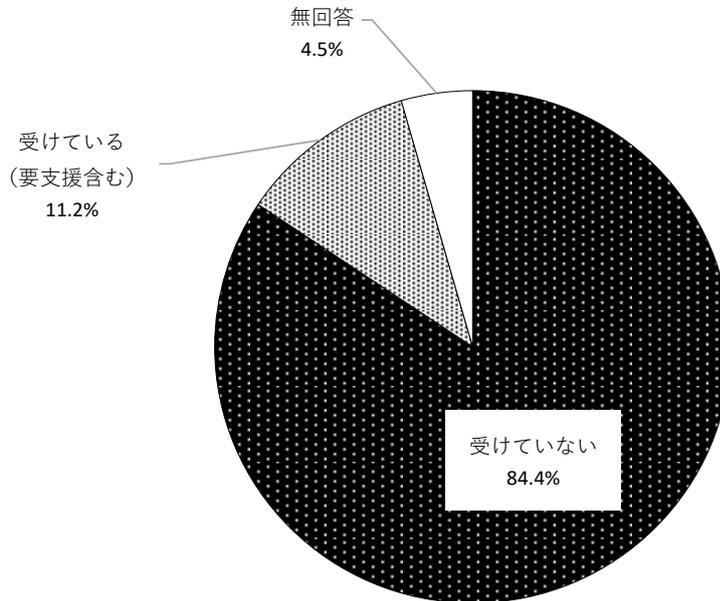


【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人＋外国人）令和6年1月1日現在

(3) 要介護認定の状況

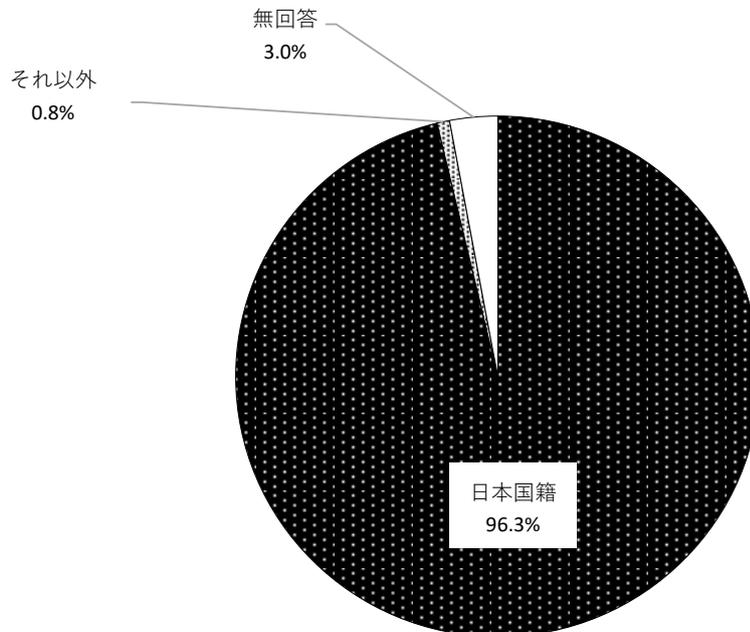
【65歳以上の方】

全体 n=224



(4) 国籍

全体 n=644

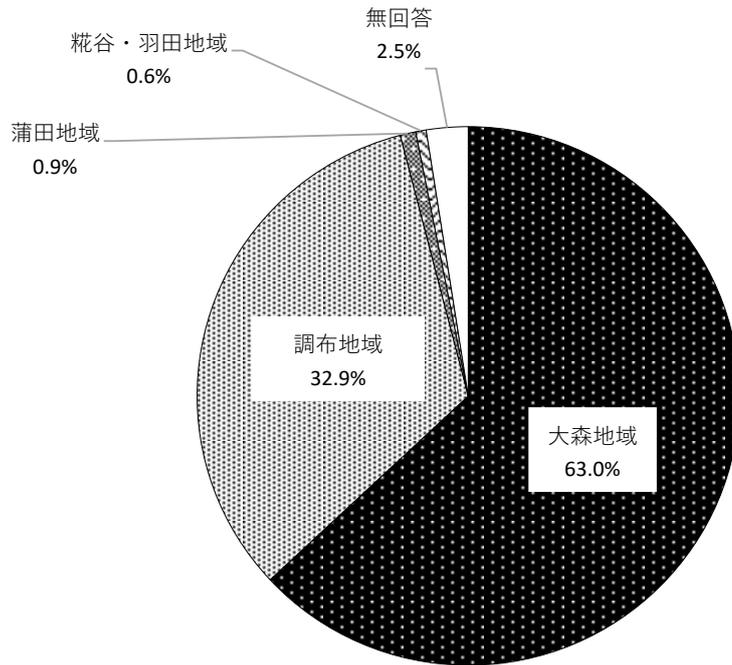


■ 日本国籍以外

	韓国	ポルトガル	ニュージーランド	スリランカ	無回答
人数	1	1	1	1	1

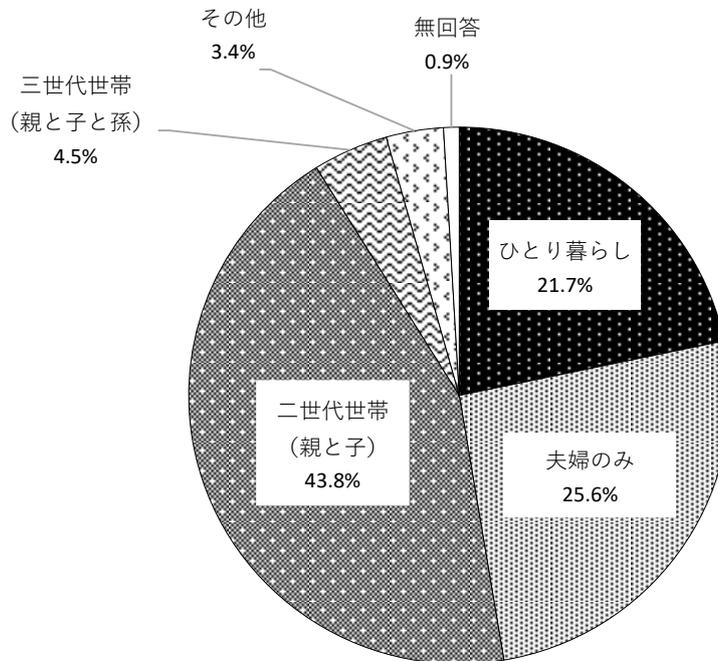
(5) 居住地域

全体 n=644

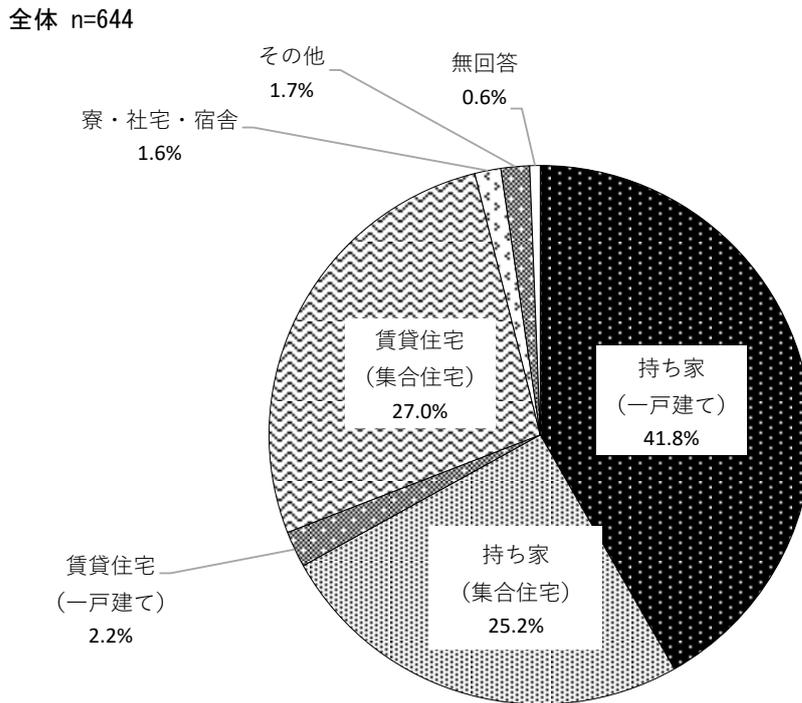


(6) 家族構成

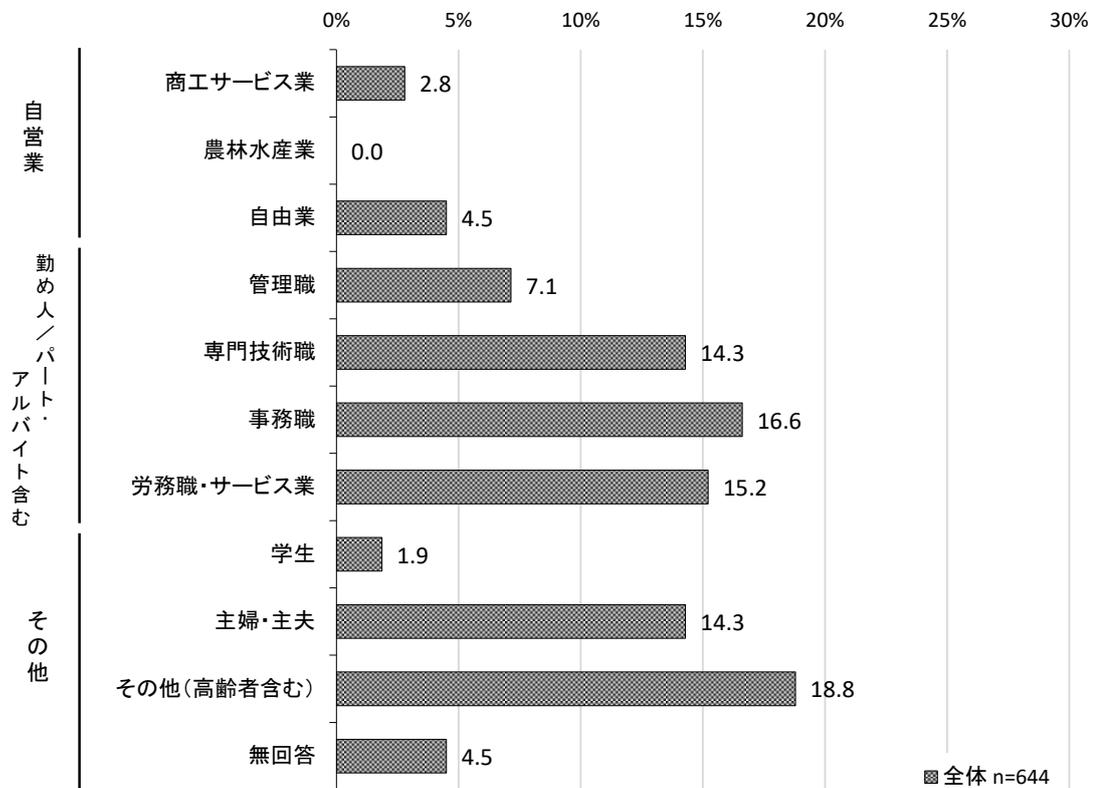
全体 n=644



(7) 住まいの種類

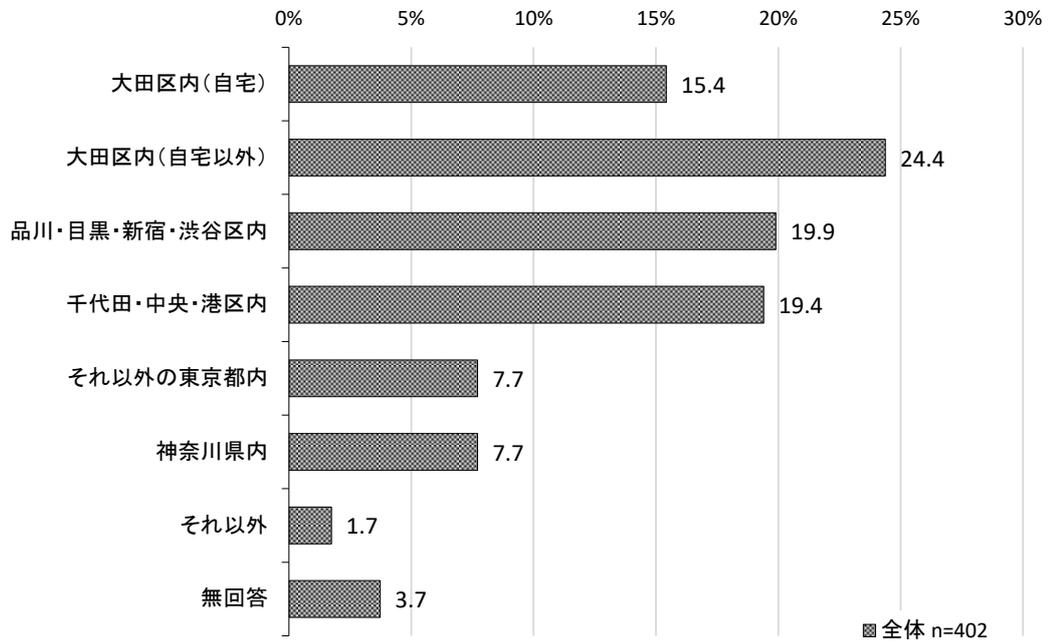


(8) 職業

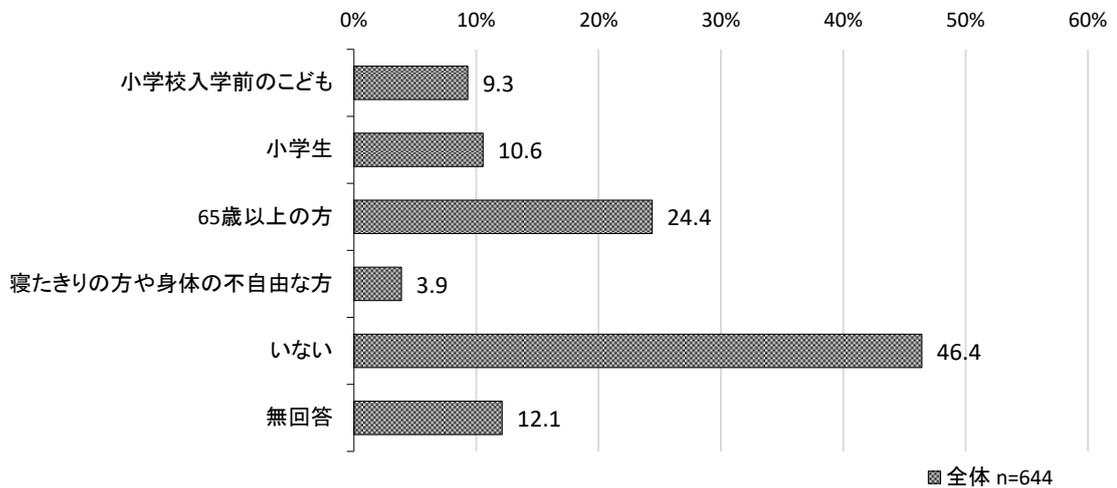


(9) 主な通勤・通学先

【(8) 職業で「自営業」「勤め人」「学生」と回答した方】

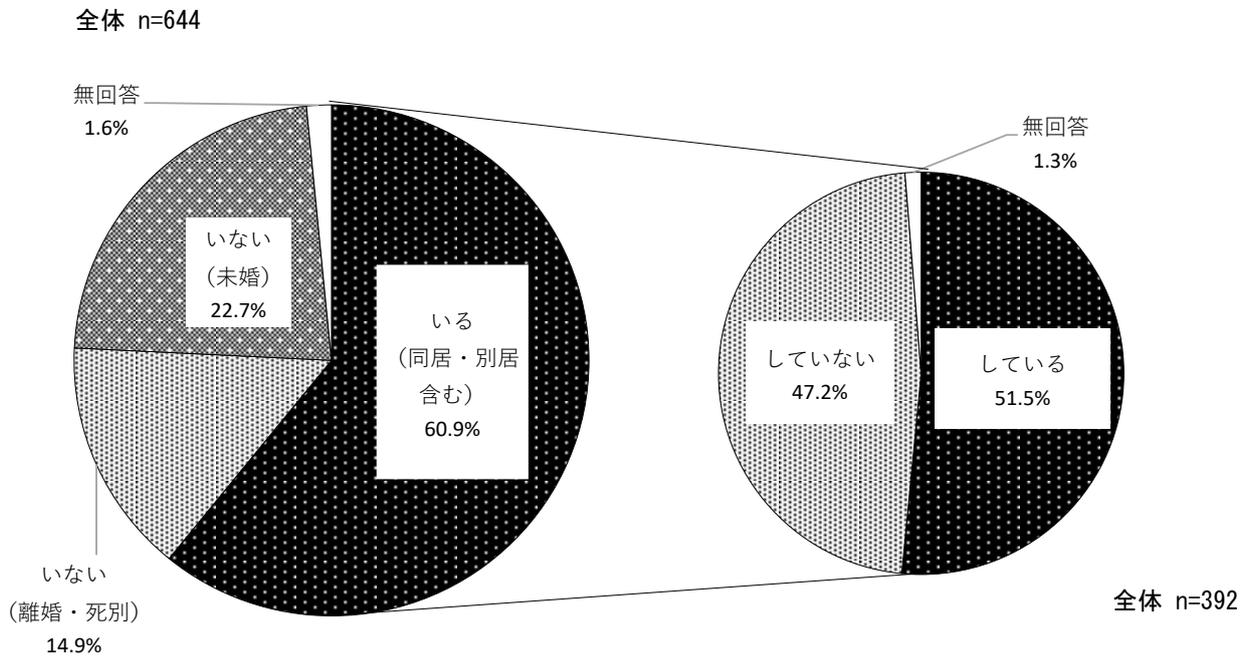


(10) 同居家族

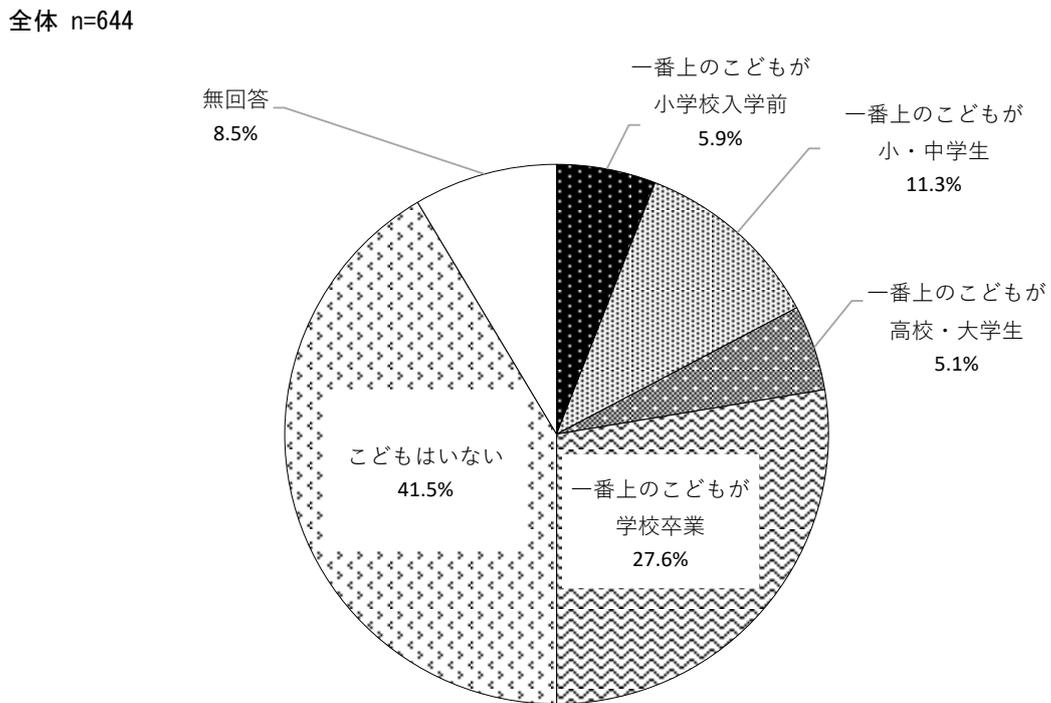


(11) 配偶者の有無及び (12) 共働きの状況

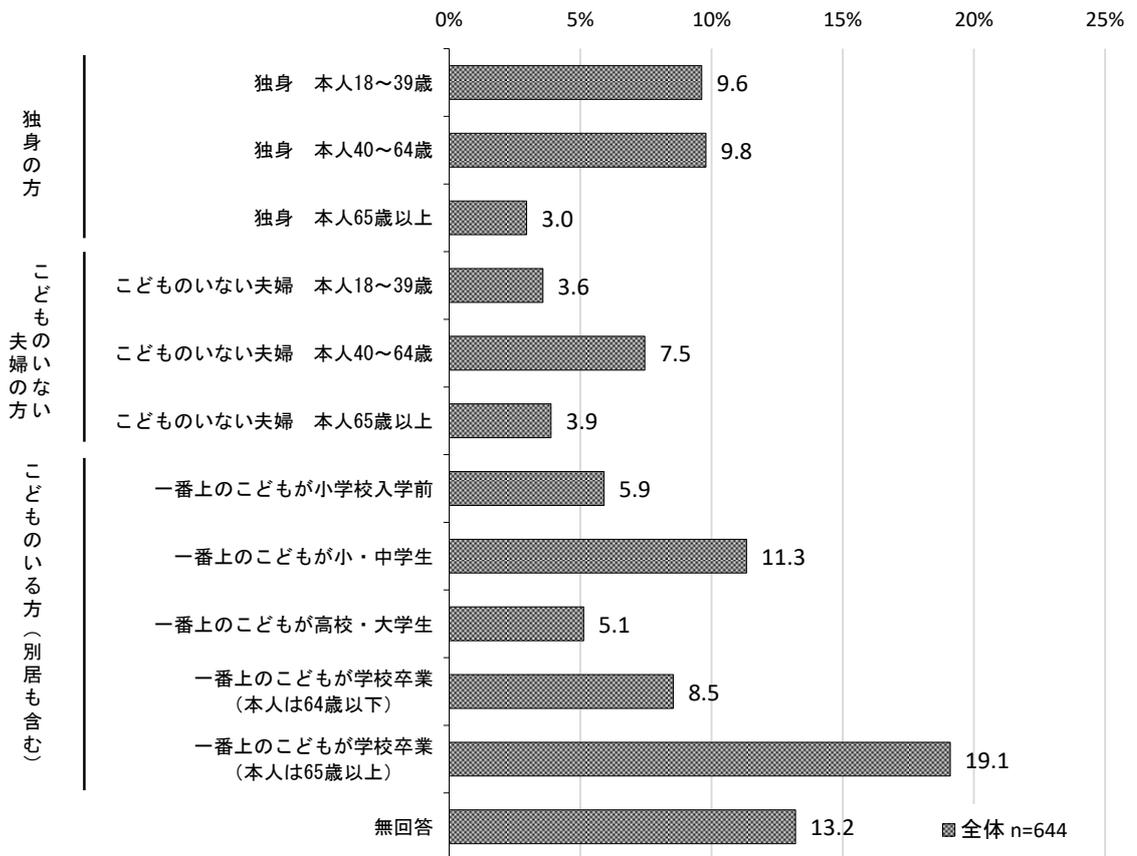
【(11) 配偶者の有無で「いる(同居・別居含む)」と回答した方】



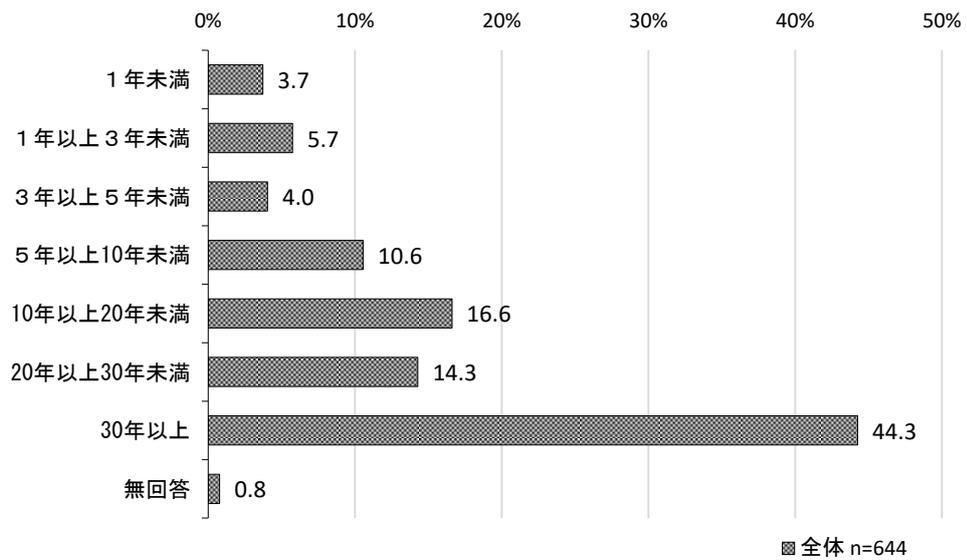
(13) こどもの有無



(14) 自身のステージ



(15) 居住年数



2 各種認知度について

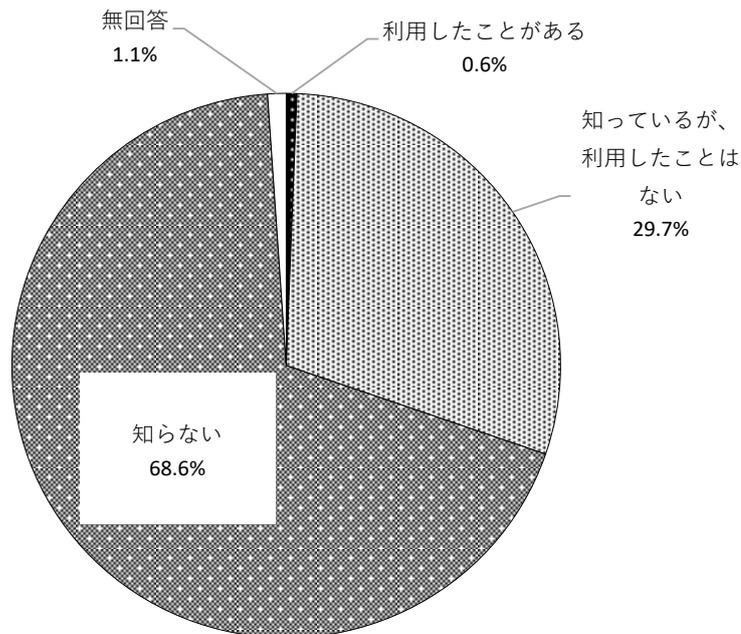
(1) 「大田区DV相談ダイヤル」の認知度

◇《知っている》(「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値)は約3割となっている

問1 区では、「大田区DV相談ダイヤル」を設置し、配偶者やパートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス=DV)に関する相談を受け付けていることを知っていますか。(1つのみ)

“大田区DV相談ダイヤル”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が30.3%である一方で、「知らない」が68.6%と、「知らない」が38.3ポイント上回っている。

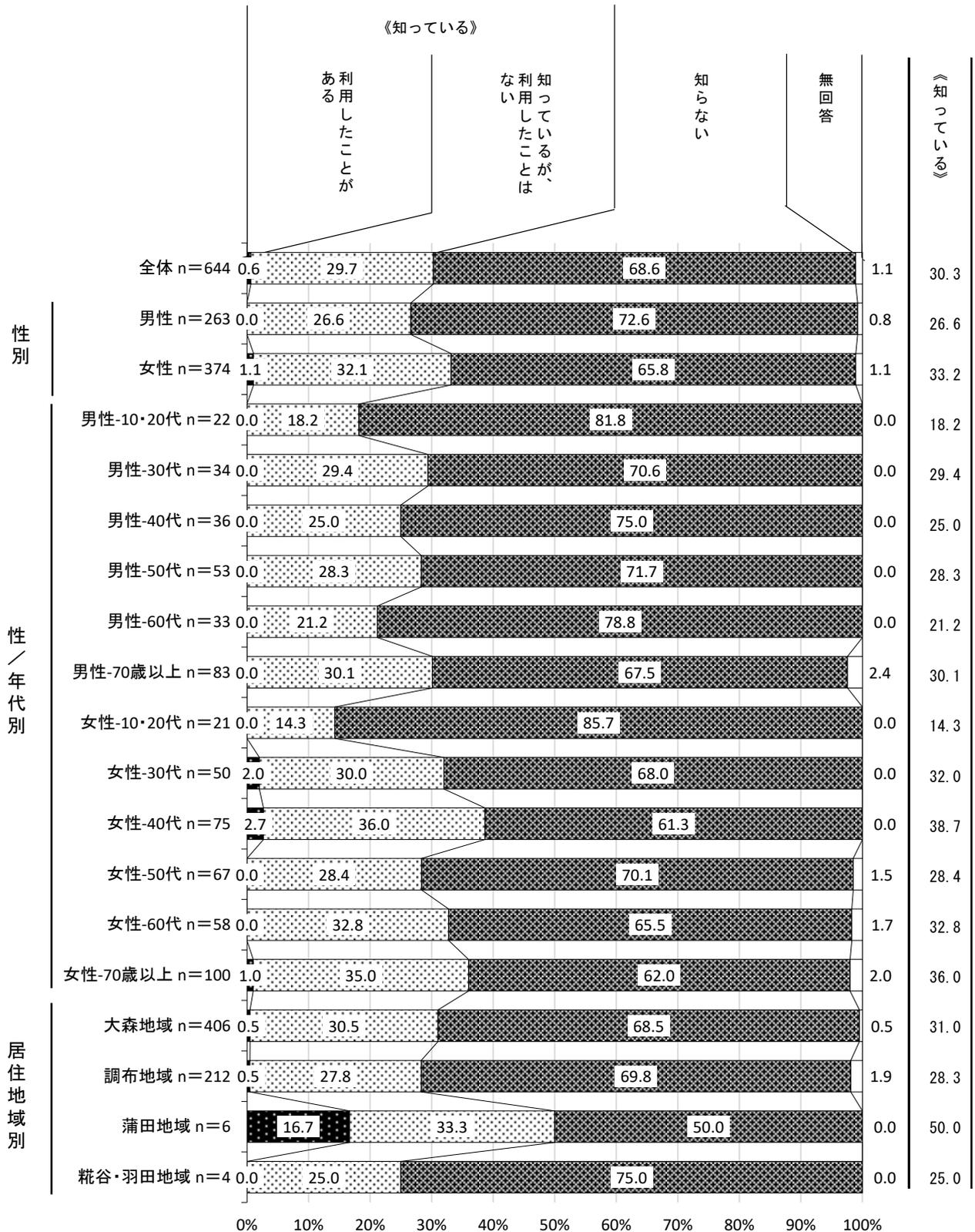
全体 n=644



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が26.6%、女性が33.2%と、女性が6.6ポイント上回っている。
 性／年代別でみると、《知っている》は男性では70歳以上で約3割、女性では40代で3割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域で3割前半と高くなっている。



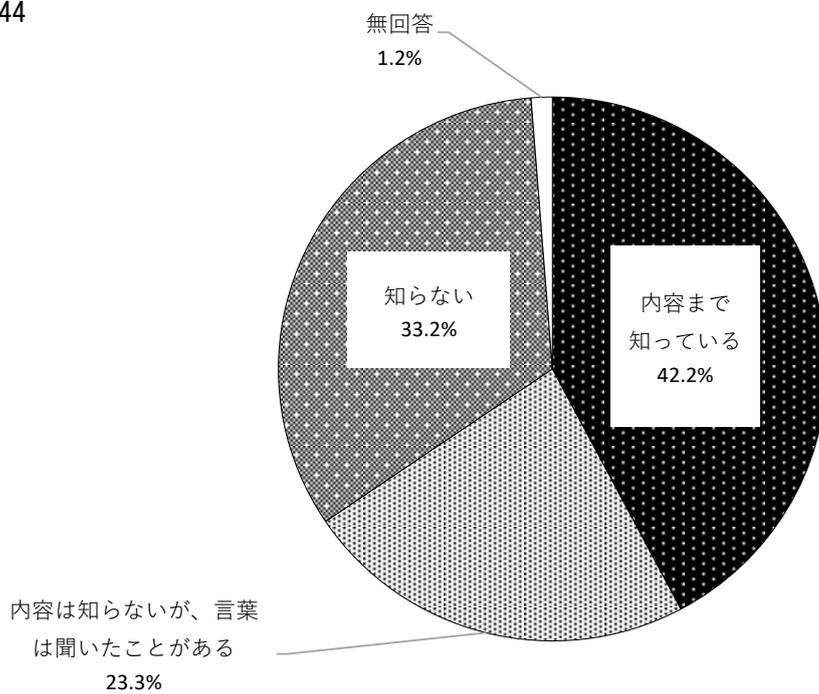
(2) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

◇「内容まで知っている」は4割前半となっている

問2 「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」を意味する言葉ですが、この言葉を知っていましたか。(1つのみ)

“ワーク・ライフ・バランス”の認知度については、「内容まで知っている」が42.2%で最も高く、次いで「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」が23.3%、「知らない」が33.2%となっている。

全体 n=644

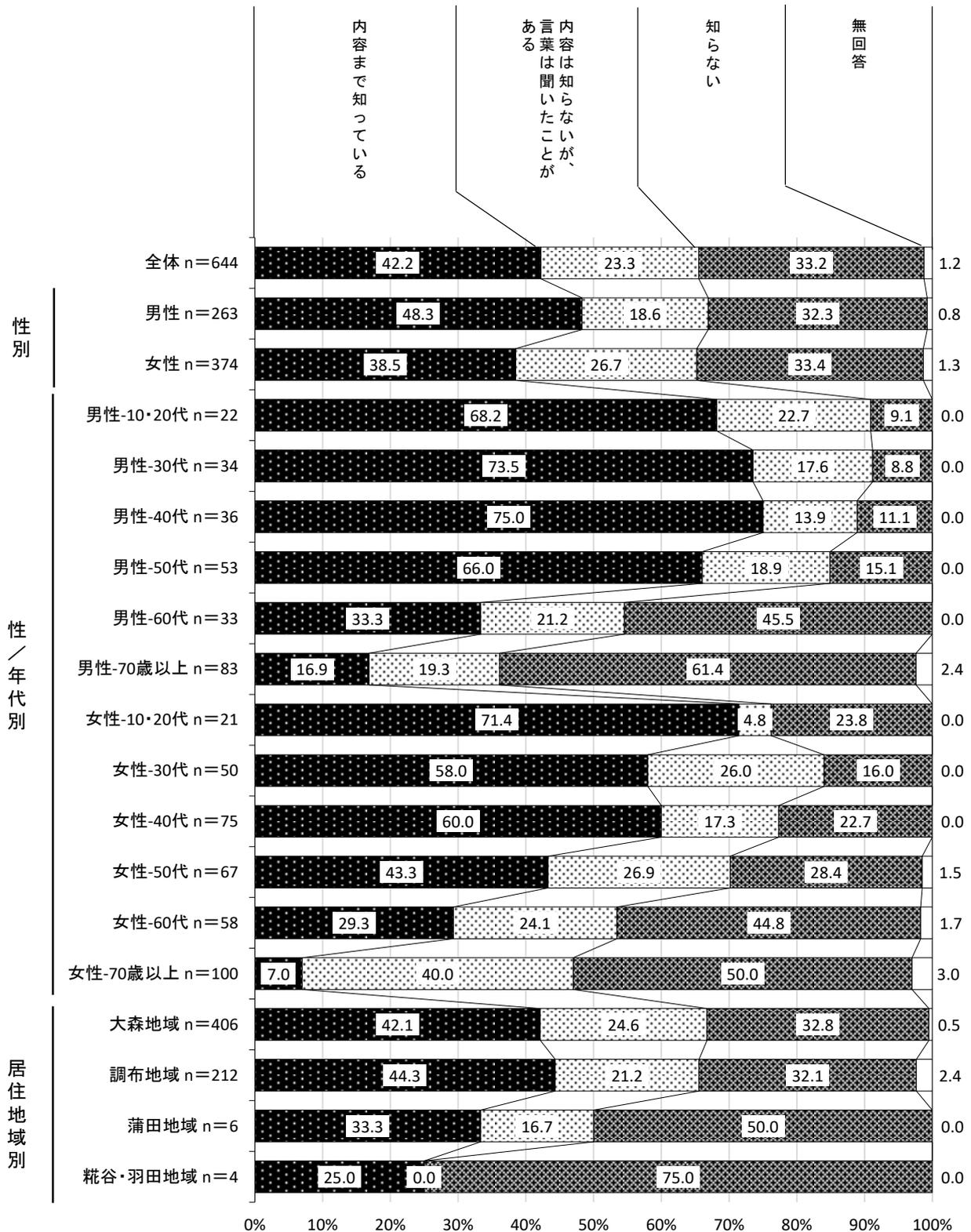


■性別・性/年代別・居住地域別

性別で見ると、「内容まで知っている」は男性が48.3%、女性が38.5%と、男性が9.8ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「内容まで知っている」は男性では40代が7割半ば、女性では40代が6割と高くなっている。

居住地域別で見ると、大森地域、調布地域で4割前半と高くなっている。



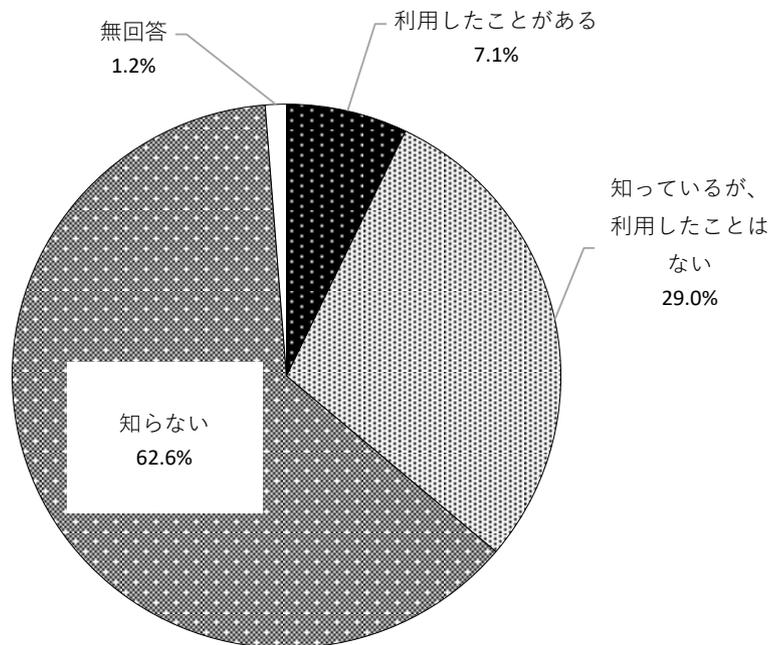
(3) 「エセナおおた」の認知度

◇《知っている》(「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値)は3割後半となっている

問3 区では、男女共同参画社会の実現に向けた取組として様々な講座や展示などの事業を実施しています。これらを主に実施している施設である、男女平等推進センター「エセナおおた」を知っていますか。(1つのみ)

“エセナおおた”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が36.1%である一方で、「知らない」が62.6%と、「知らない」が26.5ポイント上回っている。

全体 n=644

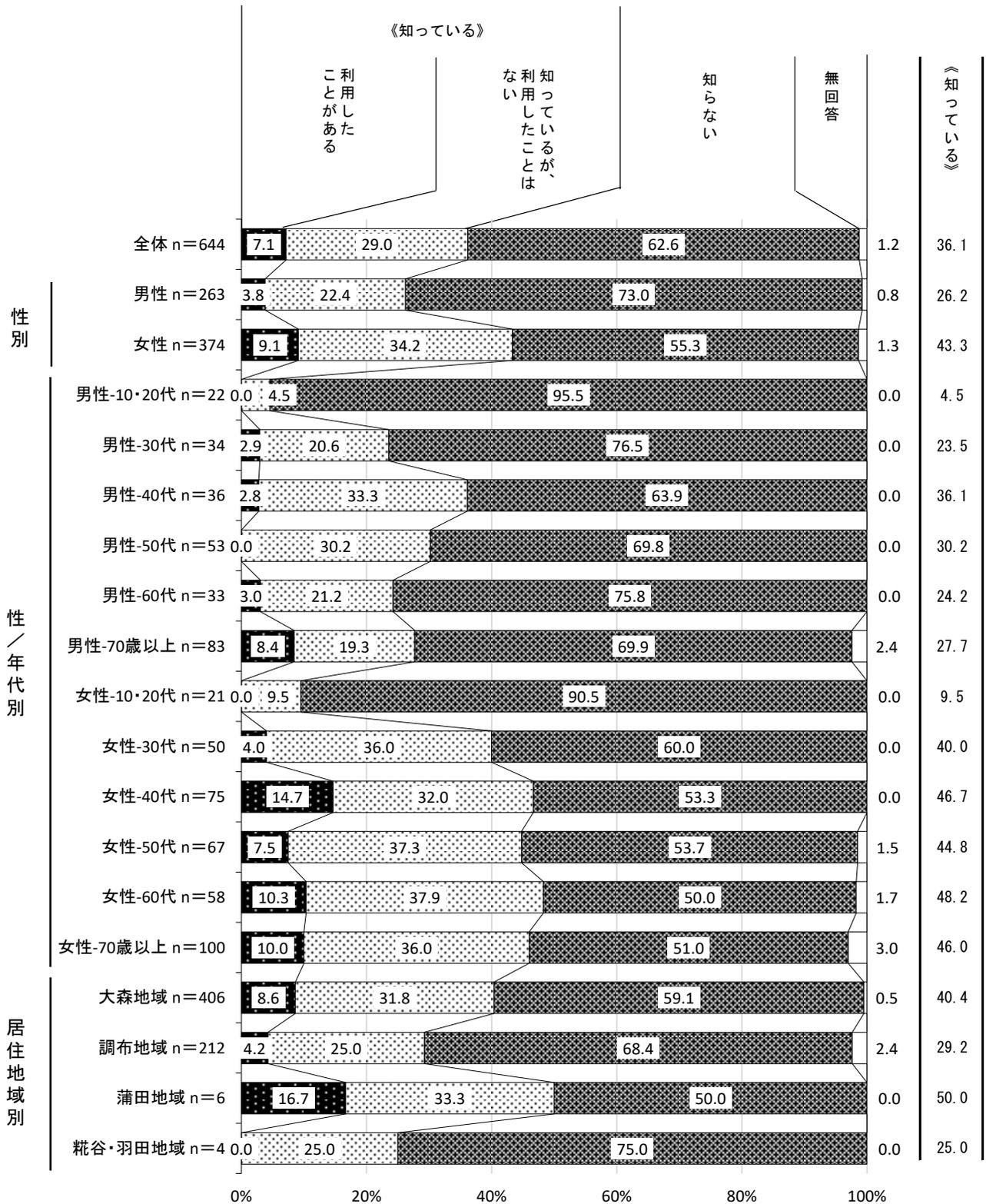


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が26.2%、女性43.3%と、女性が17.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性では40代で3割後半、女性では40代、60代、70歳以上で4割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域で約4割と高くなっている。



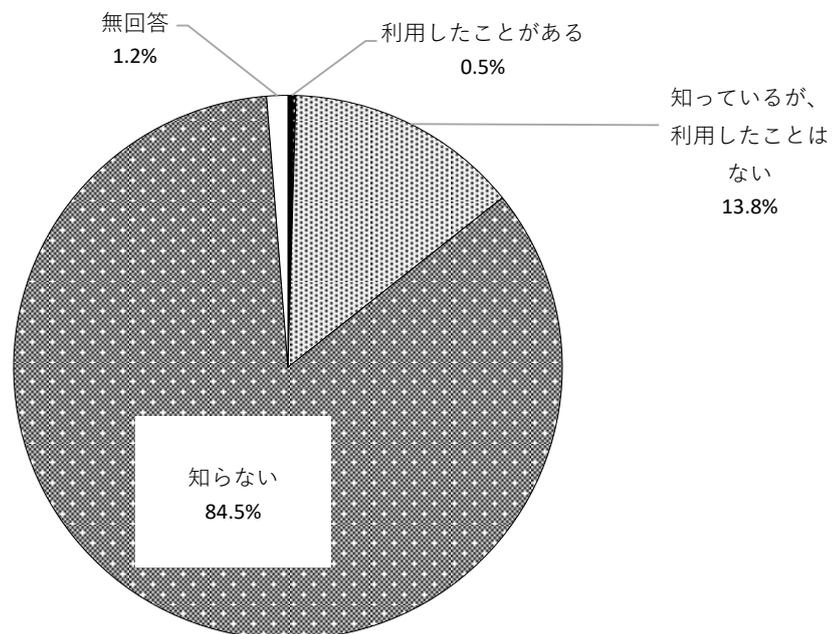
(4) 「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度

◇《知っている》(「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値)は1割前半となっている

問4 男女平等推進センター「エセナおおた」では、「女性のためのたんぽぽ相談」で女性の様々な悩みに関する相談を受け付けていることを知っていますか。(1つのみ)

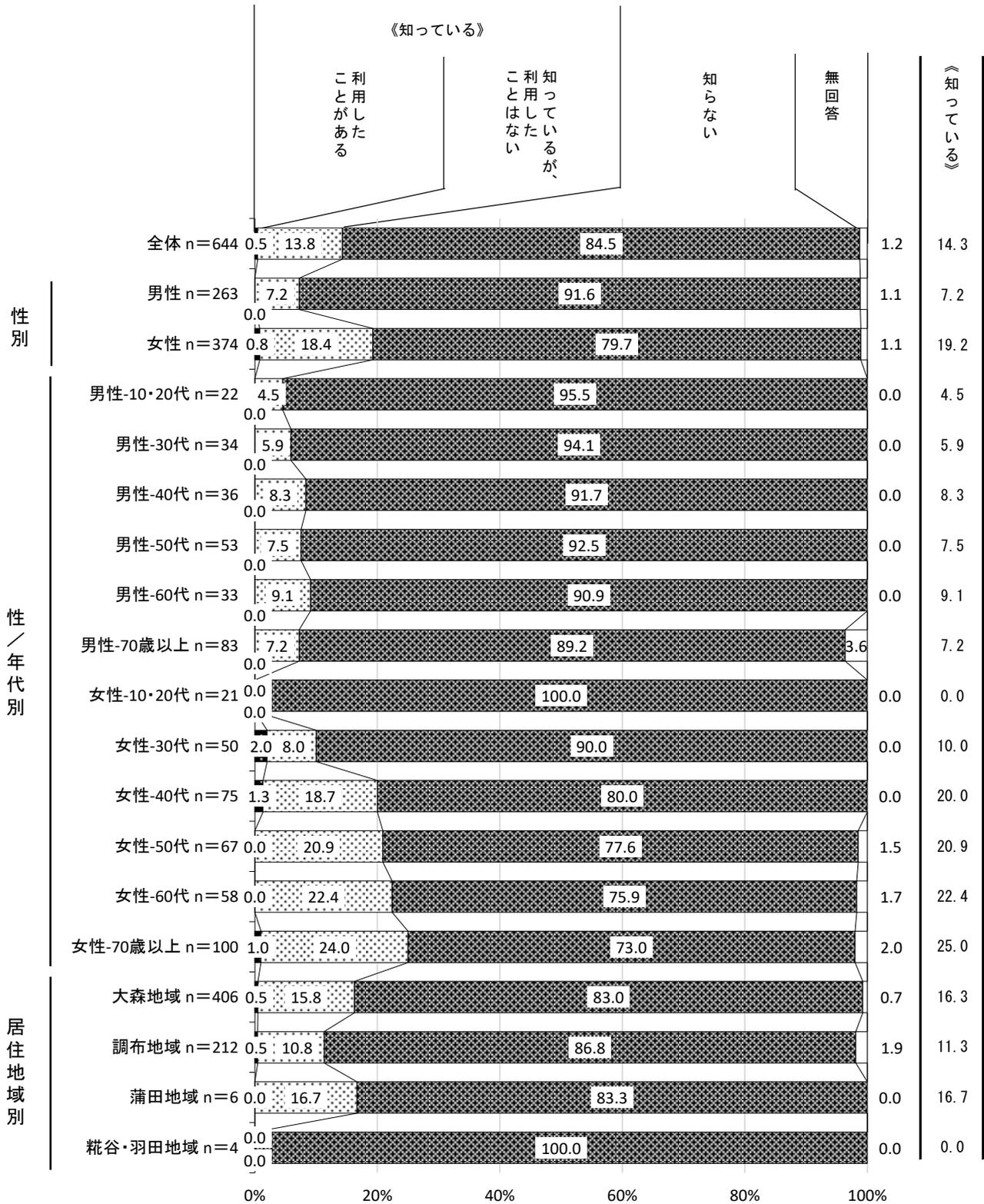
“女性のためのたんぽぽ相談”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が14.3%である一方で、「知らない」が84.5%と、「知らない」が70.2ポイント上回っている。

全体 n=644



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が7.2%、女性が19.2%と、女性が12ポイント上回っている。
 性／年代別でみると、《知っている》は女性70歳以上で2割半ばと高くなっている。
 居住地域別でみると、《知っている》は大森地域で1割後半と高くなっている。



(5)「大田区立消費者生活センター」の認知度

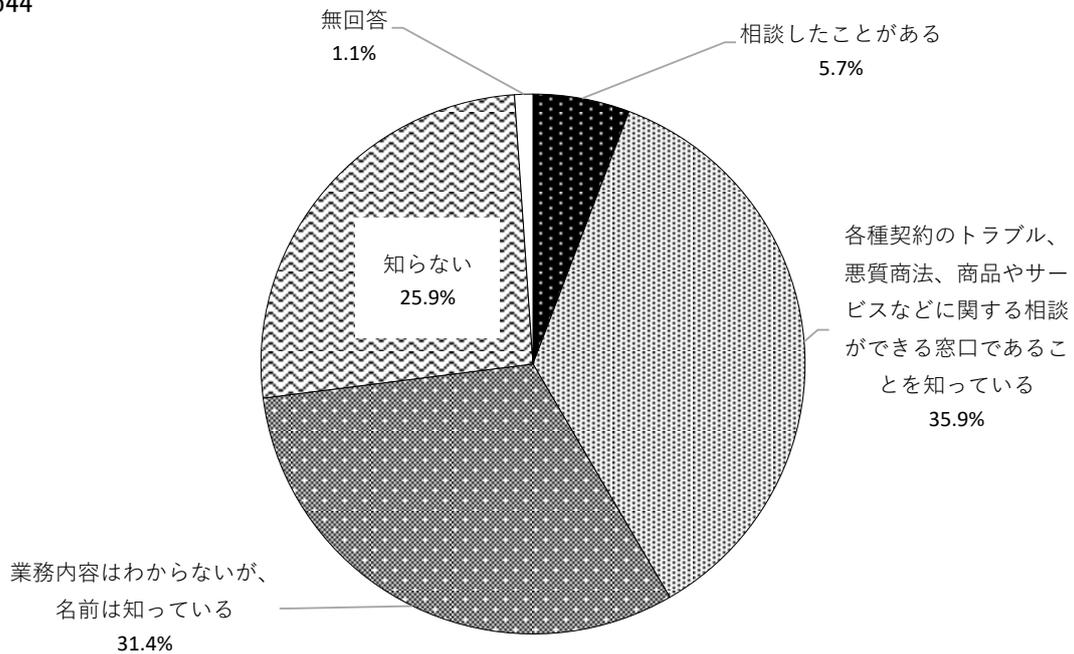
◇「相談したことがある」は1割未満となっている

問5 「大田区立消費者生活センター」を知っていますか。(1つのみ)

“大田区立消費者生活センター”の認知度については、「各種契約のトラブル、悪質商法、商品やサービスなどに関する相談ができる窓口であることを知っている」が35.9%で最も高く、「業務内容はわからないが、名前は知っている」が31.4%、「知らない」が25.9%となっている。

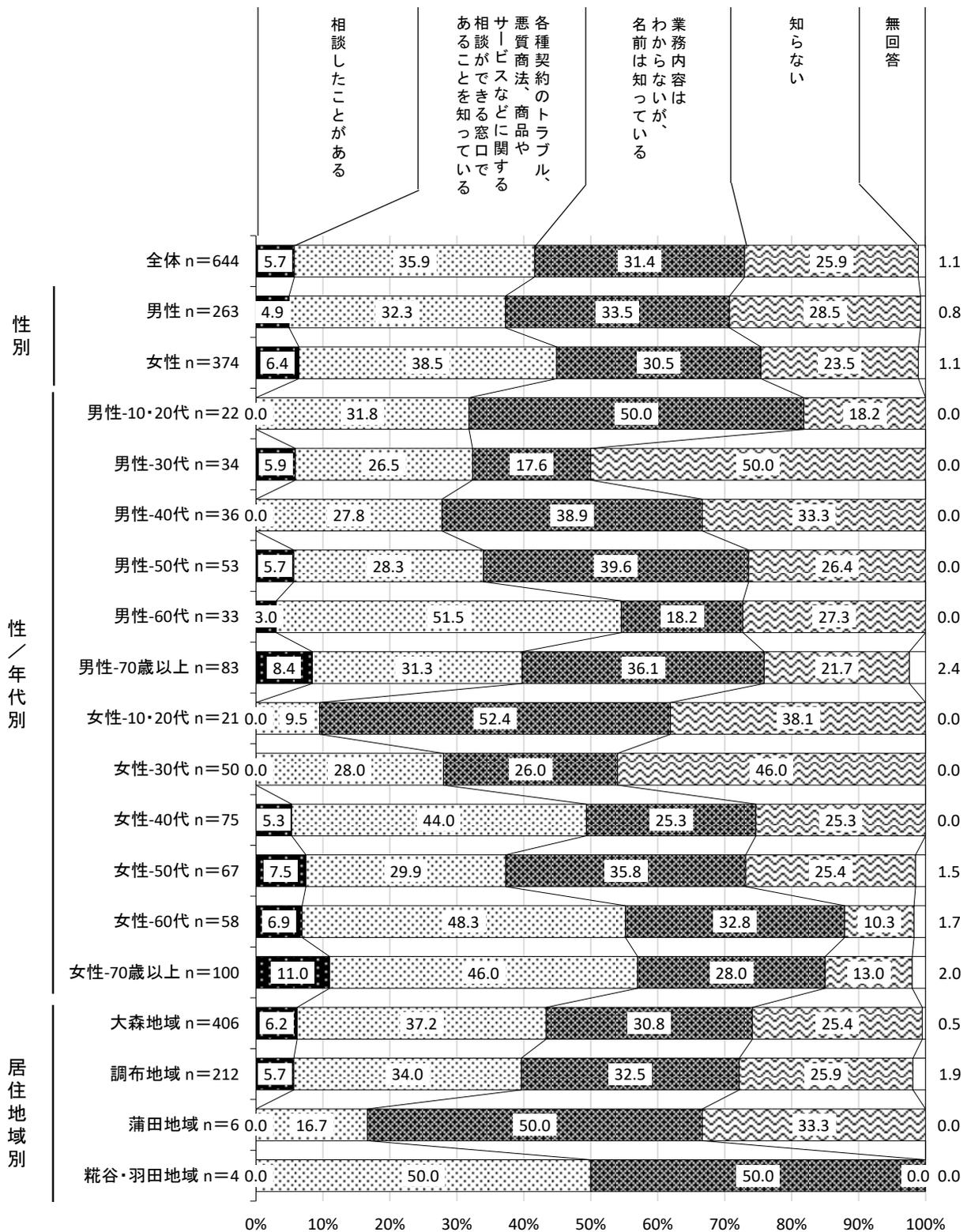
なお、「相談したことがある」は5.7%となっている。

全体 n=644



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「相談したことがある」は男性が4.9%、女性が6.4%と、大きな差はみられなかった。
 性／年代別でみると、「相談したことがある」は女性70歳以上で1割前半と高くなっている。
 居住地域別でみると、大きな差はみられない。

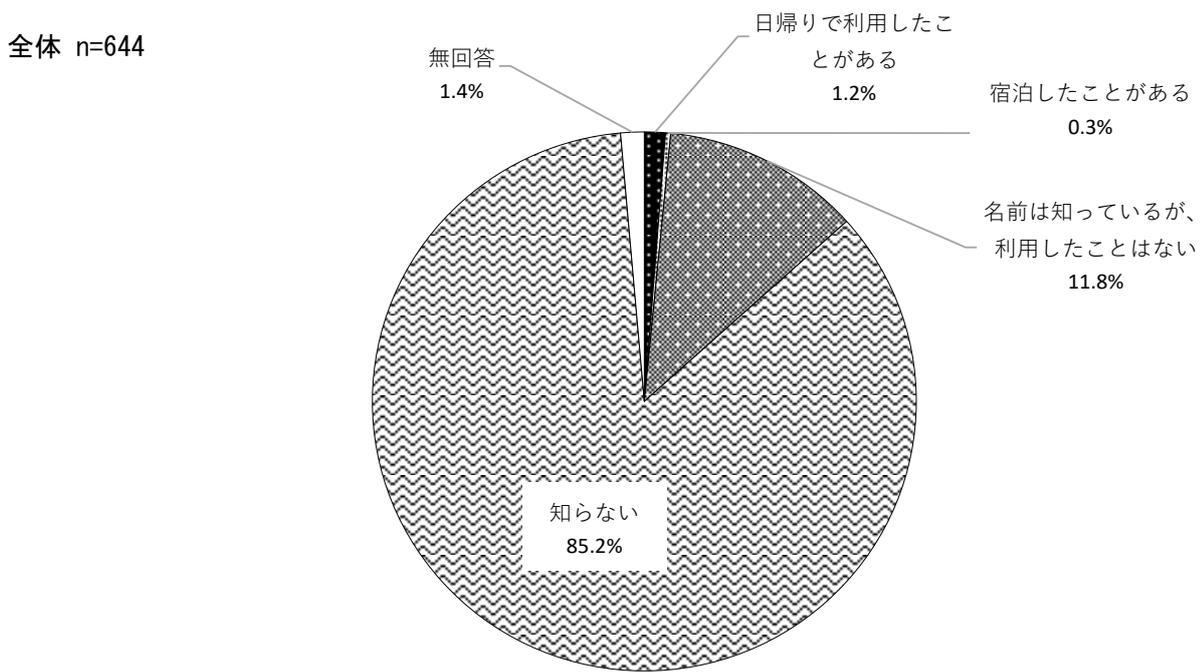


(6)「ゆいっつ(大田区青少年交流センター)」の認知度

◇「日帰りで利用したことがある」、「宿泊したことがある」は1割未満となっている

問6 大田区青少年交流センター「ゆいっつ」を知っていますか。(1つのみ)

“ゆいっつ(大田区青少年交流センター)”の認知度については、「知らない」が85.2%で最も高く、次いで、「名前は知っているが、利用したことはない」が11.8%となっている。
なお、「日帰りで利用したことがある」は1.2%、「宿泊したことがある」は0.3%となっている。

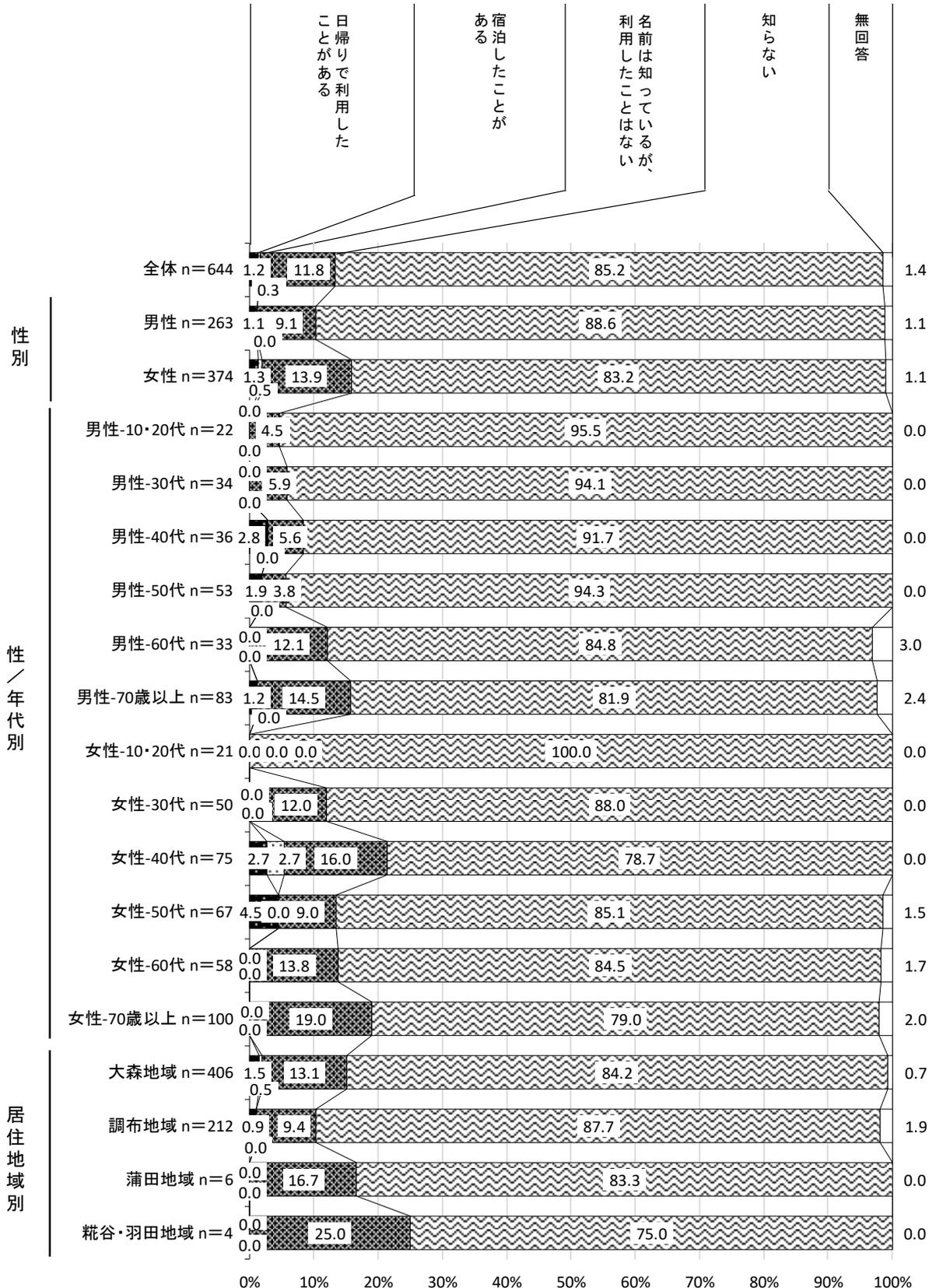


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「日帰りで利用したことがある」、「宿泊したことがある」は男性が1.1%、女性が1.8%と、大きな差はみられなかった。

性/年代別でみると、「日帰りで利用したことがある」、「宿泊したことがある」は男性では40代、50代、70歳以上、女性では40代、50代で、いずれも1割未満だが利用されている。

居住地域別でみると、「日帰りで利用したことがある」、「宿泊したことがある」は大森地域、調布地域で、いずれも1割未満だが利用されている。



3 生涯学習について

(1) 最近1年間の生涯学習の有無

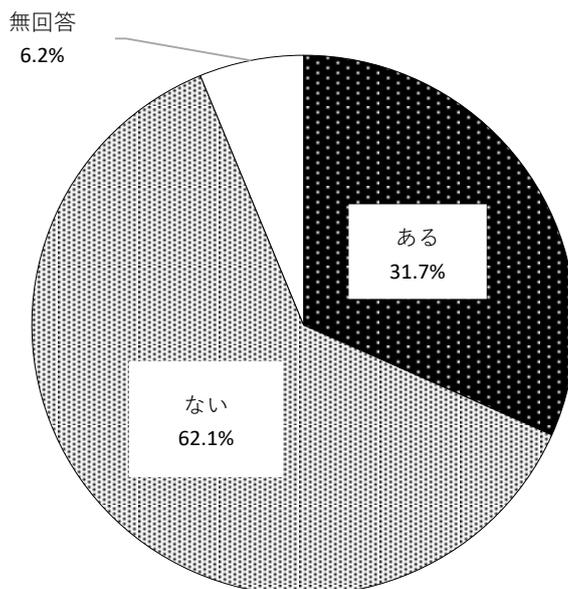
◇「ある」は3割前半となっている

問7 最近1年間に生涯学習を行ったことがありますか。(1つのみ)

※生涯学習とは、区民一人一人が、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において取り組む学びのことをいいます。具体的には、読書、語学や資格の習得、趣味・教養、スポーツ、芸術・文化活動、生活・健康や仕事などに関する学習、サークル活動を指し、自治会・町会、NPO、PTA、子ども会、ボランティアなどの地域活動を通して得られる学びも含まれます。

最近1年間の生涯学習の有無については、「ある」が31.7%、「ない」が62.1%と、「ない」が30.4ポイント上回っている。

全体 n=644

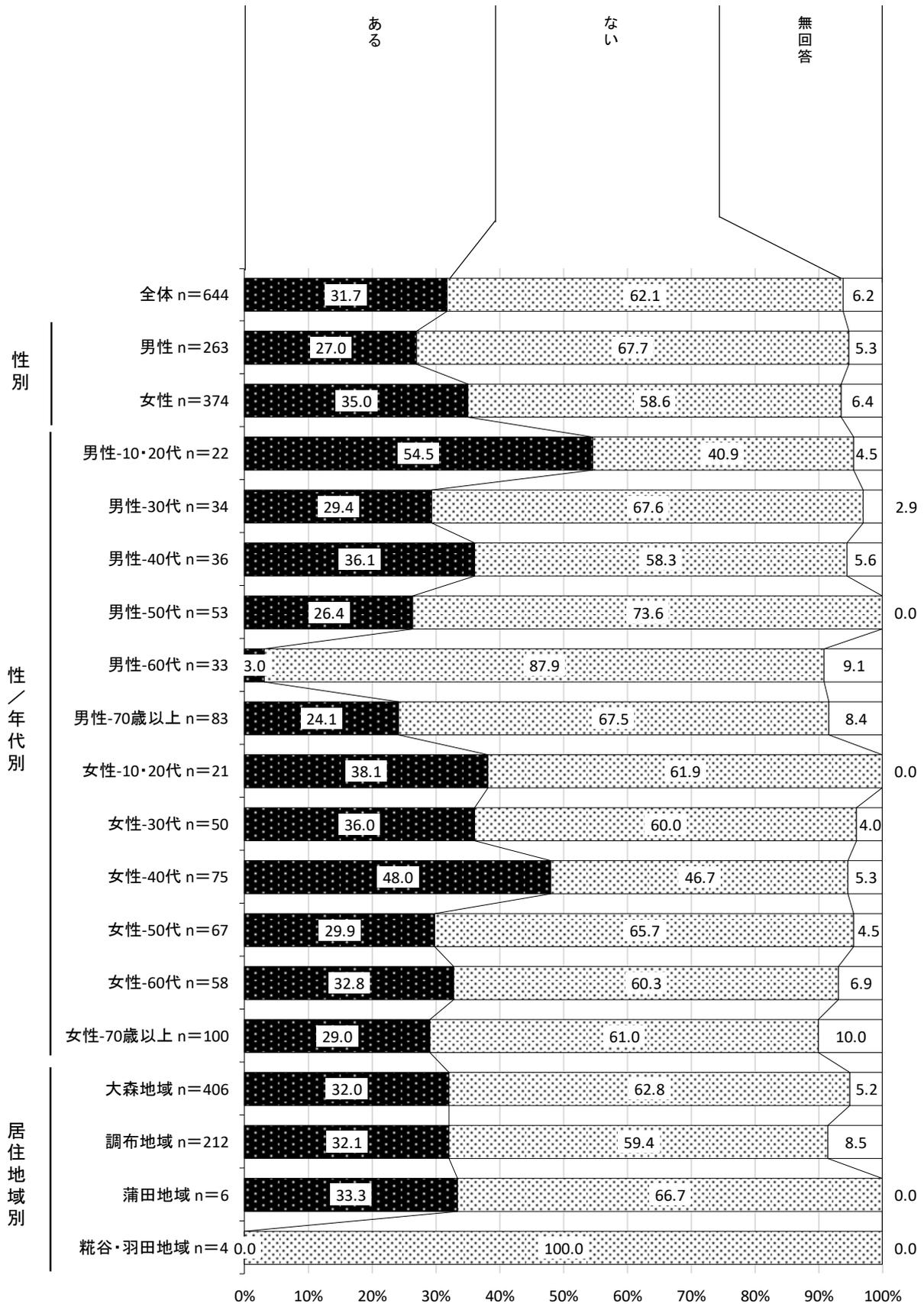


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「ある」は男性が27.0%、女性が35.0%と、女性が8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「ある」は男性では40代で3割後半、女性では40代で4割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



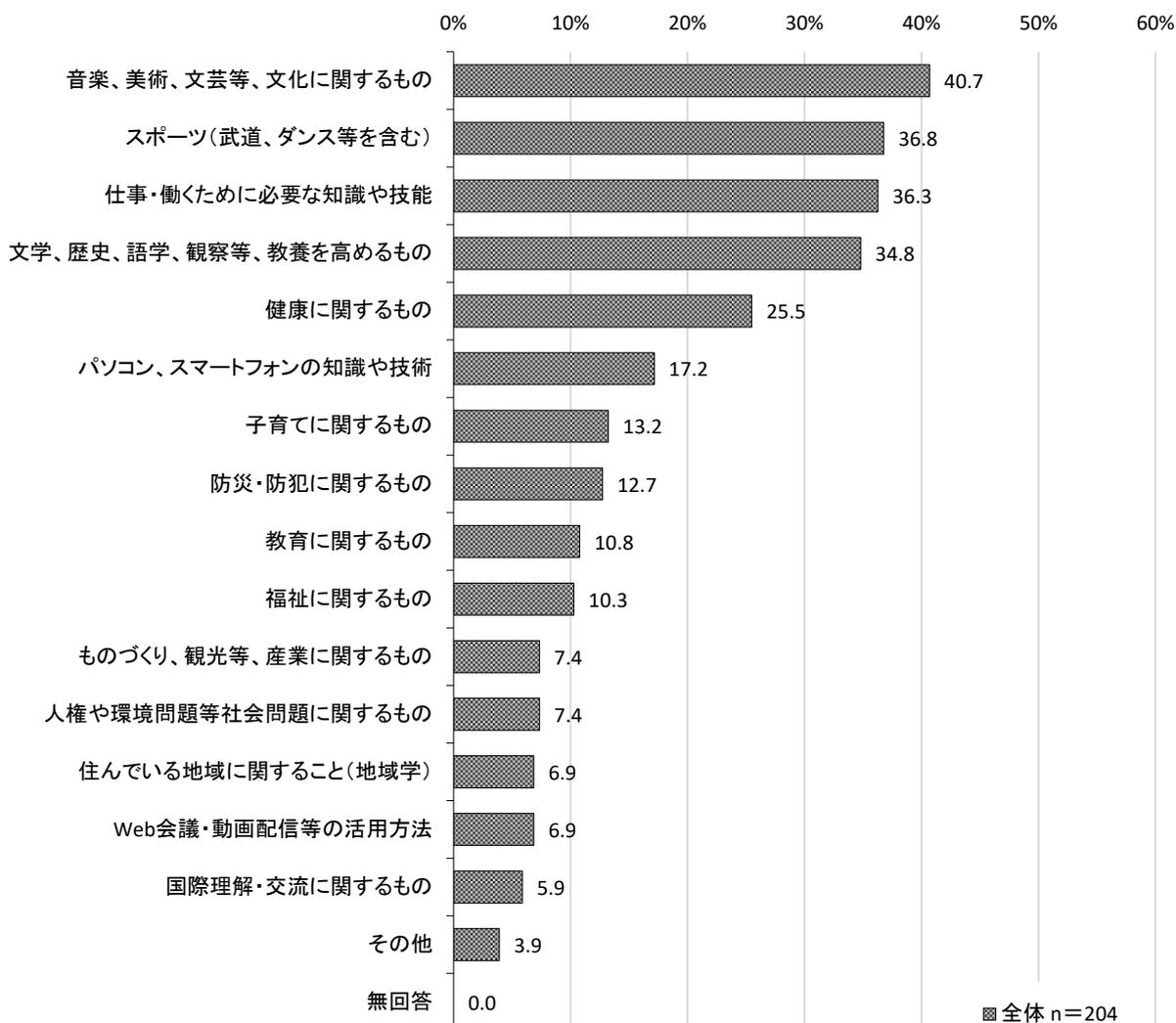
(2) 最近1年間で行った生涯学習

◇「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が4割前半で最も高くなっている

【問7で「1 ある」と回答した方に伺います。】

問7-1 最近1年間にどのような生涯学習を行いましたか。(複数回答可)

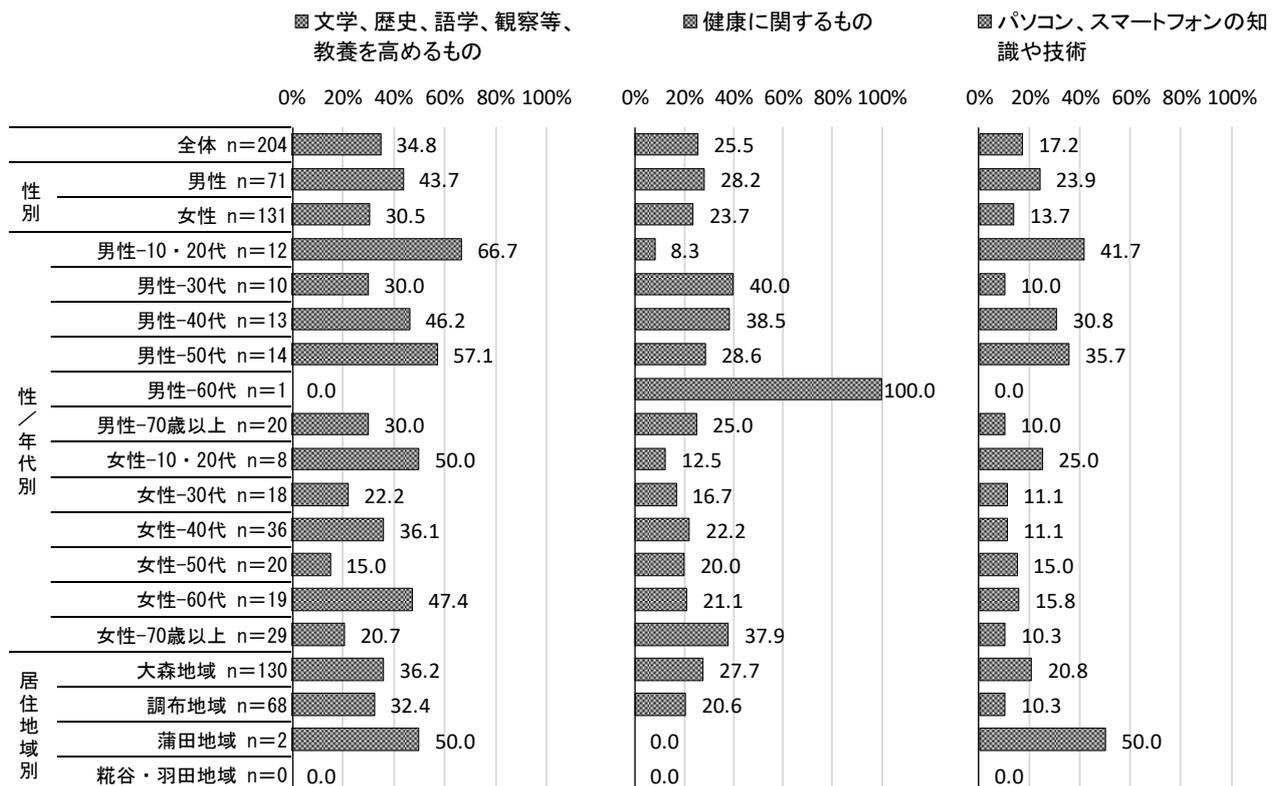
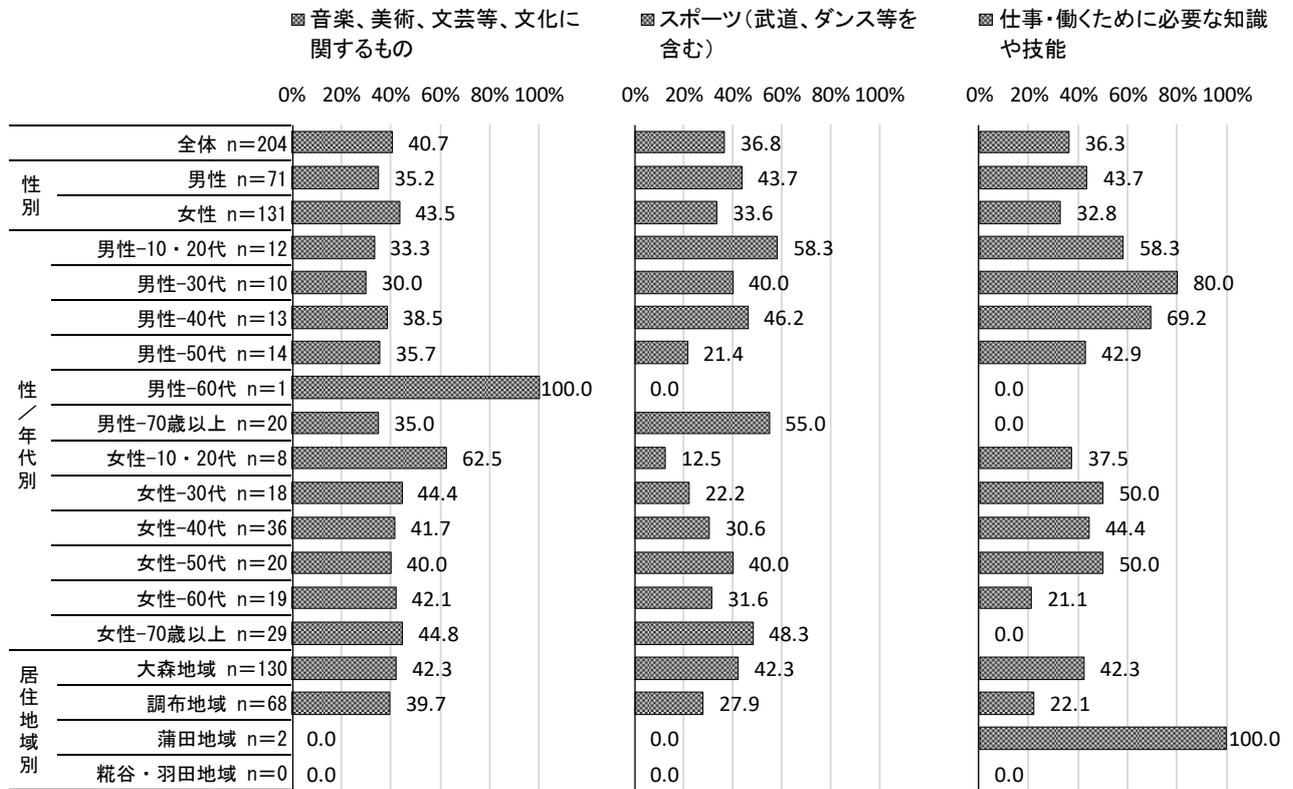
最近1年間で行った生涯学習については、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が40.7%で最も高く、次いで「スポーツ(武道、ダンス等を含む)」が36.8%、「仕事・働くために必要な知識や技能」が36.3%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性では「スポーツ（武道、ダンス等を含む）」、「仕事・働くために必要な知識や技能」、「文学、歴史、語学、観察等、教養を高めるもの」が、女性では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が最も高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」、「スポーツ（武道、ダンス等を含む）」、「仕事・働くために必要な知識や技能」が最も高くなっている。



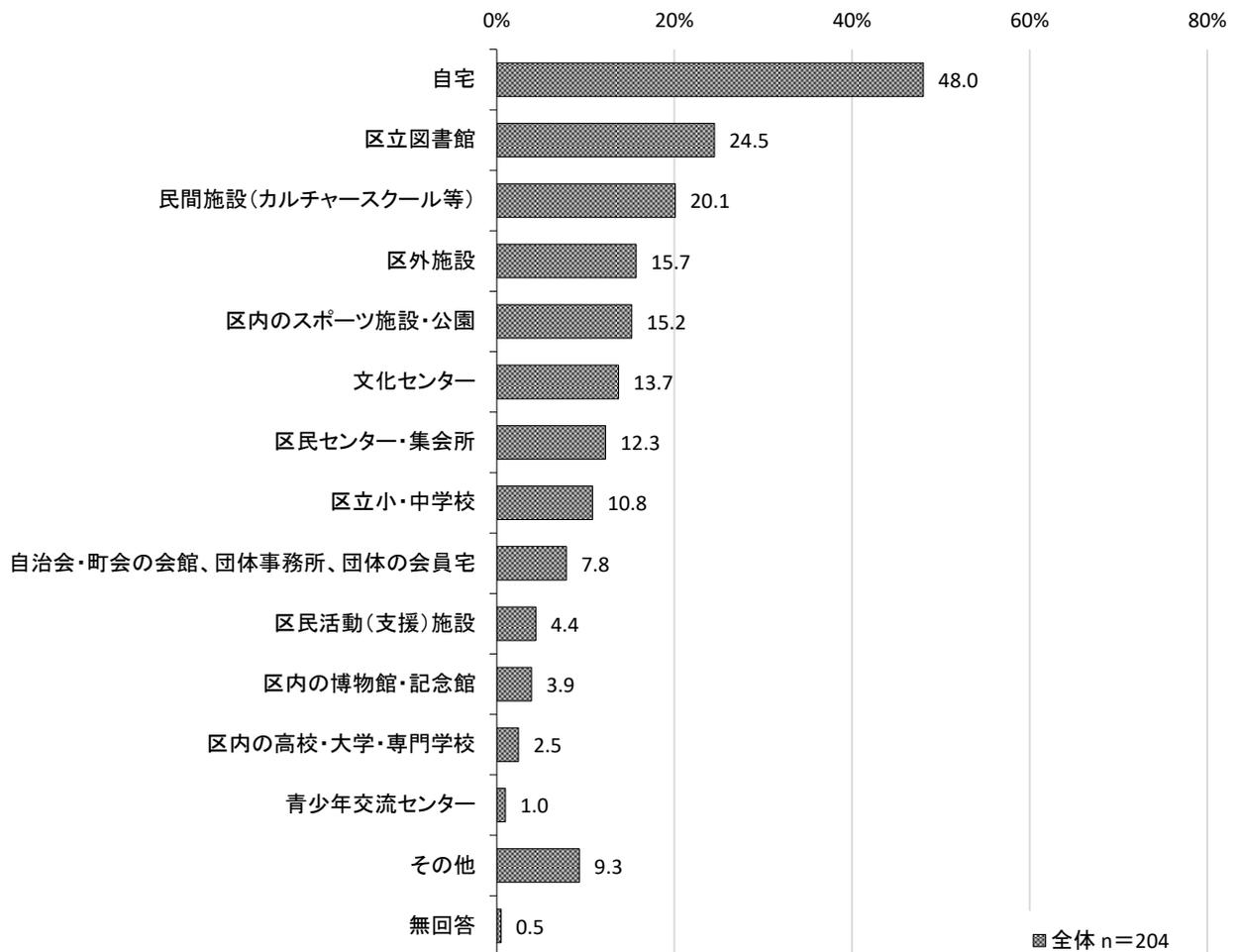
(3) 生涯学習の活動場所

◇「自宅」が4割後半で最も高くなっている

【問7で「1 ある」と回答した方に伺います。】

問7-2 生涯学習を行っている場所はどこですか。(複数回答可)

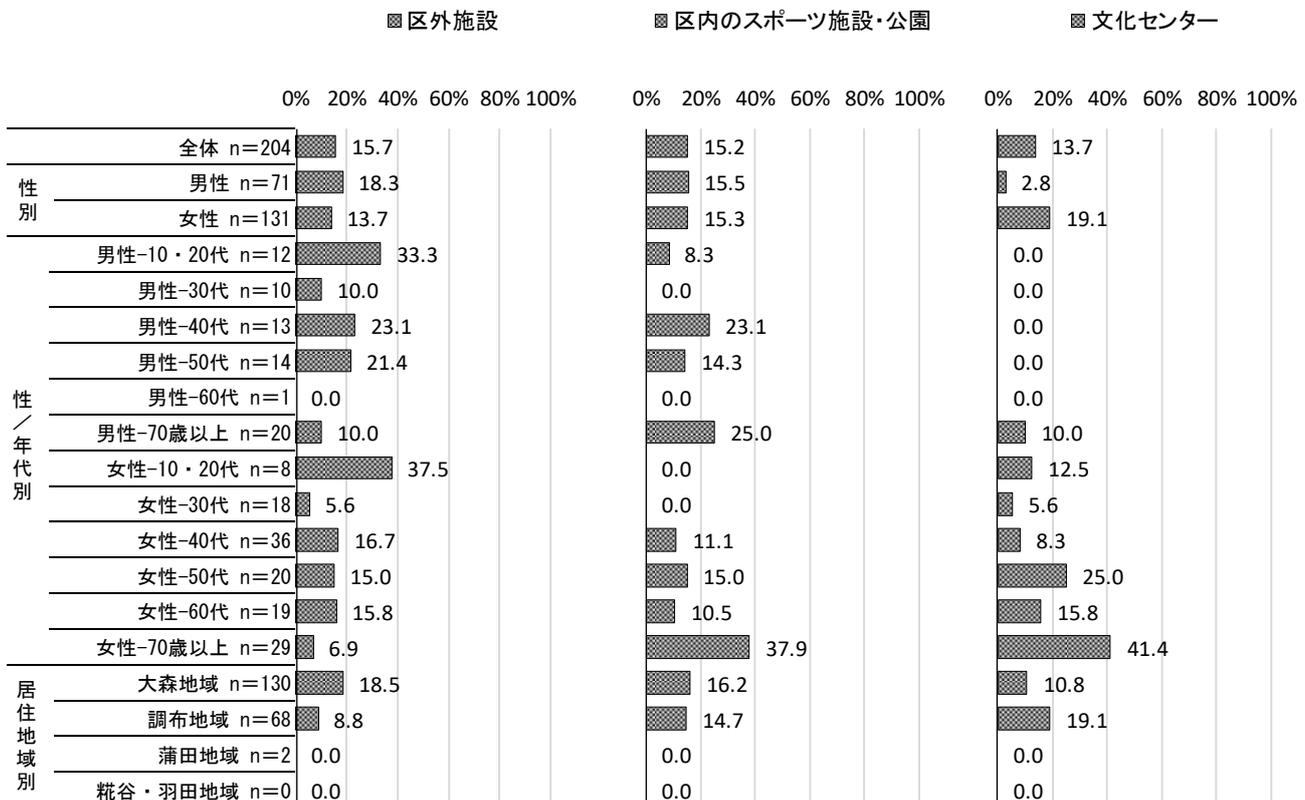
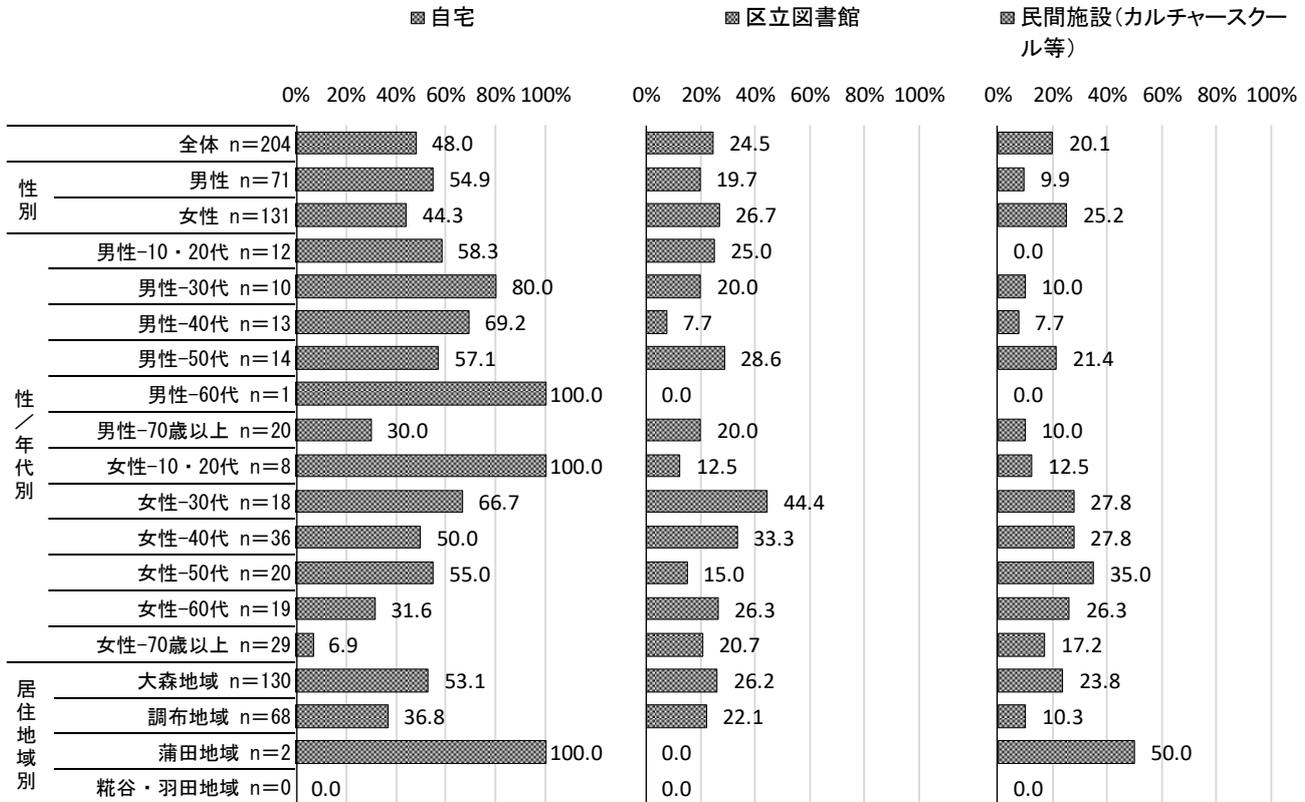
生涯学習の活動場所については、「自宅」が48.0%で最も高く、次いで「区立図書館」が24.5%、「民間施設(カルチャースクール等)」が20.1%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「自宅」が最も高く、男性が54.9%、女性が44.3%と、男性が10.6ポイント上回っている。

居住地域別でみると、「自宅」は大森地域で5割前半と高くなっている。



(4) オンラインによる生涯学習の有無

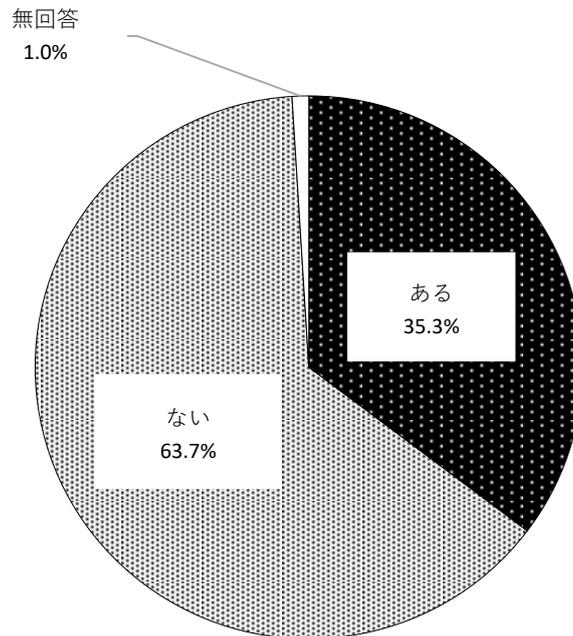
◇「ある」は3割半ばとなっている

【問7で「1 ある」と回答した方に伺います。】

問7-3 オンラインで生涯学習を行ったことがありますか。(1つのみ)

オンラインによる生涯学習の有無については、「ある」が35.3%、「ない」が63.7%と、「ない」が28.4ポイント上回っている。

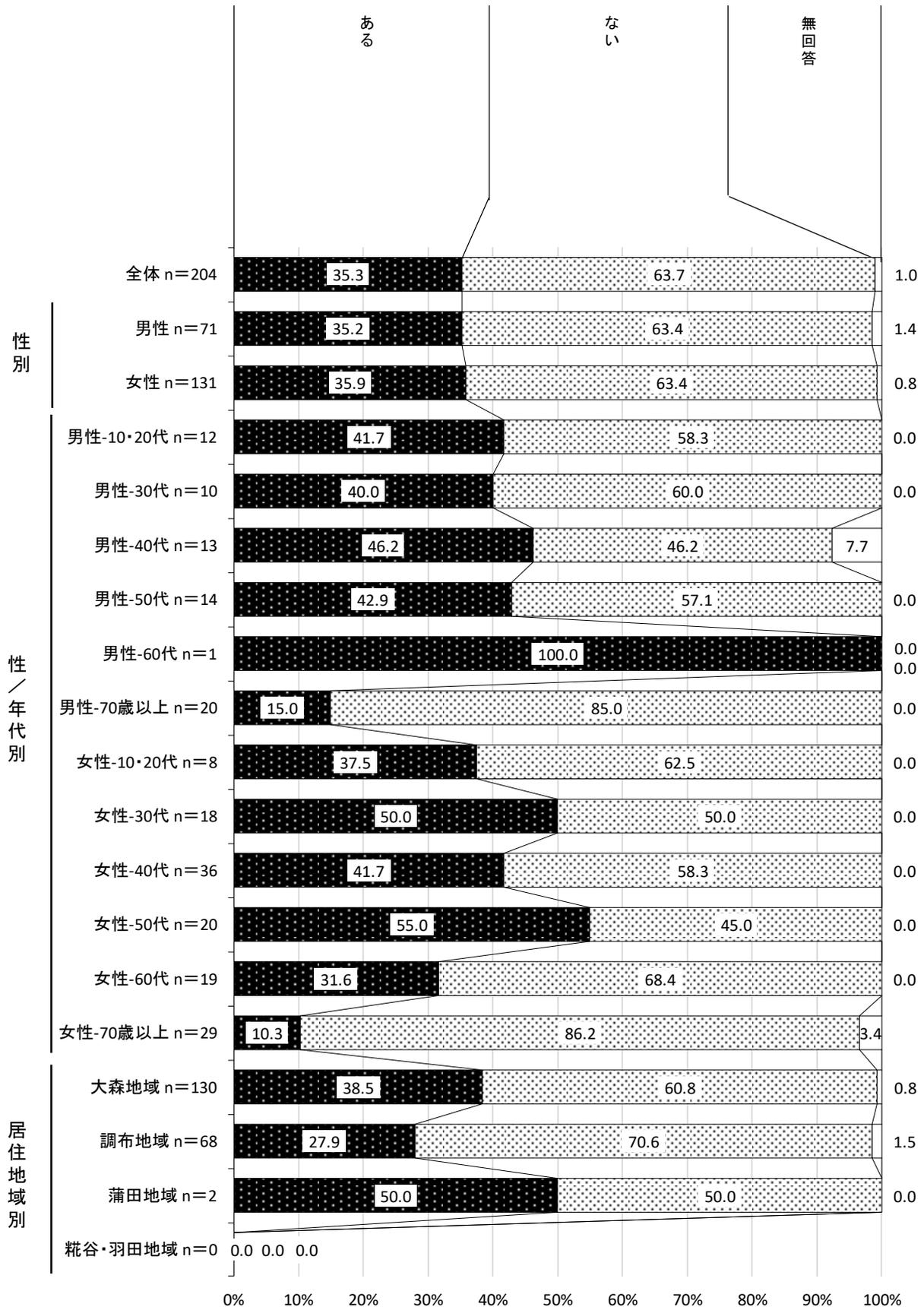
全体 n=204



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

居住地域別でみると、「ある」は大森地域で3割後半と高くなっている。



(5) 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を生かしていること

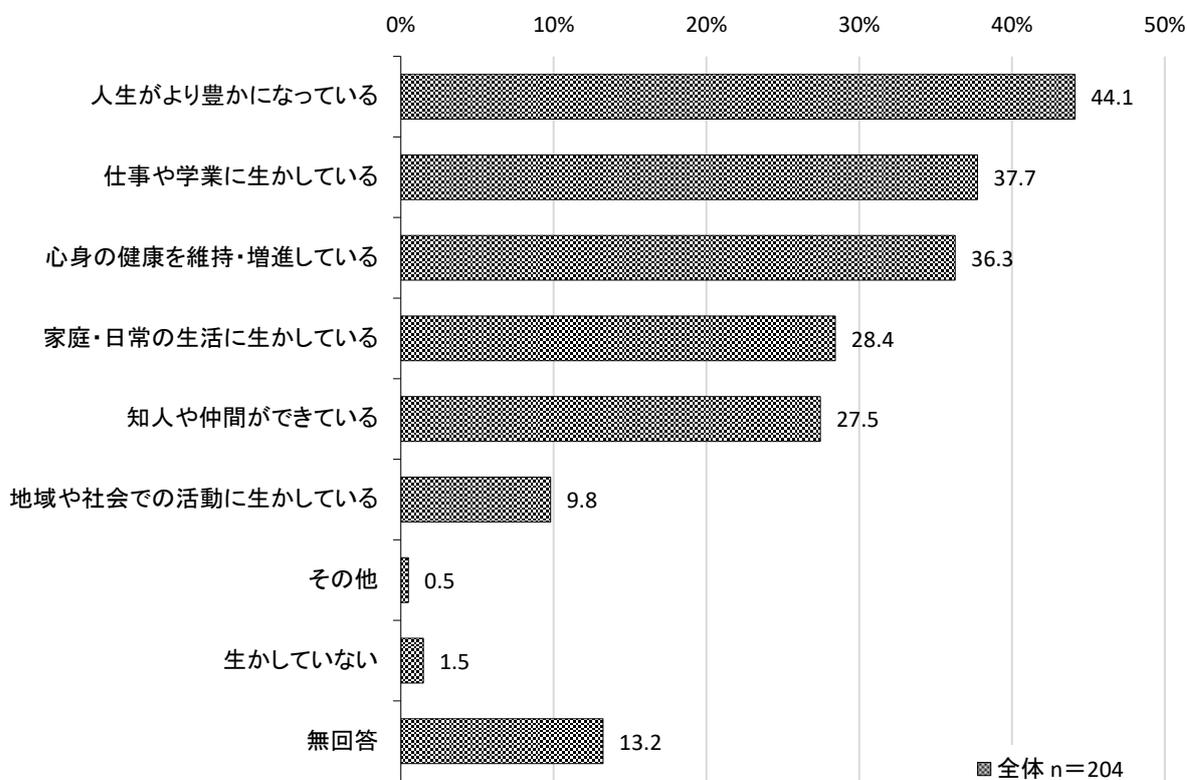
◇「人生がより豊かになっている」が4割前半で最も高くなっている

【問7で「1 ある」と回答した方に伺います。】

問7-4 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように生かしていますか。
(複数回答可)

生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を生かしていることについては、「人生がより豊かになっている」が44.1%で最も高く、次いで「仕事や学業に生かしている」が37.7%、「心身の健康を維持・増進している」が36.3%となっている。

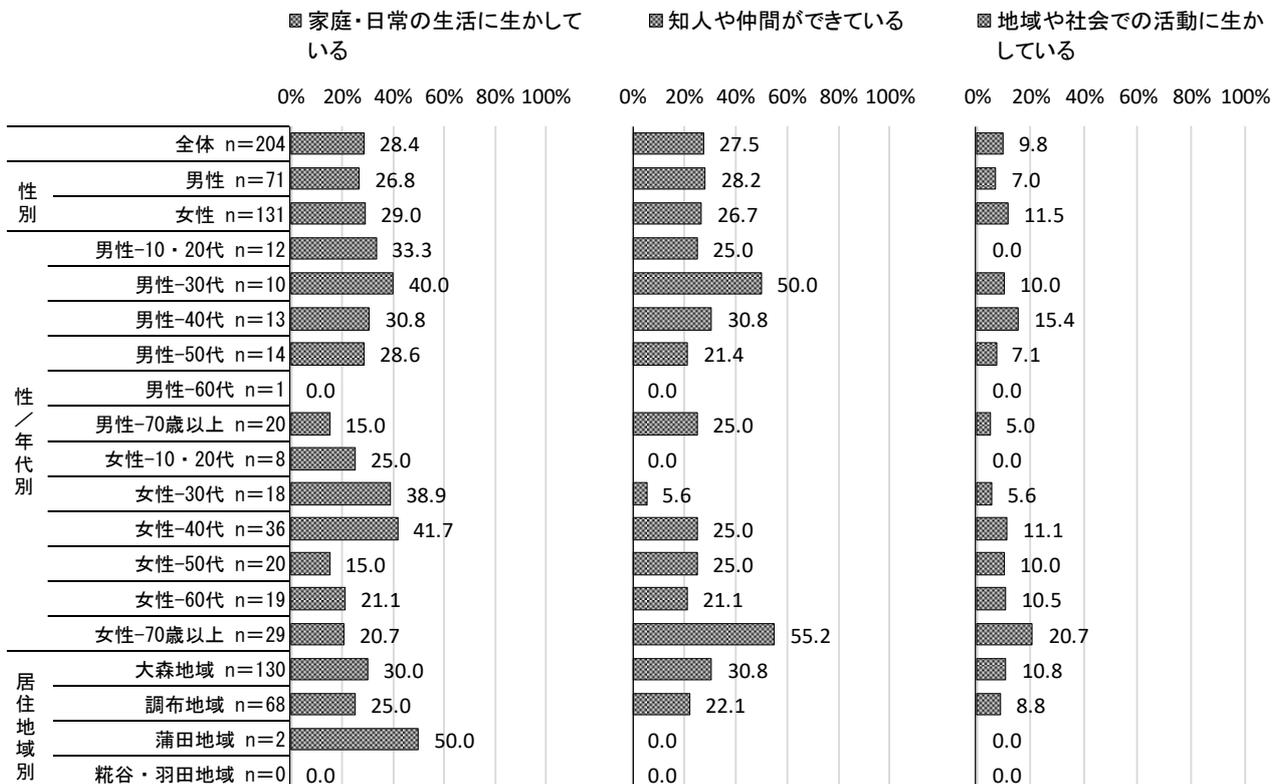
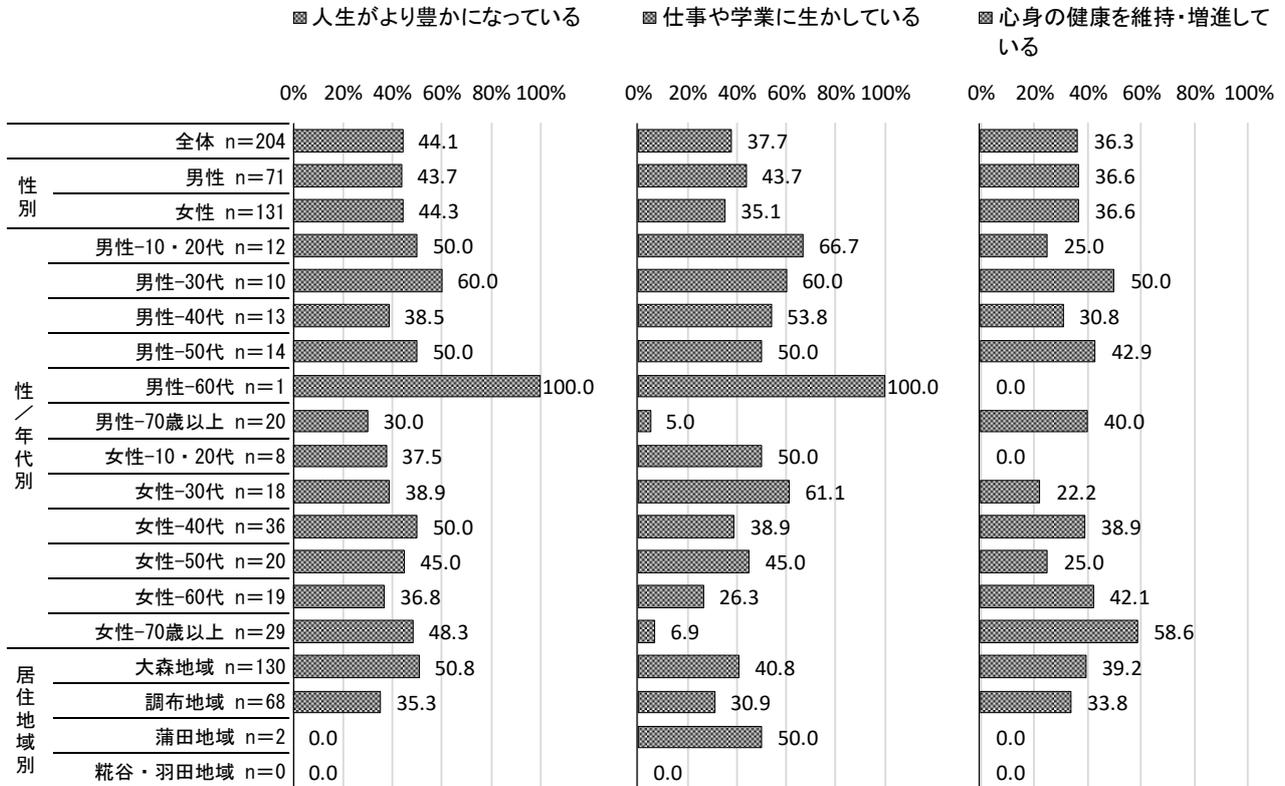
なお、「生かしていない」は1.5%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性では「人生がより豊かになっている」、「仕事や学業に生かしている」が43.7%、女性では「人生がより豊かになっている」が44.3%で最も高くなっている。「仕事や学業に生かしている」は男性が43.7%、女性が35.1%と、男性が8.6ポイント上回っている。

居住地域別でみると、「人生がより豊かになっている」は大森地域で5割前半と高くなっている。

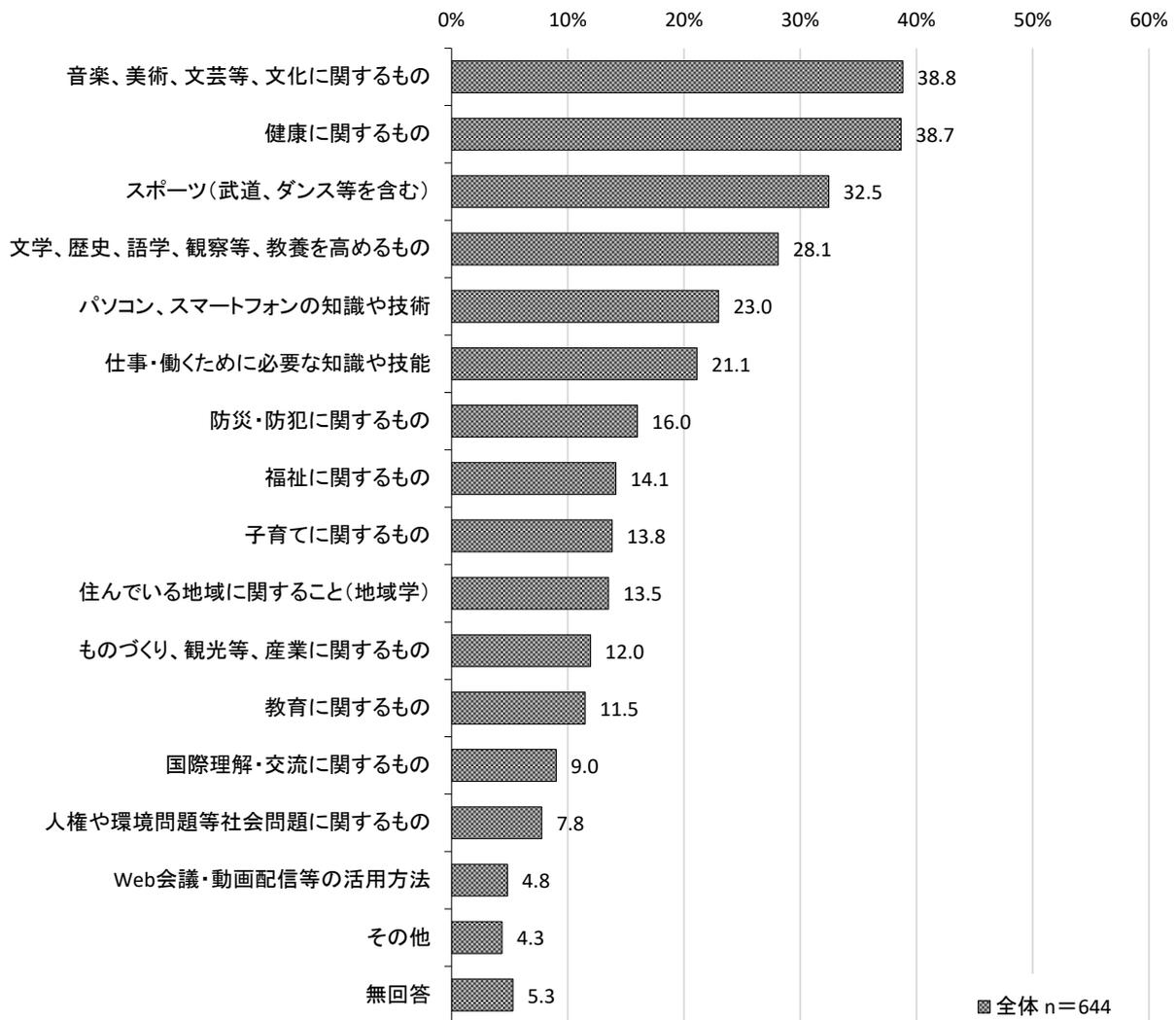


(6) 今後行いたい生涯学習

◇「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」、「健康に関するもの」が3割後半で最も高くなっている

問8 今後行いたい生涯学習の内容をお答えください。(複数回答可)

今後行いたい生涯学習については、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が38.8%で最も高く、次いで「健康に関するもの」が38.7%、「スポーツ(武道、ダンス等を含む)」が32.5%となっている。

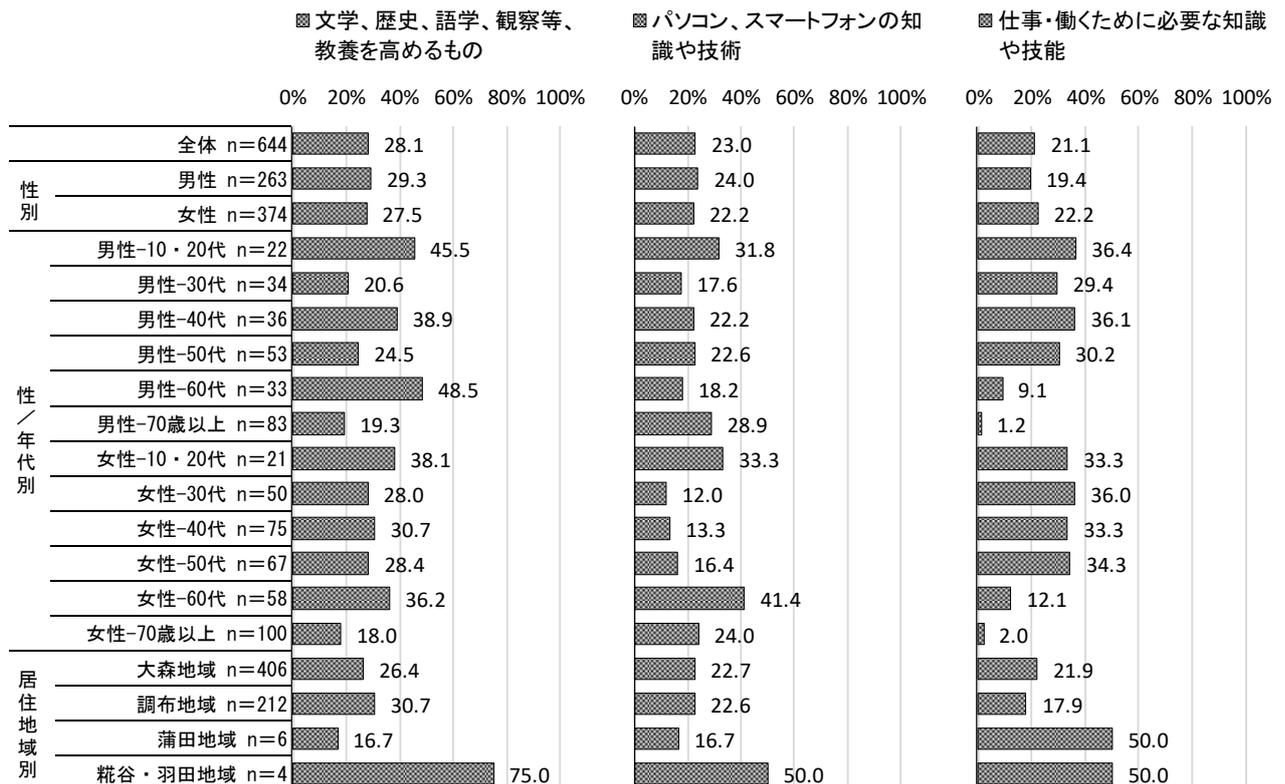
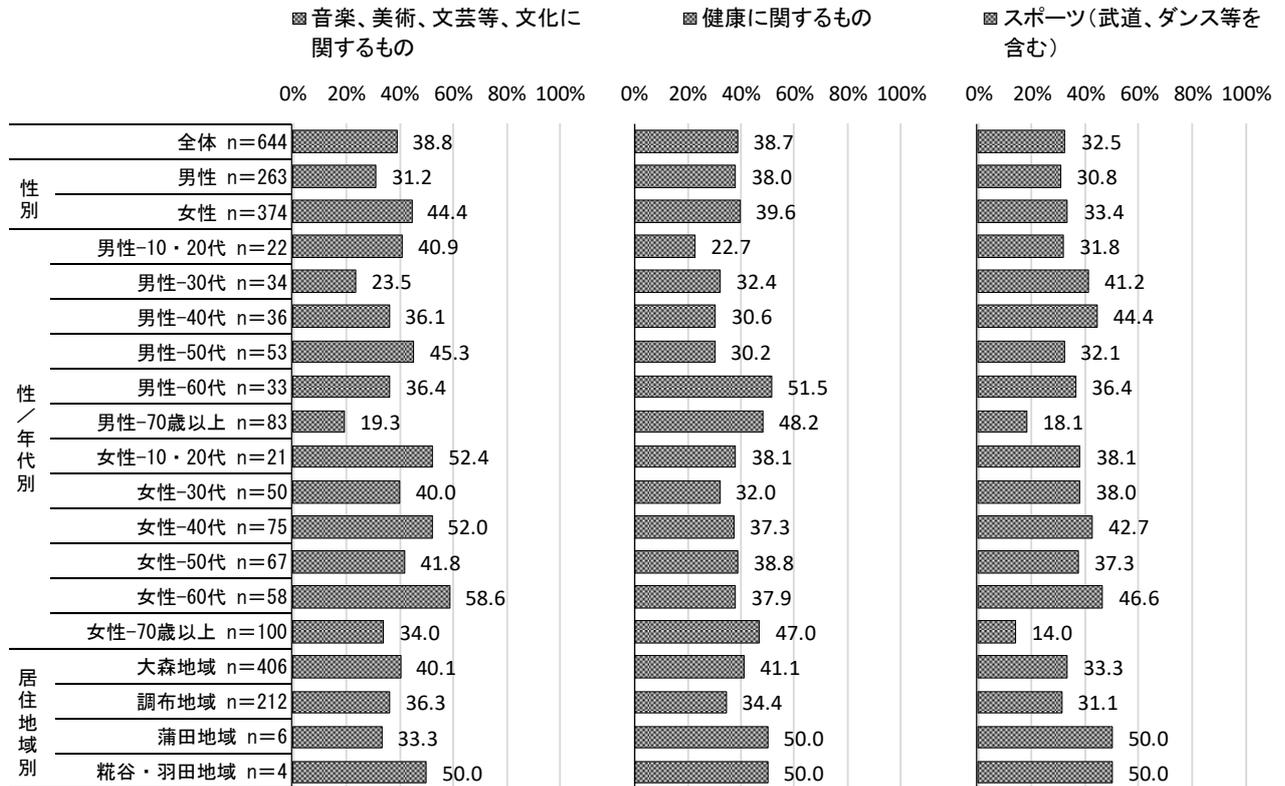


■性別・性/年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性は「健康に関するもの」が、女性は「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が最も高くなっている。

性/年代別でみると、男性60代では「健康に関するもの」が5割前半、「文学、歴史、語学、観察等、教養を高めるもの」が4割後半と高くなっている。女性60代では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が5割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。

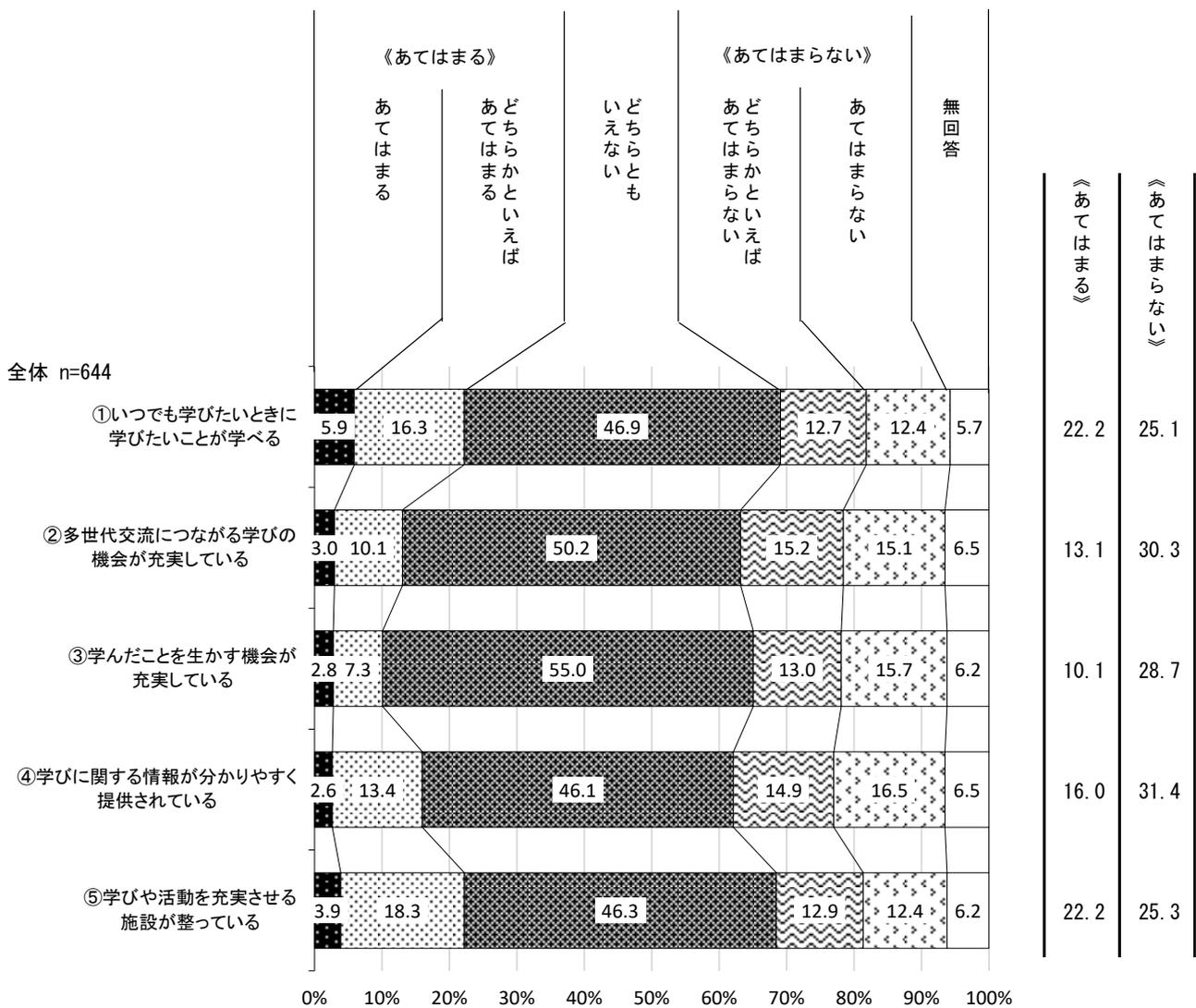


(7) 生涯学習の満足度

◇《あてはまる》(「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値)は「①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる」、「⑤学びや活動を充実させる施設が整っている」が2割前半で高くなっている

問9 現在の大田区の生涯学習について、以下の項目はどの程度あてはまりますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。

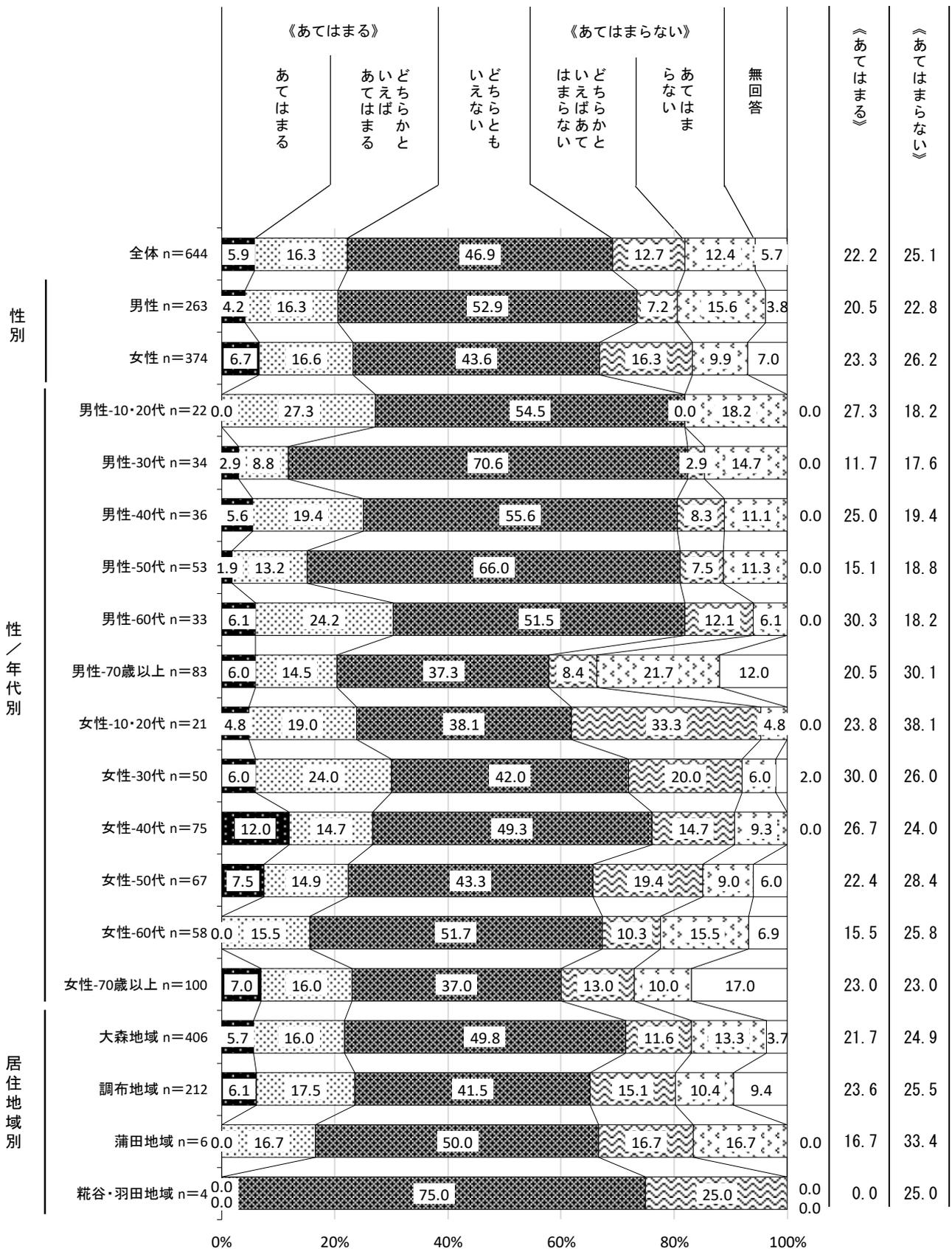
現在の大田区の生涯学習については、「①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる」、「⑤学びや活動を充実させる施設が整っている」が22.2%で最も高く、次いで「④学びに関する情報が分かりやすく提供されている」が16.0%、「②多世代交流につながる学びの機会が充実している」が13.1%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別_①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる

性別でみると、《あてはまる》は男性が20.5%、女性が23.3%と、大きな差はみられない。

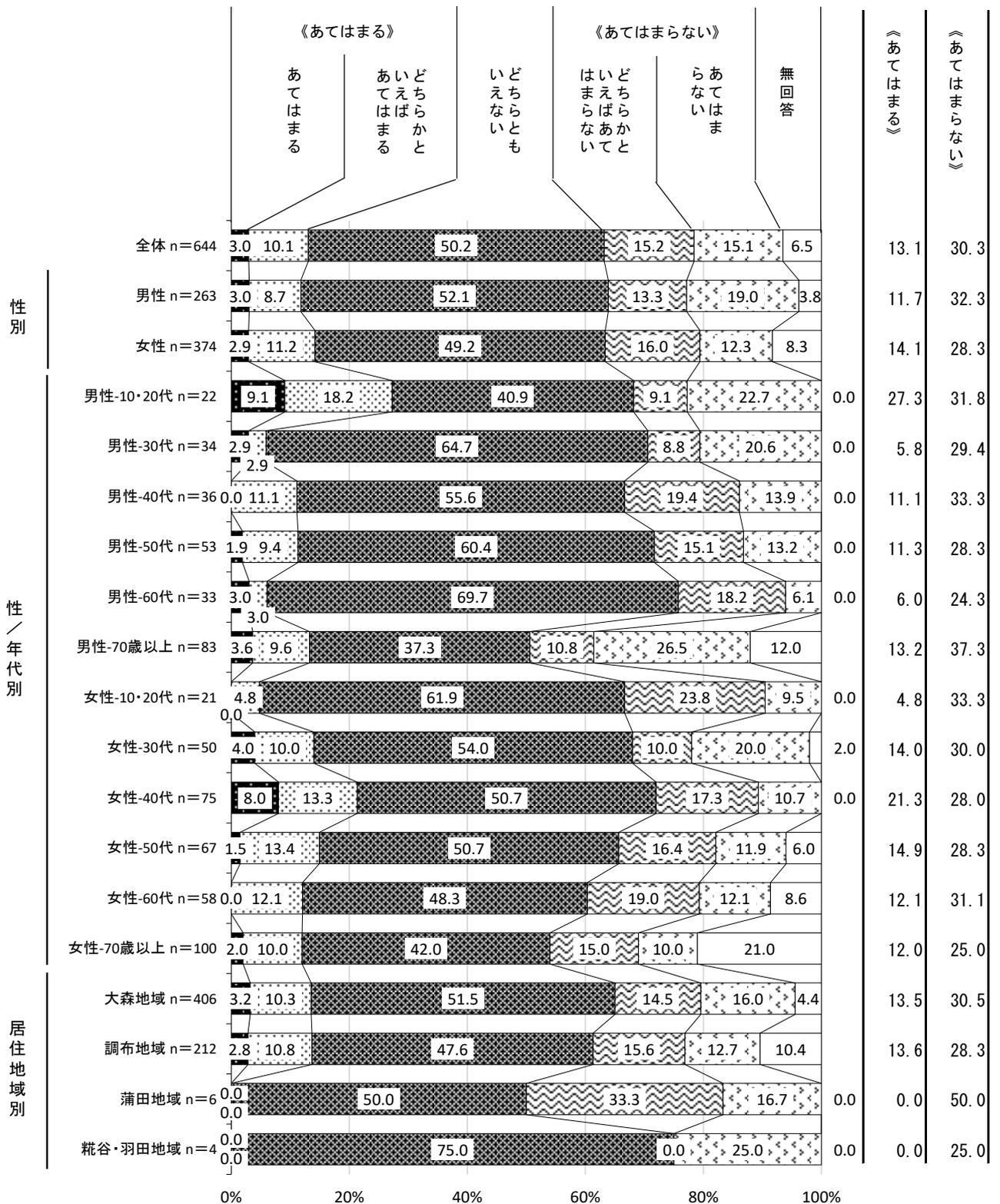
性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では60代で約3割、女性では30代で3割と高くなっている。



■性別・性/年代別・居住地域別_②多世代交流につながる学びの機会が充実している

性別で見ると、《あてはまる》は男性が11.7%、女性が14.1%と、大きな差はみられない。

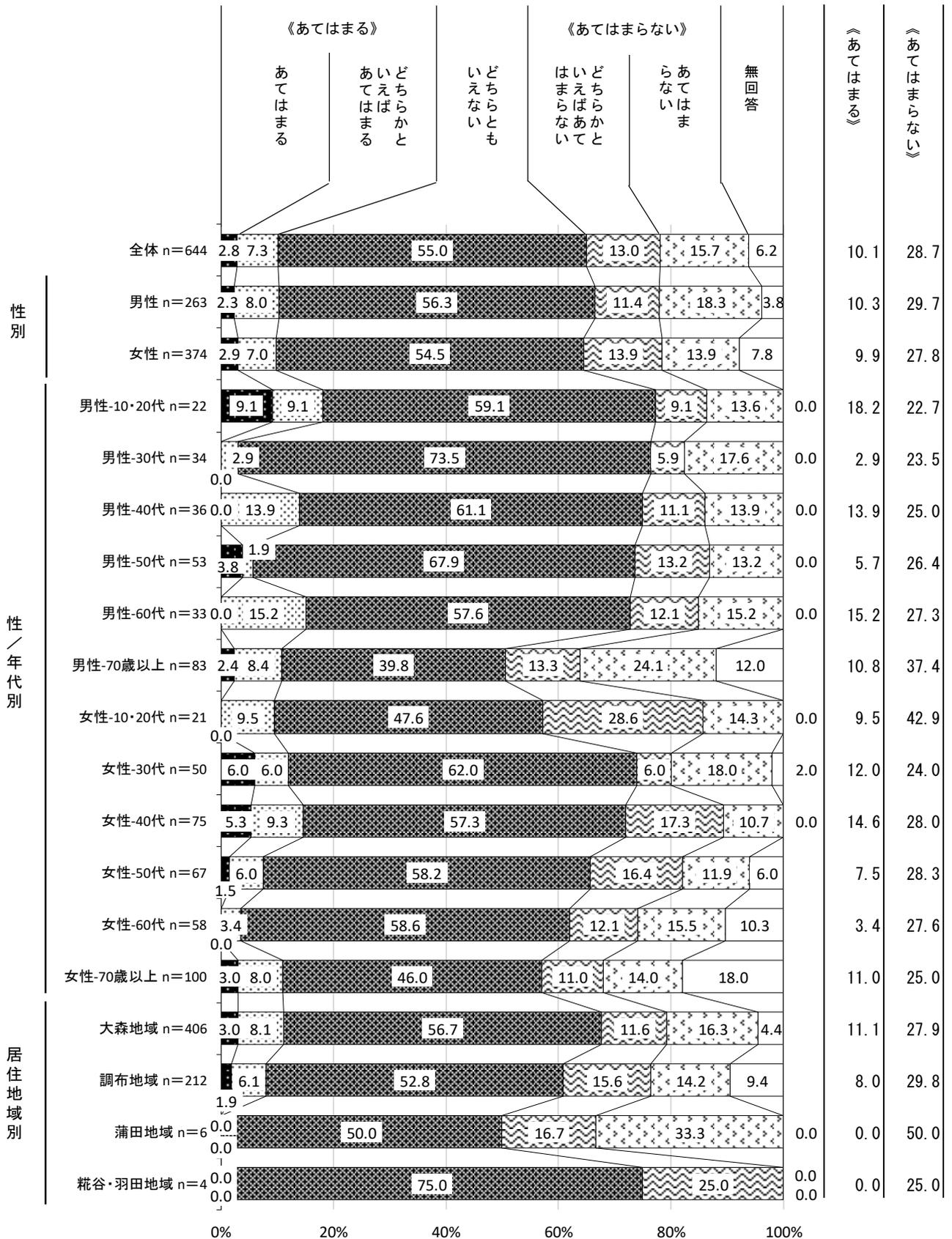
性/年代別で見ると、《あてはまる》は男性では70歳以上で1割前半、女性では40代で2割前半と高くなっている。



■性別・性/年代別・居住地域別_③学んだことを生かす機会が充実している

性別でみると、《あてはまる》は男性が10.3%、女性が9.9%と、大きな差はみられない。

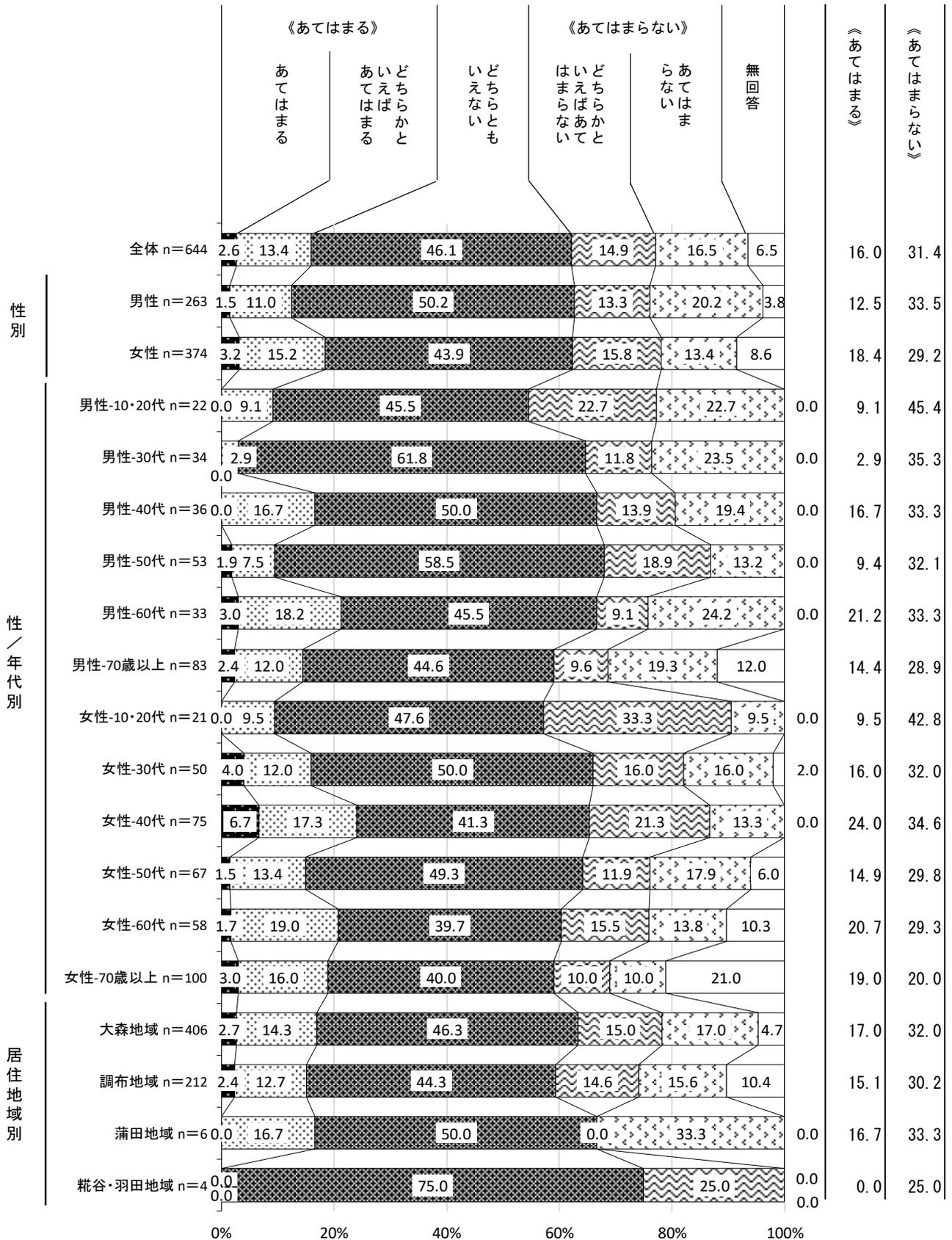
性/年代別でみると、《あてはまる》は男性では60代が1割半ば、女性では40代が1割前半と高くなっている。



■性別・性/年代別・居住地域別_④学びに関する情報が分かりやすく提供されている

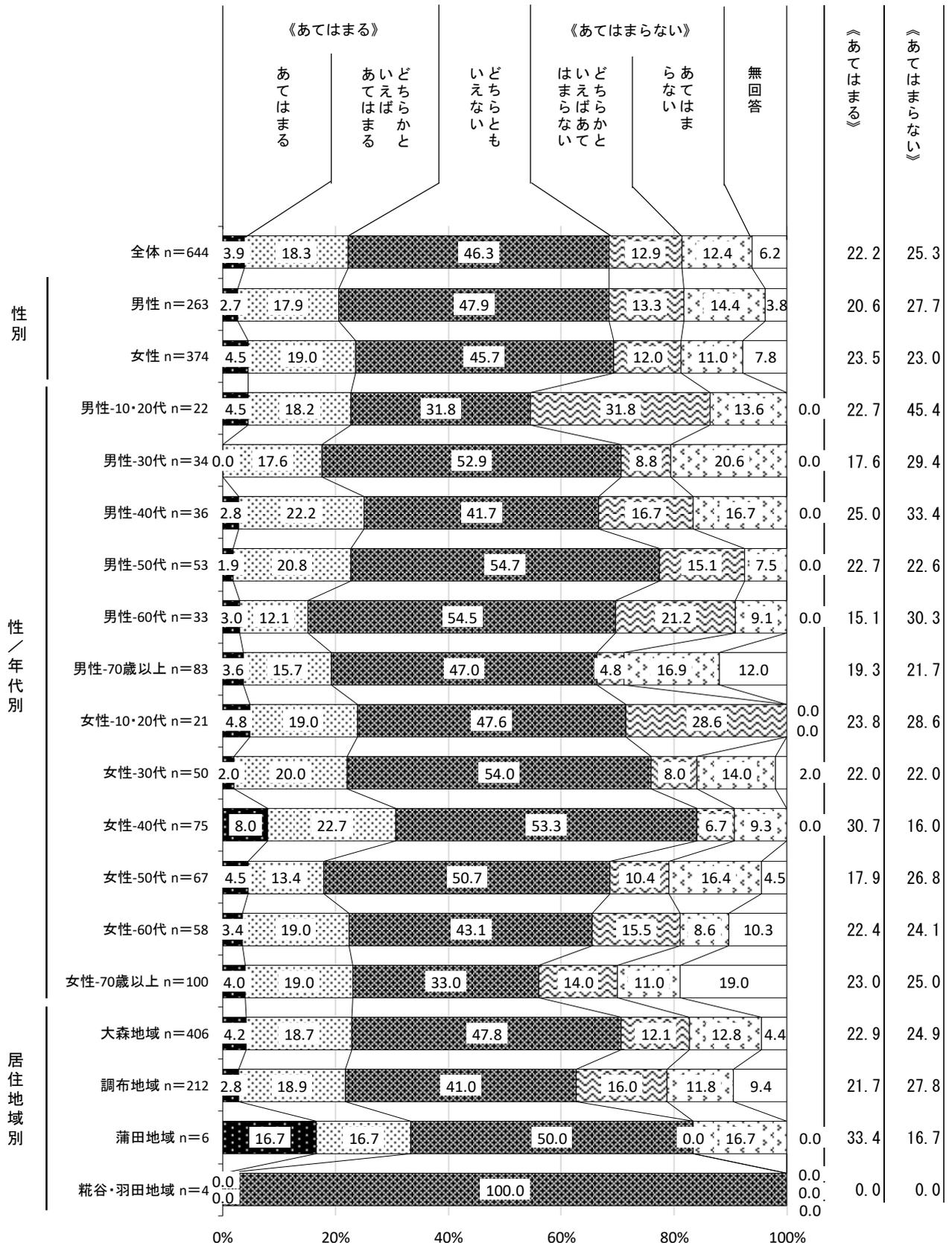
性別でみると、《あてはまる》は男性が12.5%、女性が18.4%と、女性が5.9ポイント上回っている。

性/年代別でみると、《あてはまる》は男性では60代で2割前半、女性では40代で2割前半と高くなっている。



■性別・性/年代別・居住地域別_⑤学びや活動を充実させる施設が整っている

性別でみると、《あてはまる》は男性が20.6%、女性が23.5%と女性が2.9ポイント上回っている。
 性/年代別でみると、《あてはまる》は男性では40代で2割半ば、女性では40代で3割前半と高くなっている。



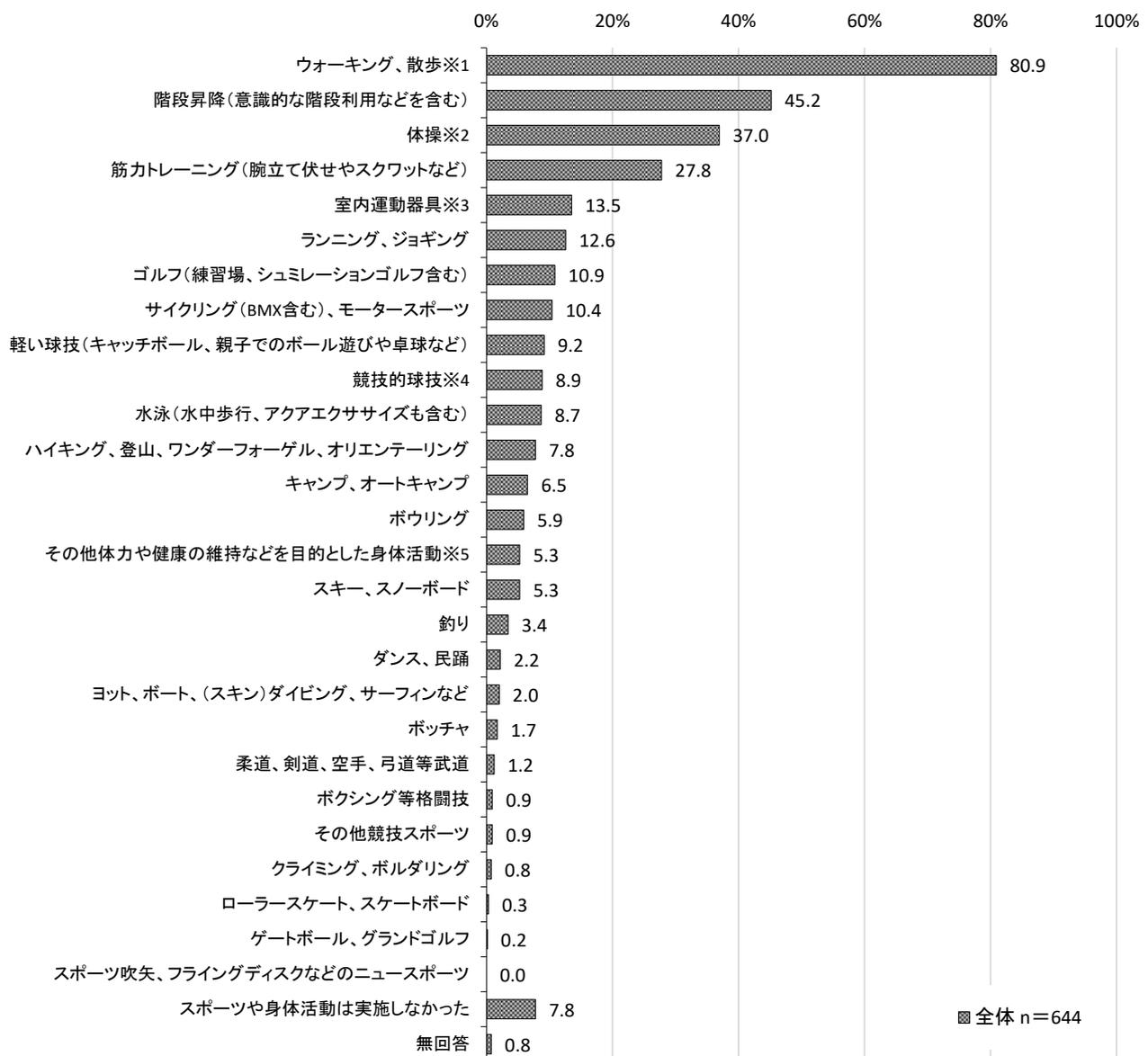
4 スポーツ・運動について

(1) この1年間に実施したスポーツ・運動

◇「ウォーキング、散歩」が8割前半で最も高くなっている

問 10 この1年間に実施したスポーツや運動をすべて選択してください。(複数選択可)

この1年間に実施したスポーツ・運動については、「ウォーキング、散歩」が80.9%で最も高く、次いで「階段昇降（意識的な階段利用などを含む）」が45.2%、「体操」が37.0%となっている。
 なお、「スポーツや身体活動は実施しなかった」は7.8%となっている。

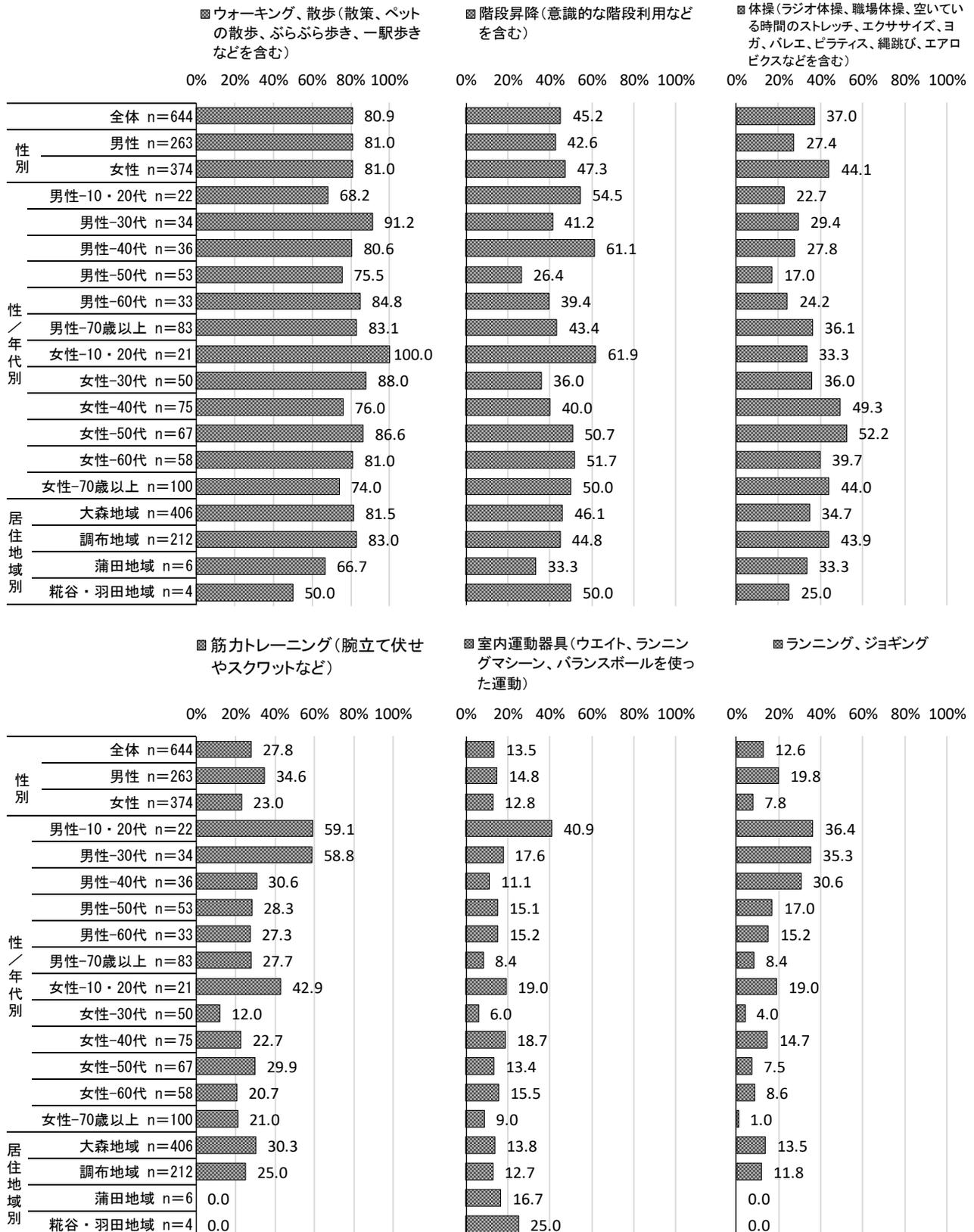


※1 ウォーキング、散歩（散歩、ペットの散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなどを含む）
 ※2 体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、エクササイズ、ヨガ、バレエ、ピラティス、縄跳び、エアロビクスなどを含む）
 ※3 室内運動器具（ウエイト、ランニングマシン、バランスボールを使った運動）
 ※4 競技的球技（野球、サッカー、卓球、テニス、バレーボール、バドミントンなど）
 ※5 その他体力や健康の維持向上、介護予防、ストレスの解消を目的としたスポーツ、身体活動

■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「ウォーキング、散歩」が最も高くなっている。「体操」は男性が27.4%、女性が44.1%と、女性が16.7ポイント上回っている。

性／年代別でみると、すべての年代で「ウォーキング、散歩」が最も高く、男性では30代で9割前半、女性では30代、50代で8割後半と高くなっている。「階段昇降」は男性40代が6割前半、「体操」は女性50代が5割前半と高くなっている。



(2) この1年間のスポーツ・運動の活動頻度

◇「週に3日以上（年151日以上）」が3割後半で最も高くなっている

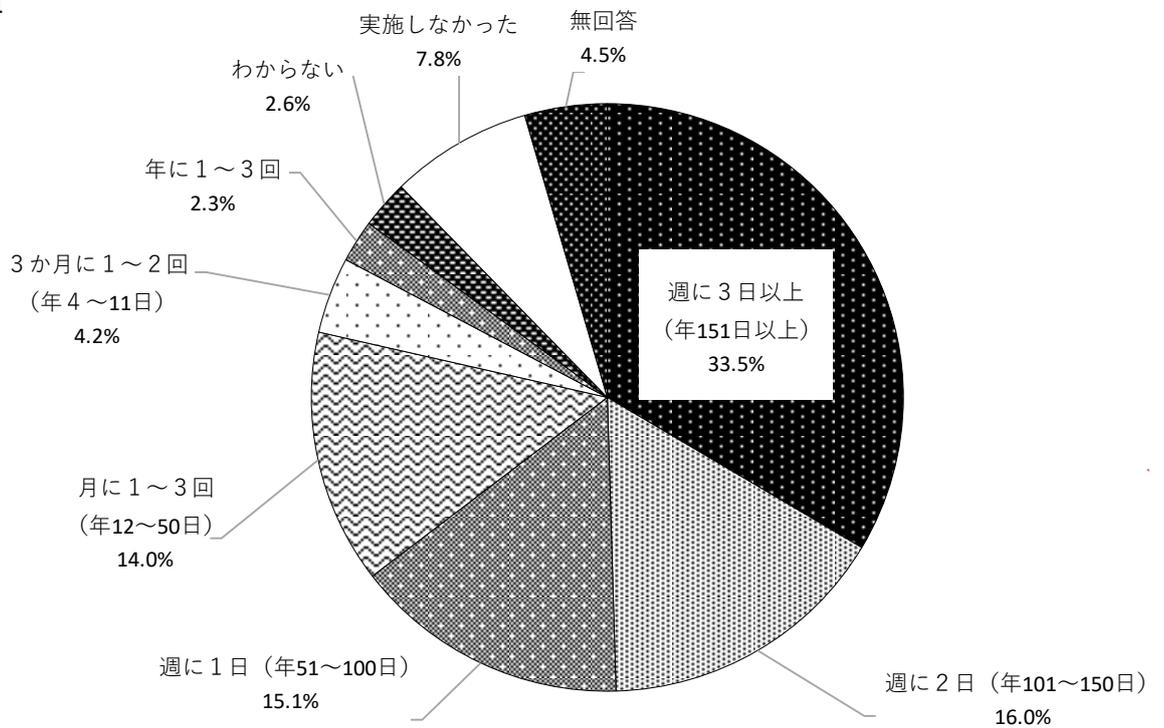
【問10で「28 スポーツや身体活動は実施しなかった」「以外」を回答した方に伺います。】

問10-1 そのスポーツや運動を実施した頻度は週どのくらいですか。（1つのみ）

※年間合計日数でも可

この1年間のスポーツ・運動の活動頻度については、「週に3日以上（年151日以上）」が33.5%で最も高く、次いで「週に2日（年101～150日）」が16.0%、「週に1日（年51～100日）」が15.1%となっている。

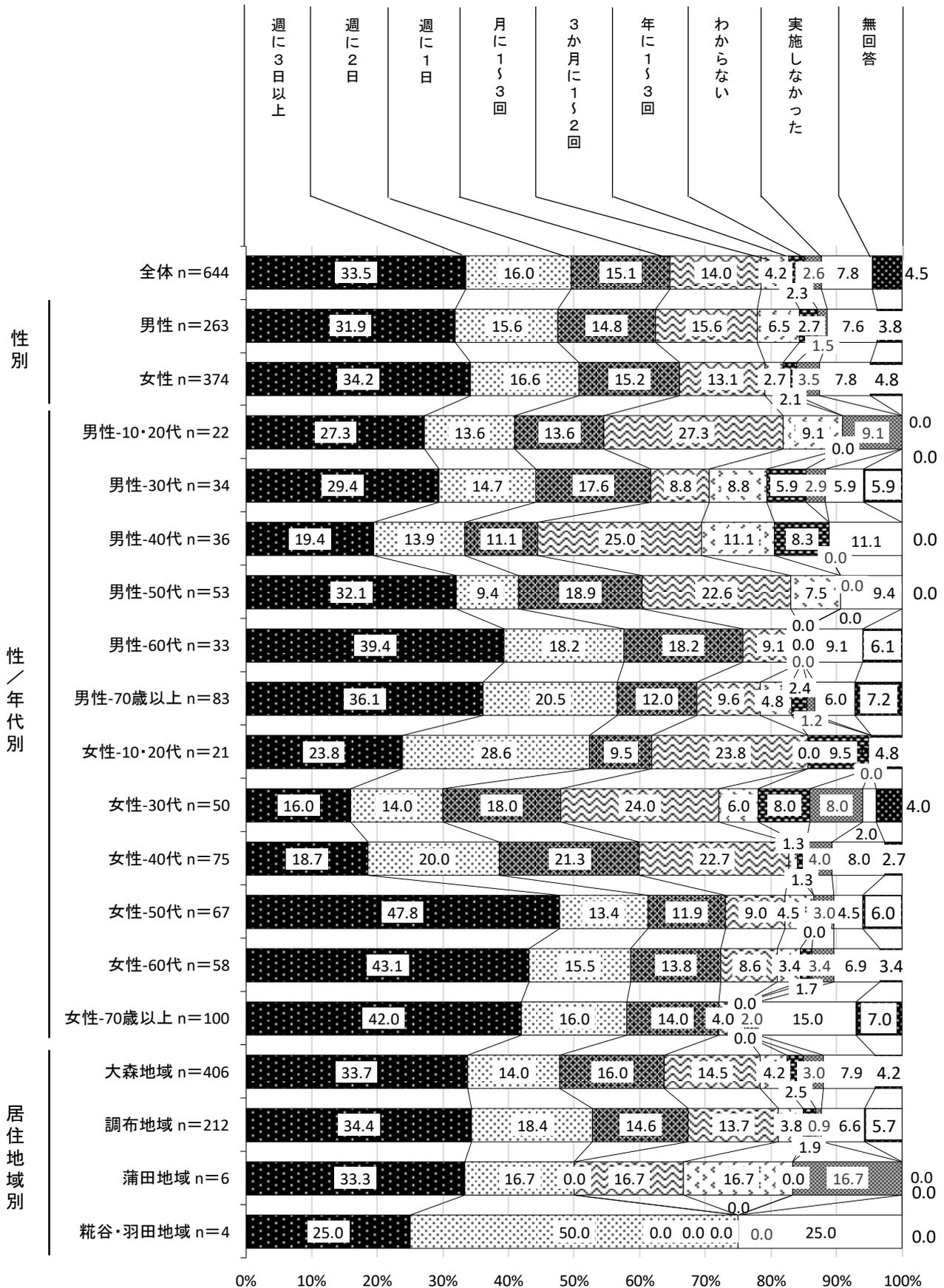
全体 n=644



■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性/年代別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」は男性では60代で3割後半、女性では50代で4割後半と高くなっている。



(3) 運動を始める(再開する)ために必要なこと

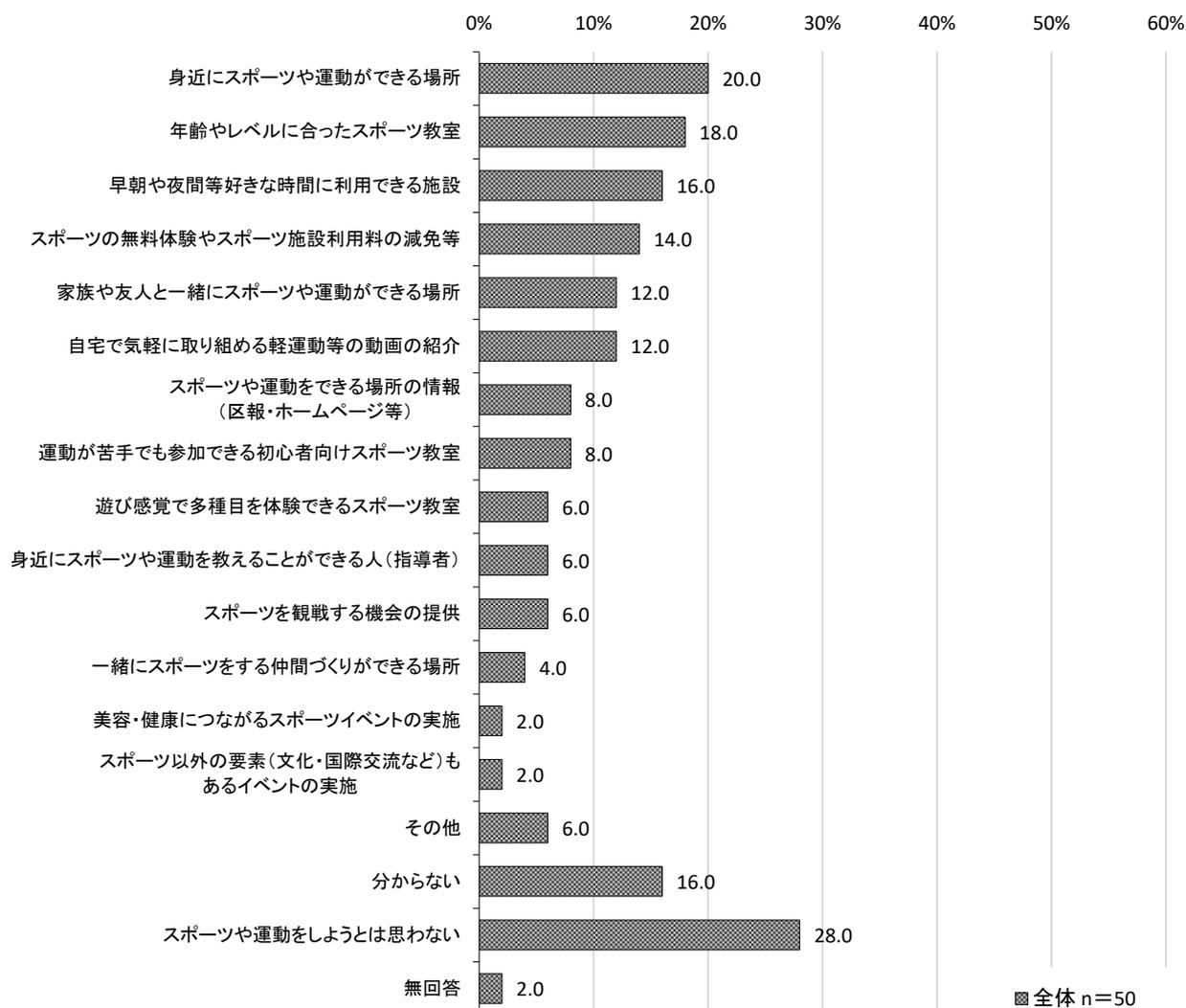
◇「身近にスポーツや運動ができる場所」が2割で最も高くなっている

【問10で「28 スポーツや身体活動は実施しなかった」と回答した方に伺います

問10-2 スポーツや運動を始める(再開する)ためには何が必要だと思いますか。(複数選択可)

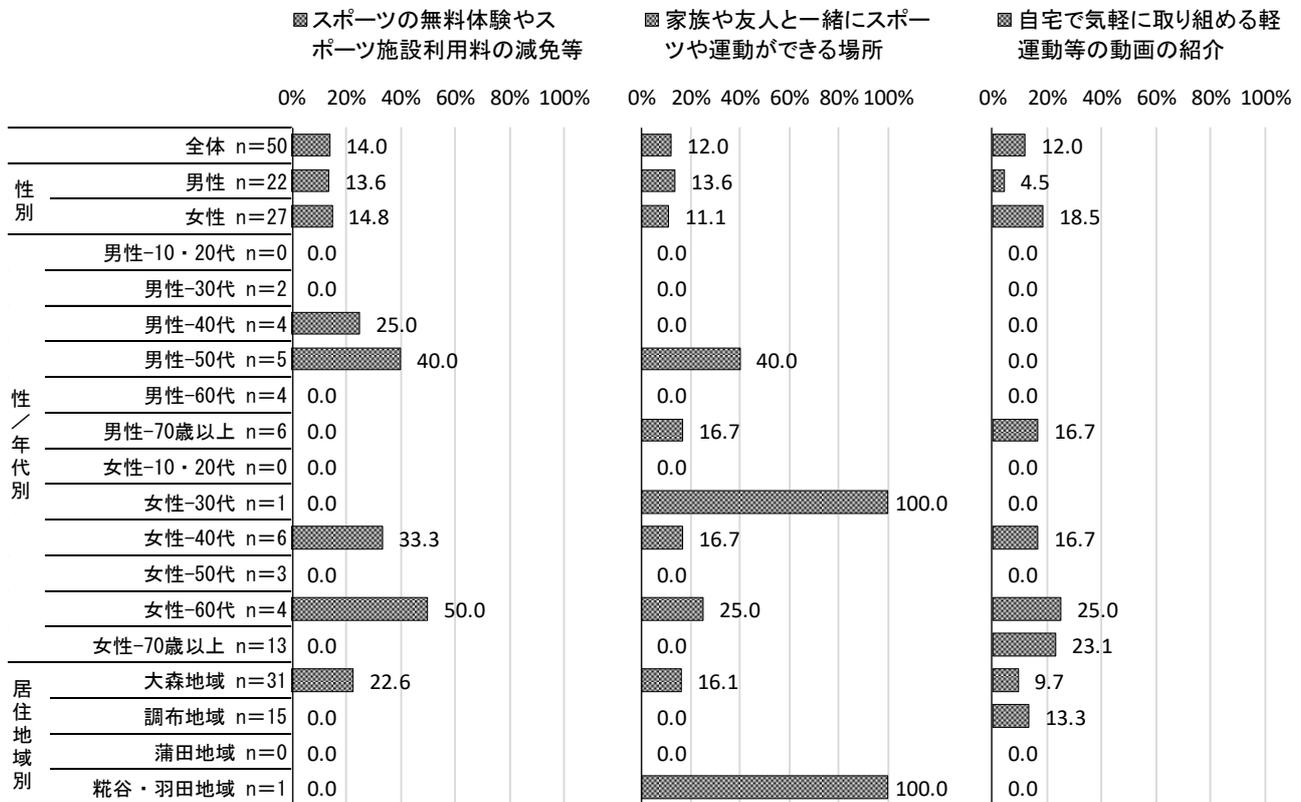
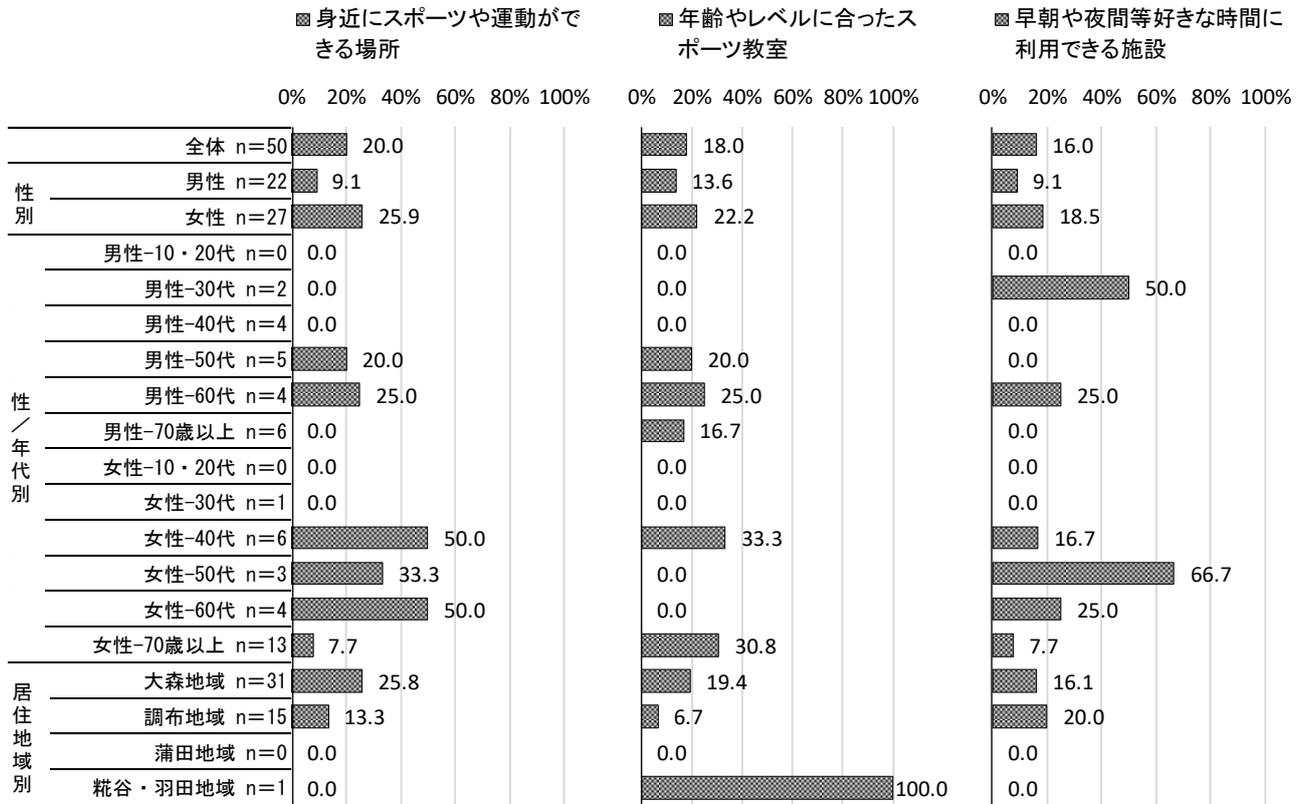
スポーツや運動を始める(再開する)ために必要なことについては、「身近にスポーツや運動ができる場所」が20.0%で最も高く、次いで「年齢やレベルに合ったスポーツ教室」が18.0%、「早朝や夜間等好きな時間に利用できる施設」が16.0%となっている。

なお、「スポーツや運動をしようとは思わない」は28.0%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、「身近にスポーツや運動ができる場所」は男性では9.1%、女性では25.9%と女性が16.8ポイント上回っている。



5 文化・芸術について

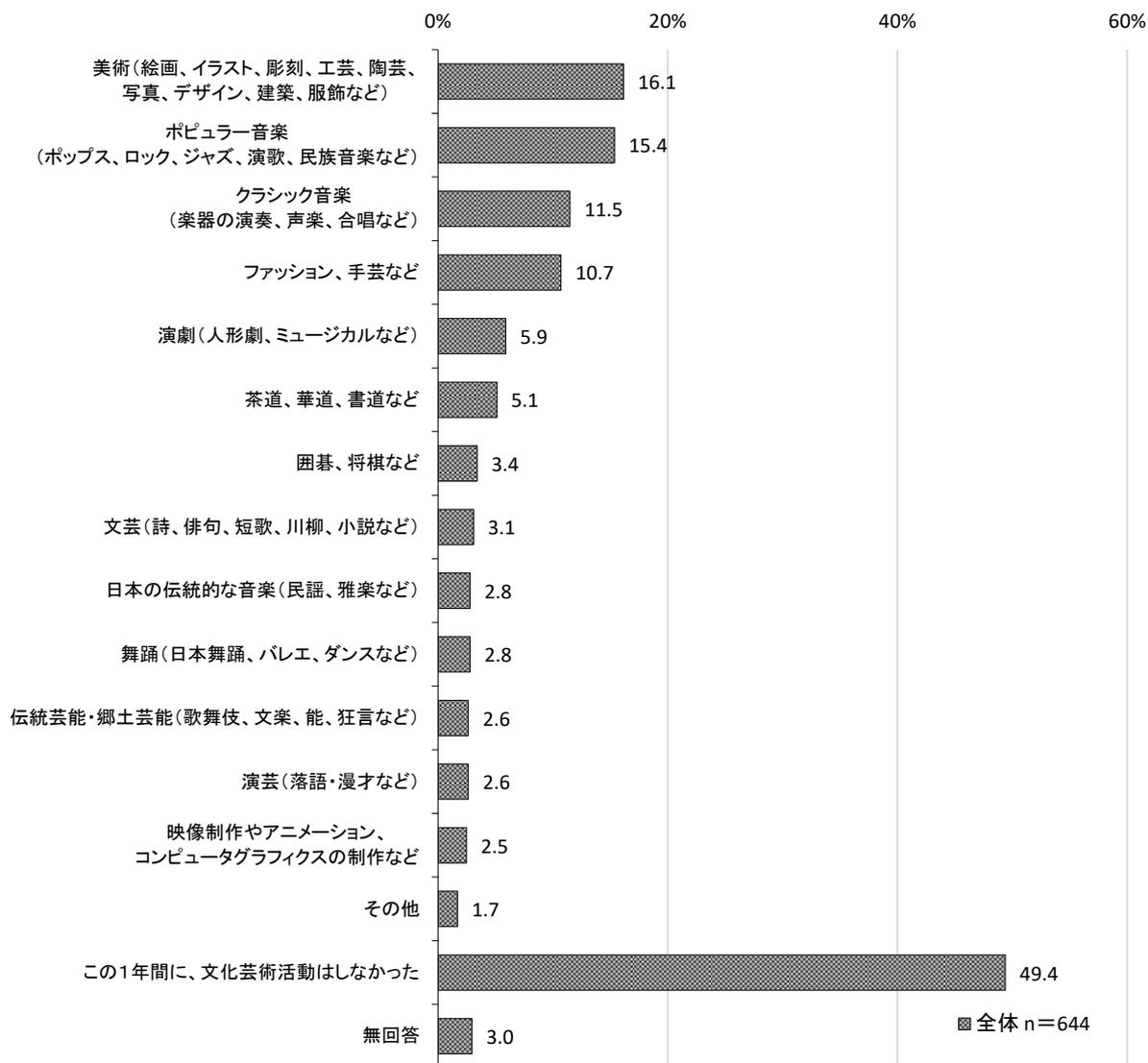
(1) 文化芸術活動の有無

◇美術（絵画、イラスト、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）が1割後半で最も高くなっている

問 11 この1年間に、次のような文化芸術活動を行いましたか。（複数選択可）

文化芸術活動については、「美術（絵画、イラスト、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」が16.1%で最も高く、次いで「ポピュラー音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、民族音楽など）」15.4%、「クラシック音楽（楽器の演奏、声楽、合唱など）」11.5%となっている。

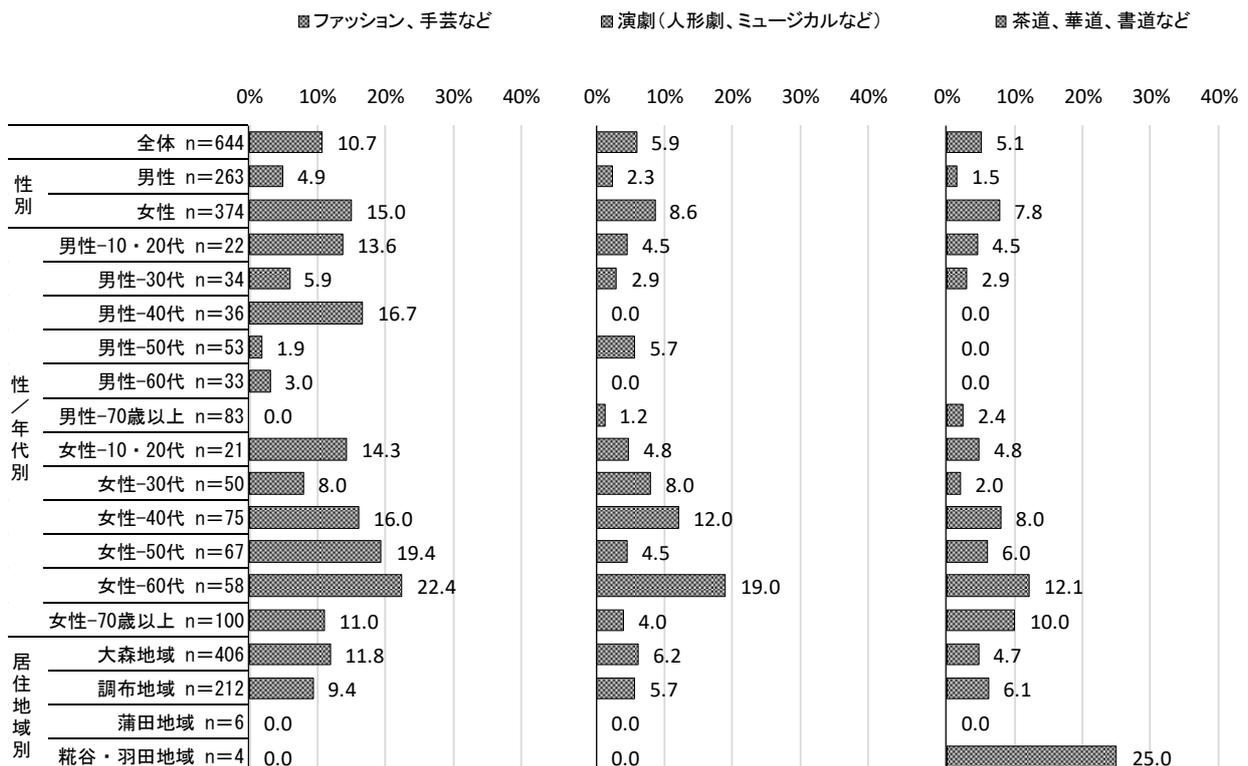
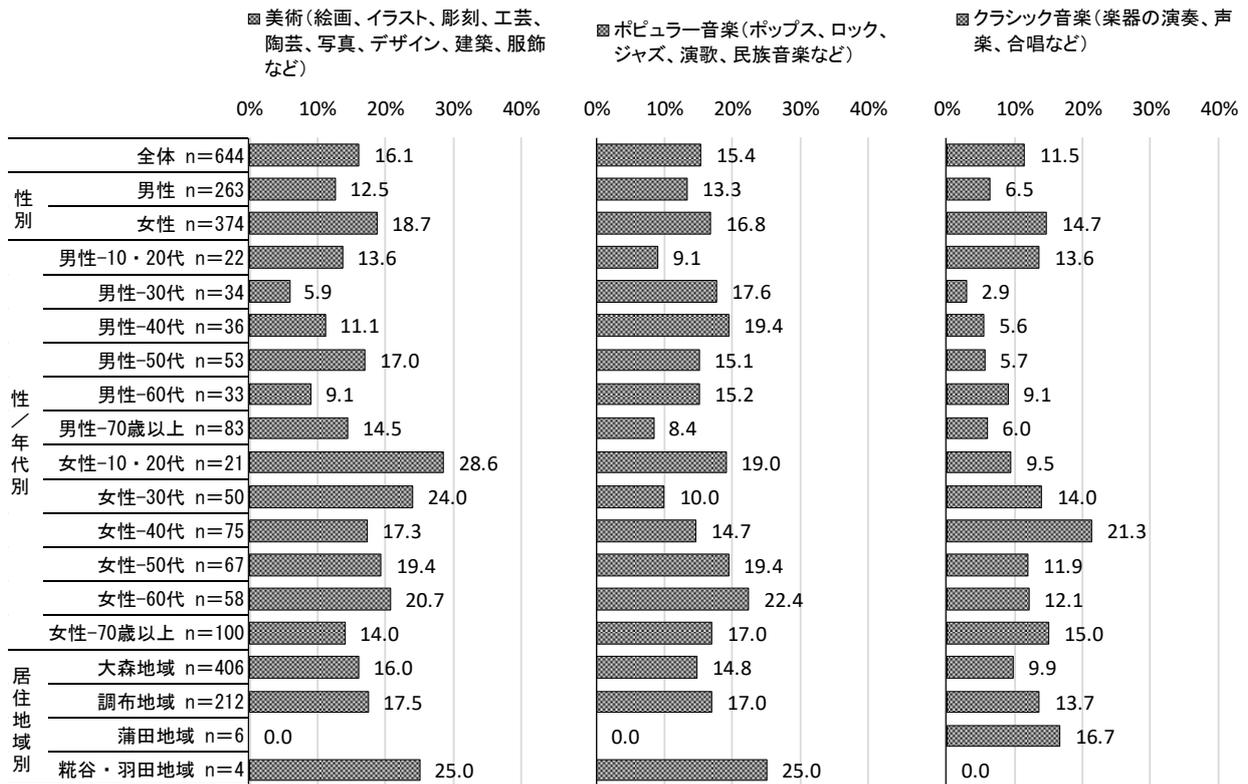
なお、「この1年間に、文化芸術活動はしなかった」は49.4%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性では「ポピュラー音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、民族音楽など）」、女性では「美術（絵画、イラスト、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「美術（絵画、イラスト、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」は男性では50代で1割後半、女性では30代、60代で2割前半と高くなっている。「ポピュラー音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、民族音楽など）」は男性では30代、40代で1割後半、女性では60代で2割前半と高くなっている。

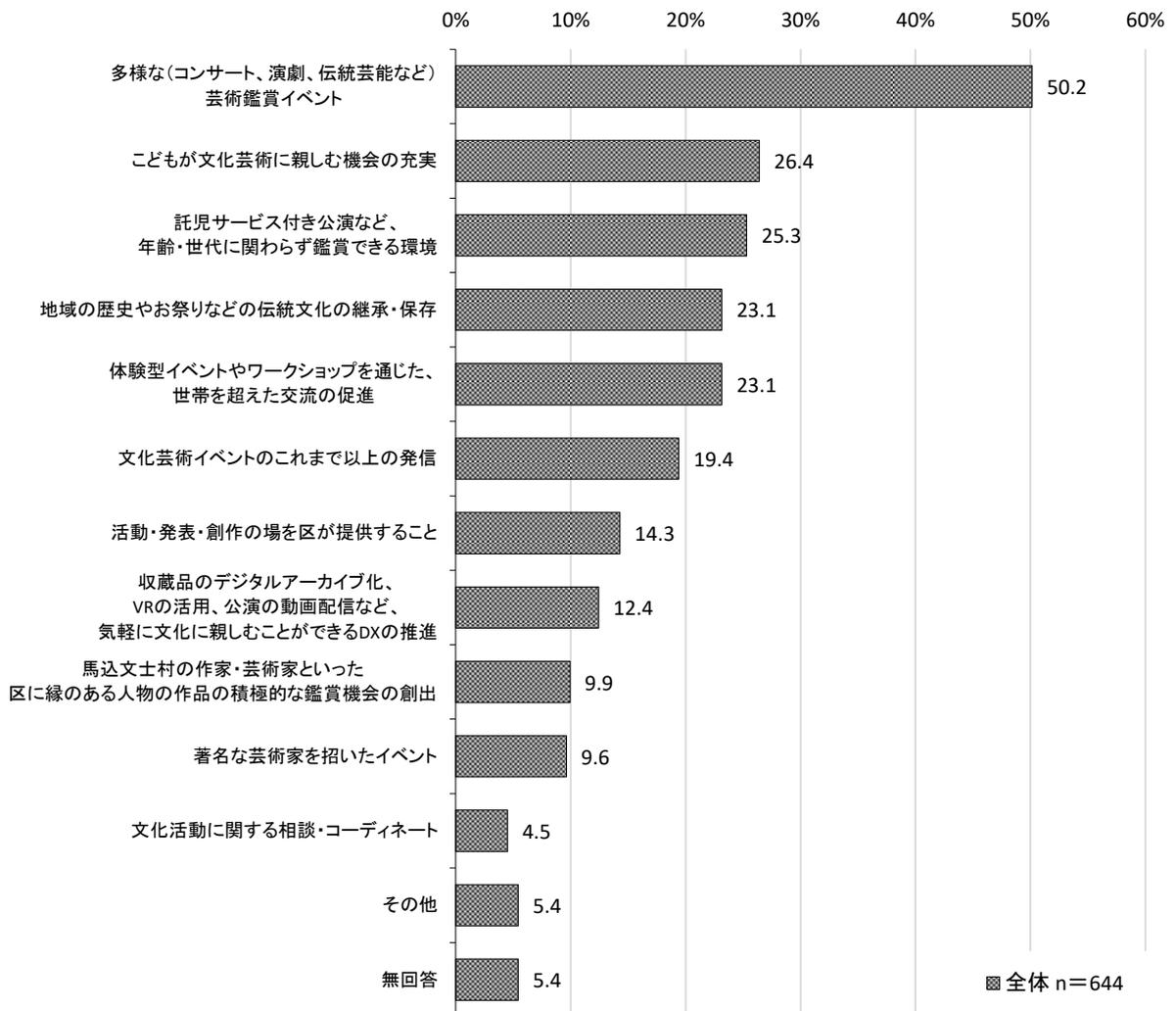


(2) 区の文化・芸術事業に必要なもの

◇「多様な（コンサート、演劇、伝統芸能など）芸術鑑賞イベント」が約5割で最も高くなっている

問 12 区の文化・芸術事業には、何が重要だと思いますか。（複数選択可）

区の文化・芸術事業に必要なものについては、「多様な（コンサート、演劇、伝統芸能など）芸術鑑賞イベント」が50.2%で最も高く、次いで「こどもが文化芸術に親しむ機会の充実」が26.4%、「託児サービス付き公演など、年齢・世代に関わらず鑑賞できる環境」が25.3%となっている。

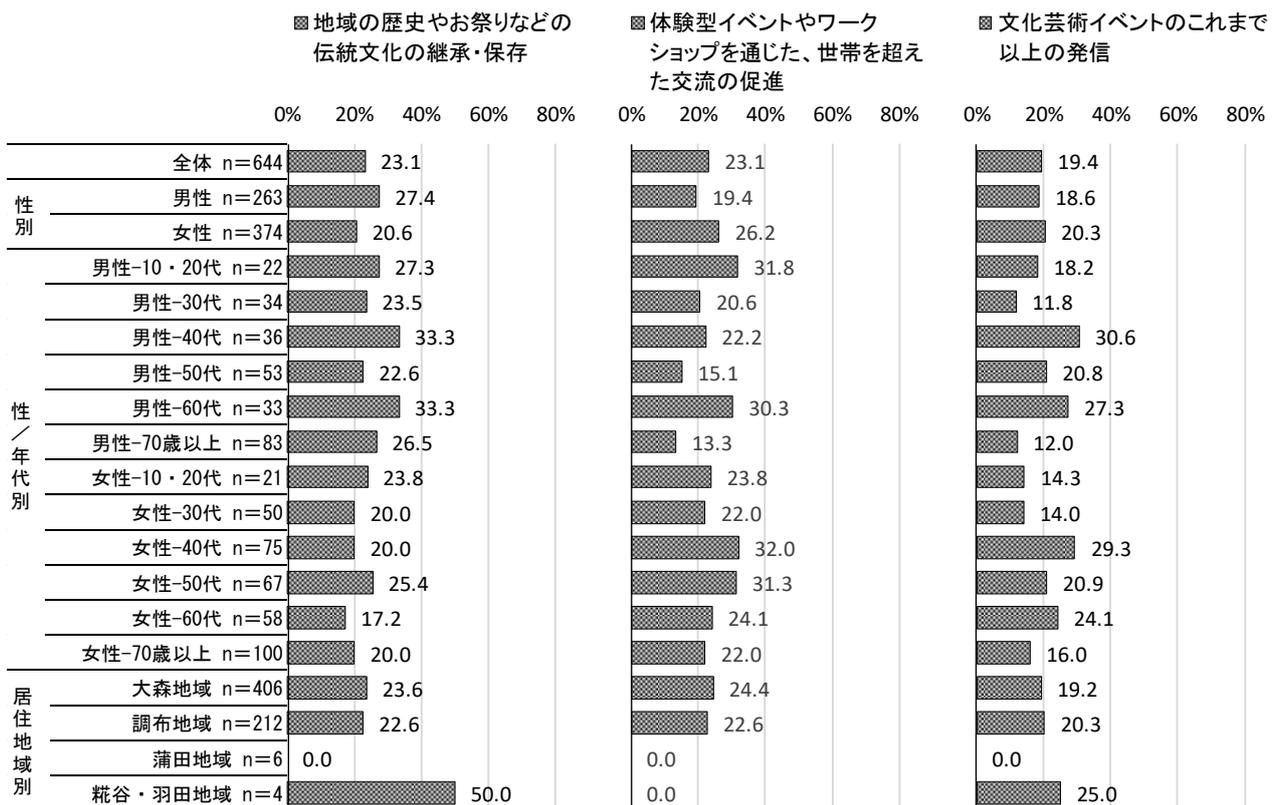
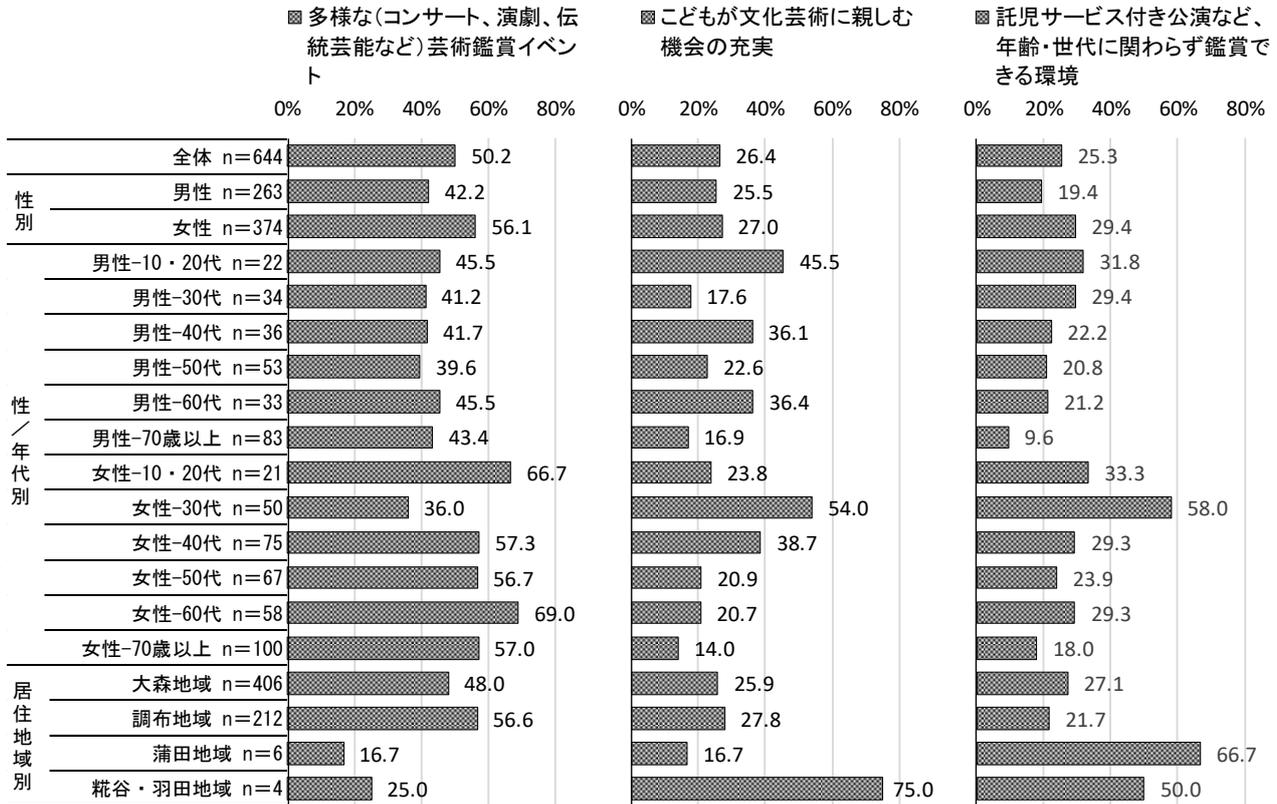


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「多様な（コンサート、演劇、伝統芸能など）芸術鑑賞イベント」が最も高く、男性が42.2%、女性が56.1%と、女性が13.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「多様な（コンサート、演劇、伝統芸能など）芸術鑑賞イベント」は男性では60代で4割半ば、女性では60代で6割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「多様な（コンサート、演劇、伝統芸能など）芸術鑑賞イベント」は調布地域で5割後半と高くなっている。

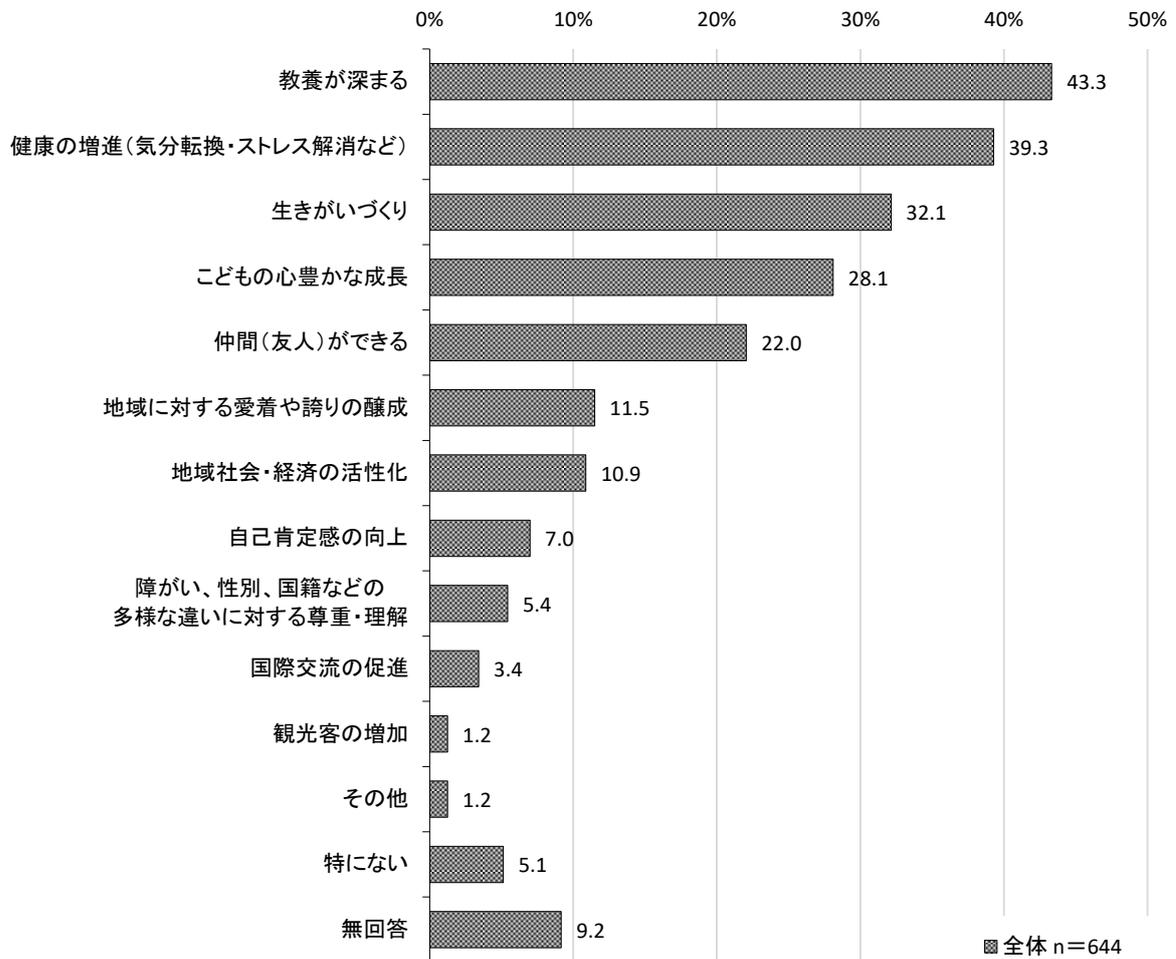


(3) 文化活動の効果で期待すること

◇「教養が深まる」が4割前半で最も高くなっている

問 13 文化活動（鑑賞のみも含む）を行うことで、どういった効果を期待しますか。この中から3つ以内でお答えください。（3つまで）

文化活動（鑑賞のみも含む）の効果については、「教養が深まる」が43.3%で最も高く、次いで「健康の増進（気分転換・ストレス解消など）」が39.3%、「生きがいがづくり」が32.1%となっている。
 なお、「特にない」は5.1%となっている。

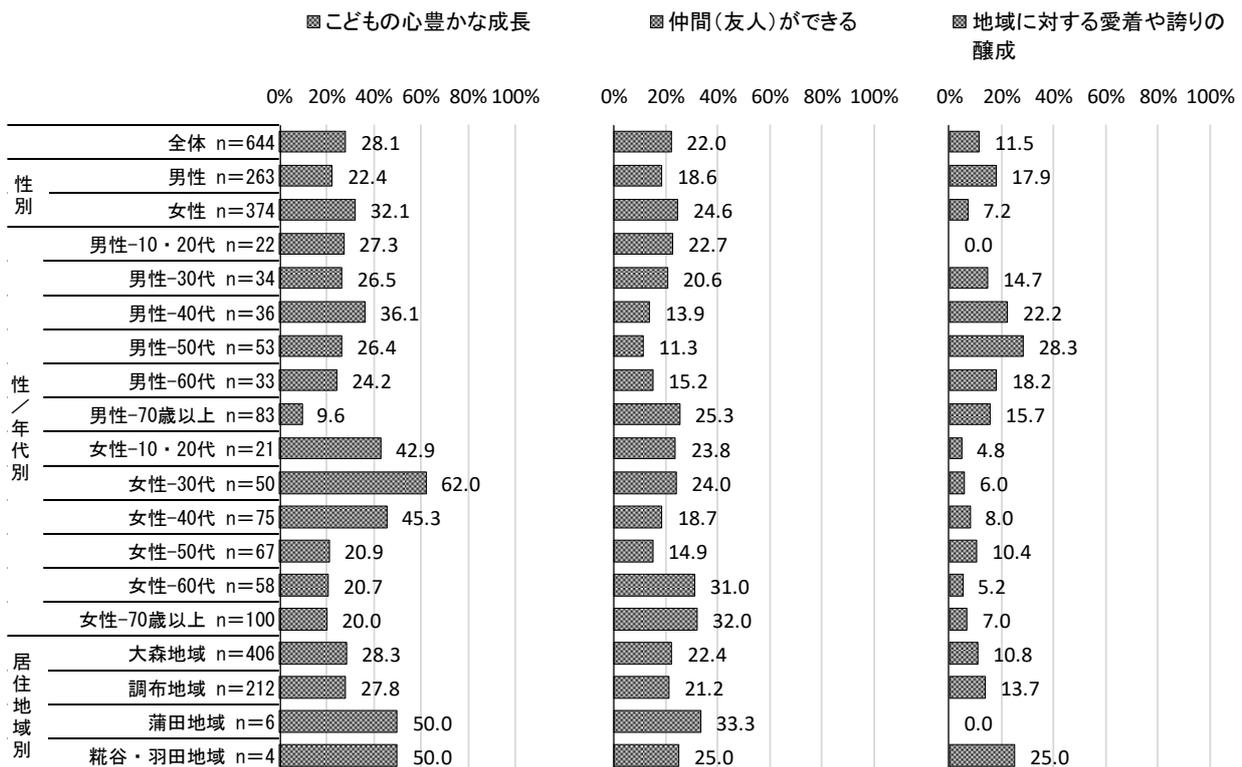
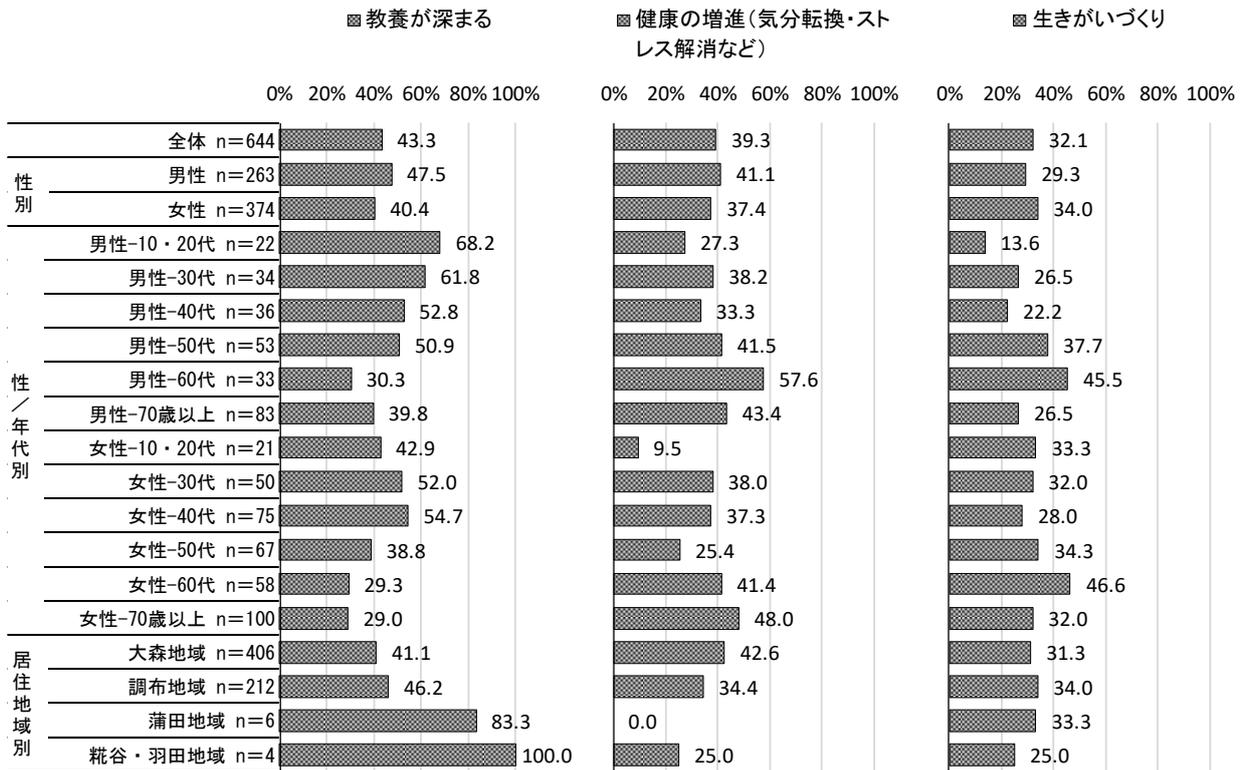


■性別・性/年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「教養が深まる」が最も高く、男性が47.5%、女性が40.4%と、男性が7.1ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「教養が深まる」は男性では30代で6割前半、女性では40代で5割前半と高くなっている。「健康の増進（気分転換・ストレス解消など）」は男性60代で5割後半、「こどもの心豊かな成長」は女性30代で6割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域では「健康の増進（気分転換・ストレス解消など）」が4割前半で最も高く、調布地域では「教養が深まる」が4割後半と高くなっている。



6 地域活動について

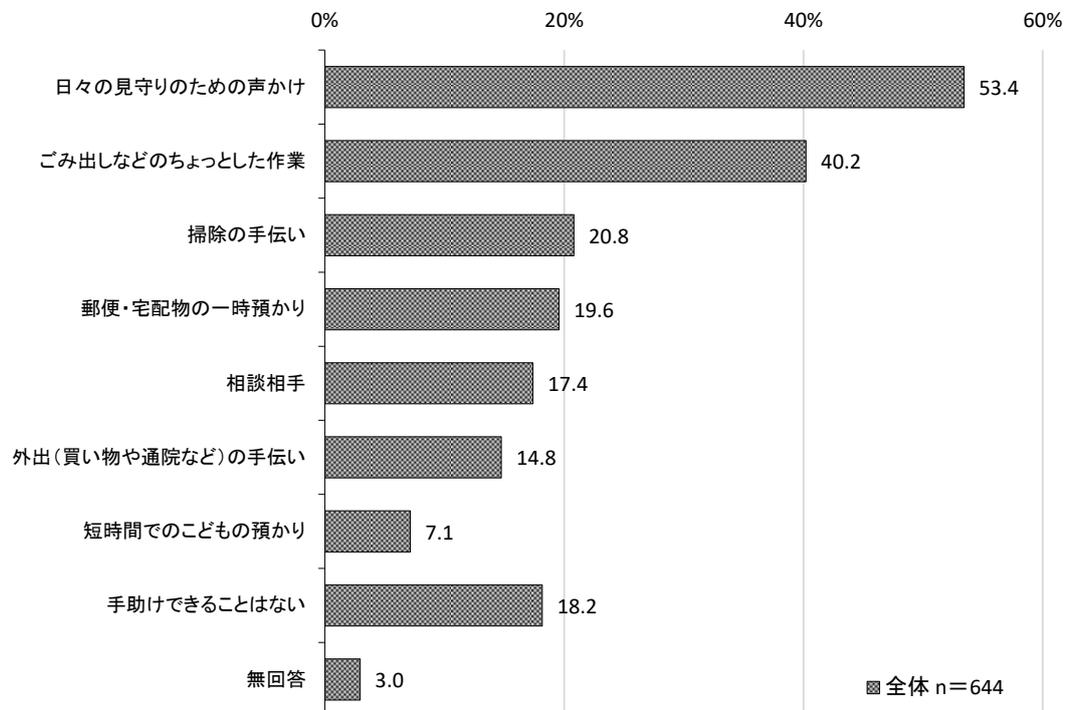
(1) 近所の方への手助けとしてできること

◇「日々の見守りのための声かけ」が5割前半で最も高くなっている

問 14 近所の方への手助けとして、できると思うことを教えてください。(複数回答可)

近所の方への手助けとしてできることについては、「日々の見守りのための声かけ」が53.4%で最も高く、次いで「ごみ出しなどのちょっとした作業」が40.2%、「掃除の手伝い」が20.8%となっている。

なお、「手助けできることはない」は18.2%となっている。

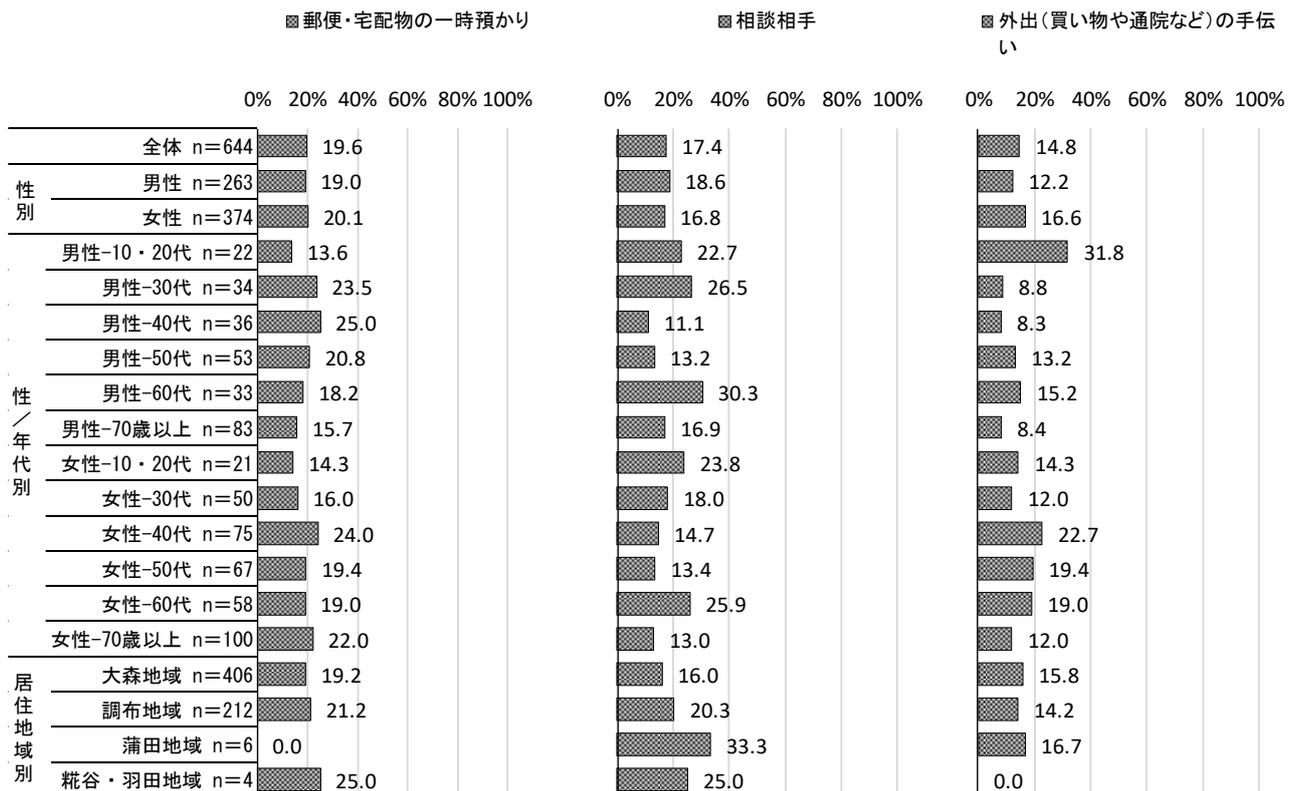
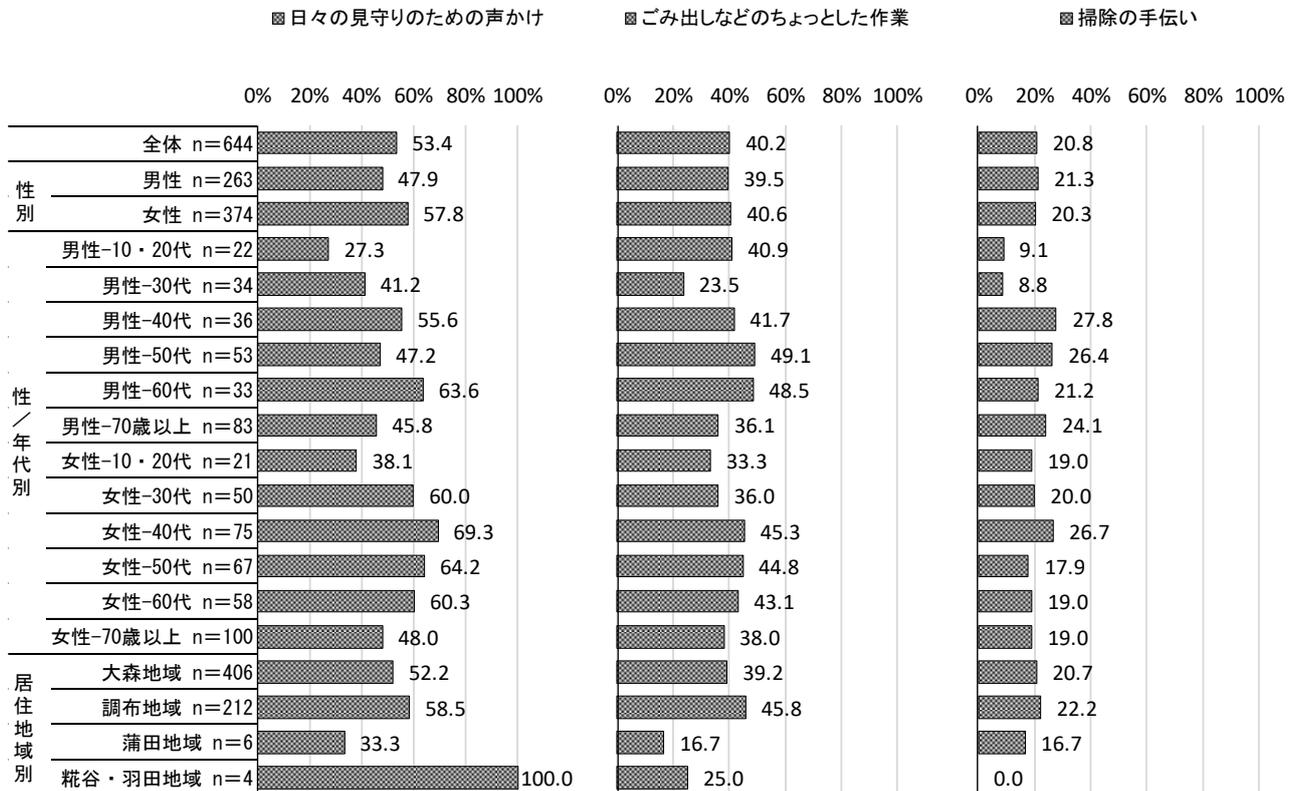


■性別・性/年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「日々の見守りのための声かけ」が最も高く、男性が47.9%、女性が57.8%と、女性が9.9ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は男性60代で6割前半、女性40代で6割後半と高くなっている。「ごみ出しなどのちょっとした作業」は男性50代、60代で4割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「日々の見守りのための声かけ」が最も高くなっている。



7 バリアフリー・ユニバーサルデザインについて

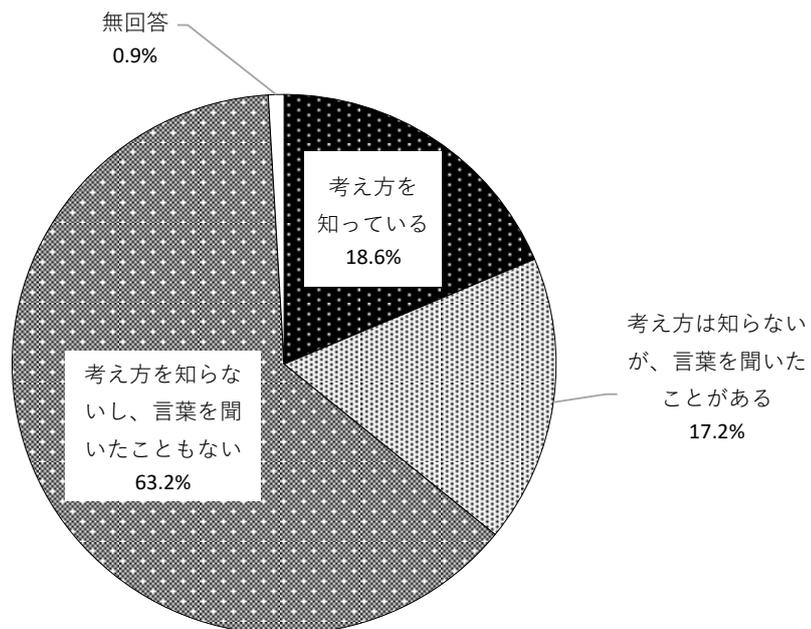
(1) 「社会的包摂」の認知度

◇「考え方を知っている」は1割後半となっている

問 15 大田区では、子どもたちを誰一人取り残さないよう、子どもや保護者が抱える問題を地域共通の課題として捉え、地域においてすべての子どもを温かく包み込む支援「社会的包摂」の考えを広めています。「社会的包摂」という考え方を知っていますか。(1つのみ)

“社会的包摂”の認知度については、「考え方を知らないし、言葉を聞いたこともない」が63.2%で最も高く、次いで「考え方を知っている」が18.6%、「考え方は知らないが、言葉を聞いたことがある」が17.2%となっている。

全体 n=644

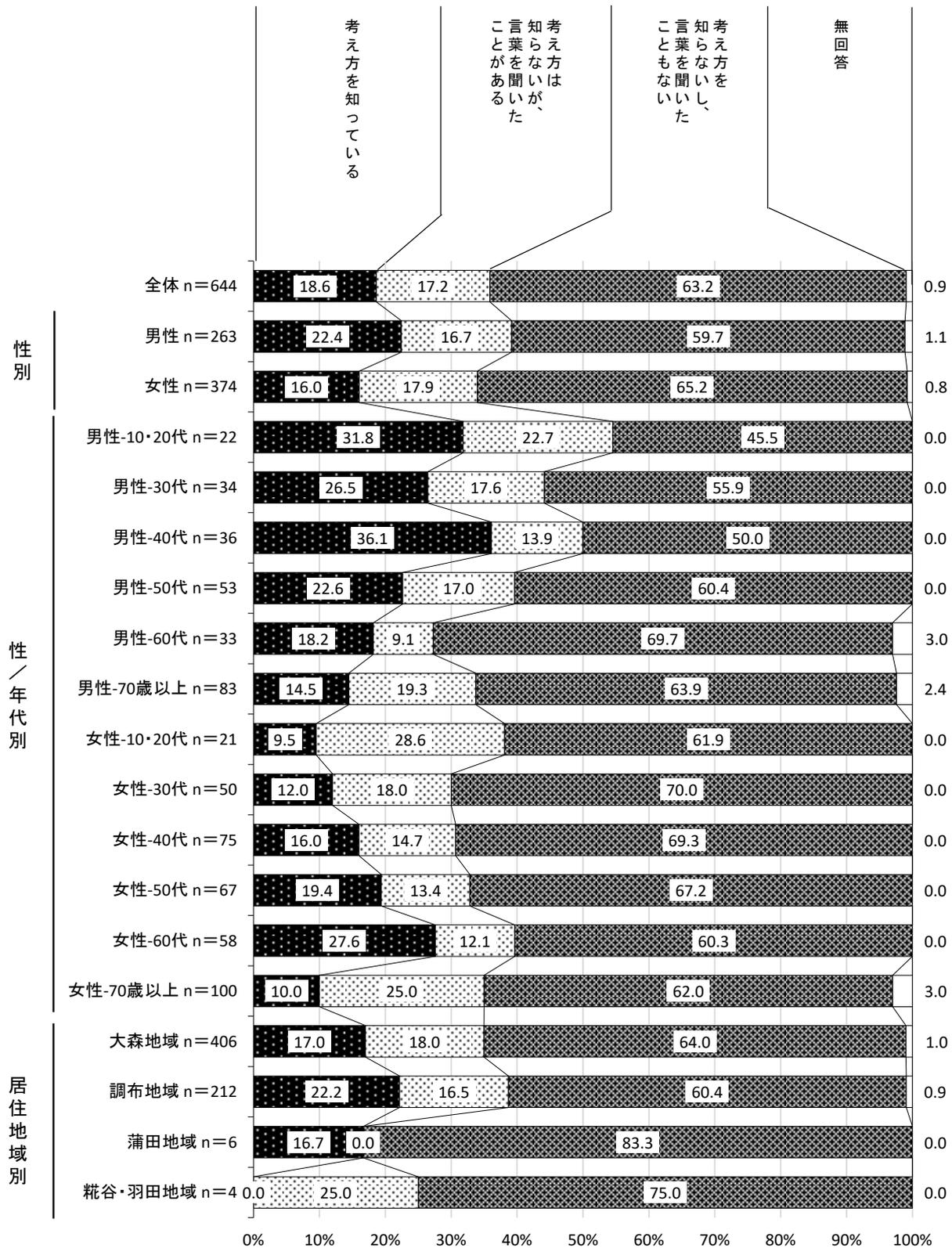


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「考え方を知っている」は男性が22.4%、女性が16.0%と、男性が6.4ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「考え方を知っている」は男性では40代で3割後半、女性では60代で2割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「考え方を知っている」は調布地域で2割前半と高くなっている。



(2)「成年後見制度」の認知度

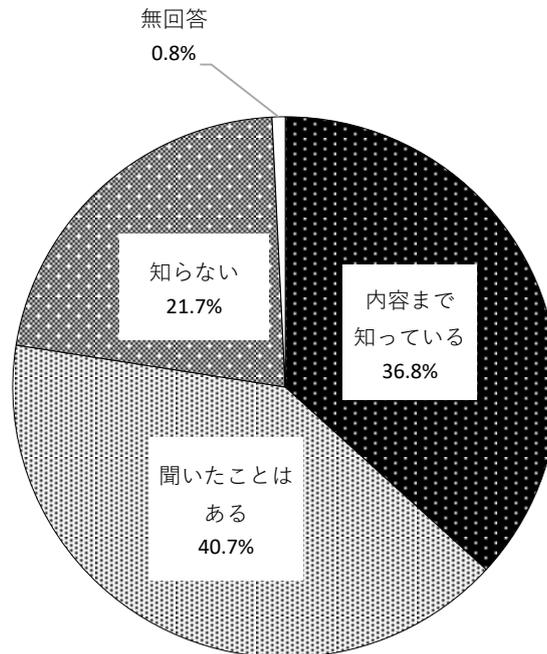
◇「内容まで知っている」は3割後半となっている

問 16 「成年後見制度」を知っていますか。(1つのみ)

※認知症・知的障害・精神障害などによって判断能力が不十分な方の支援者を選び、法律的に支援する制度。

“成年後見制度”の認知度については、「聞いたことはある」が40.7%で最も高く、次いで「内容まで知っている」が36.8%、「知らない」が21.7%となっている。

全体 n=644

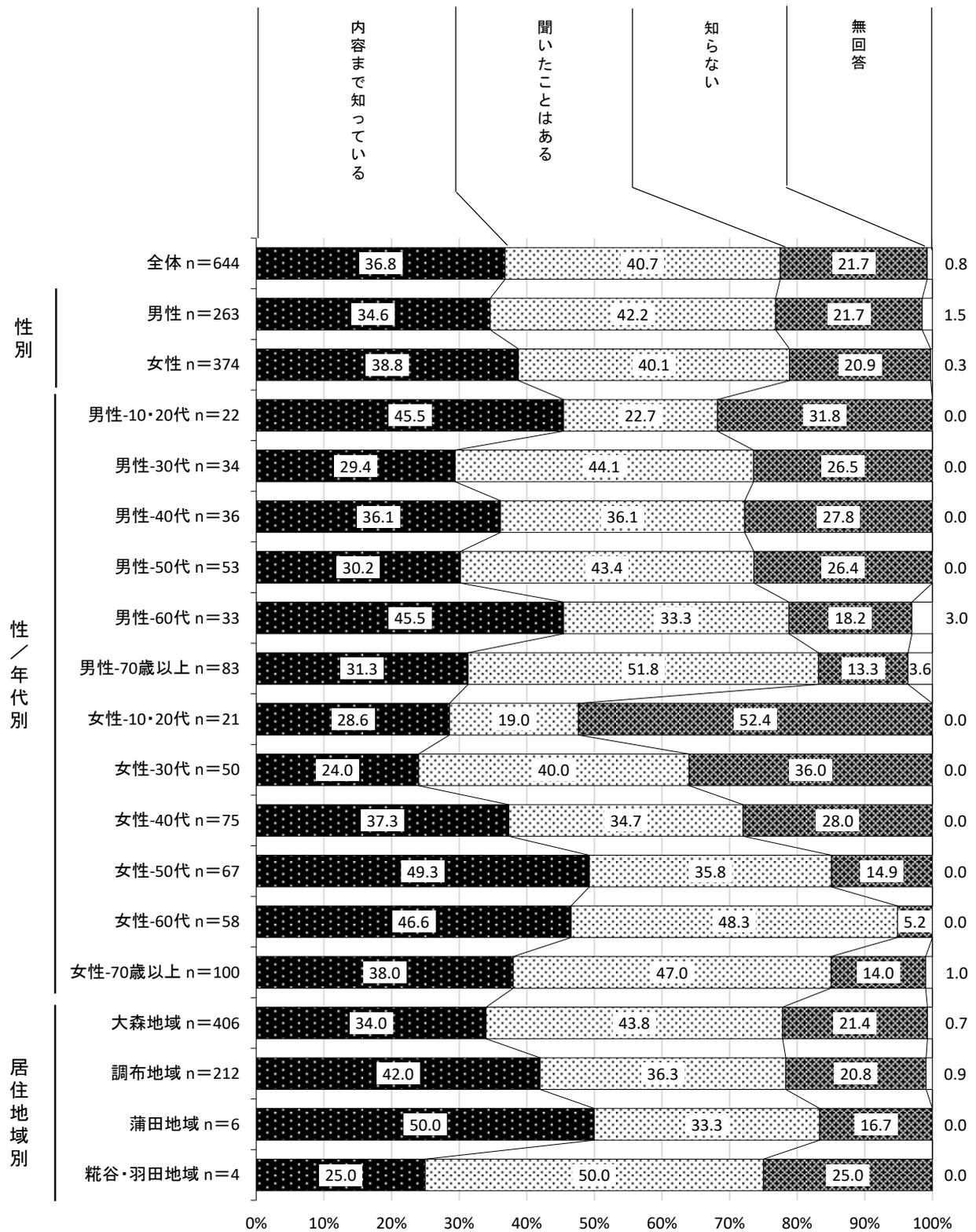


■性別・性/年代別・居住地域別

性別で見ると、「内容まで知っている」は男性が34.6%、女性が38.8%と、女性が4.2ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「内容まで知っている」は男性では60代で4割半ば、女性では50代で4割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、「内容まで知っている」は調布地域で4割前半と高くなっている。



(3) 「障害者差別解消法」の認知度

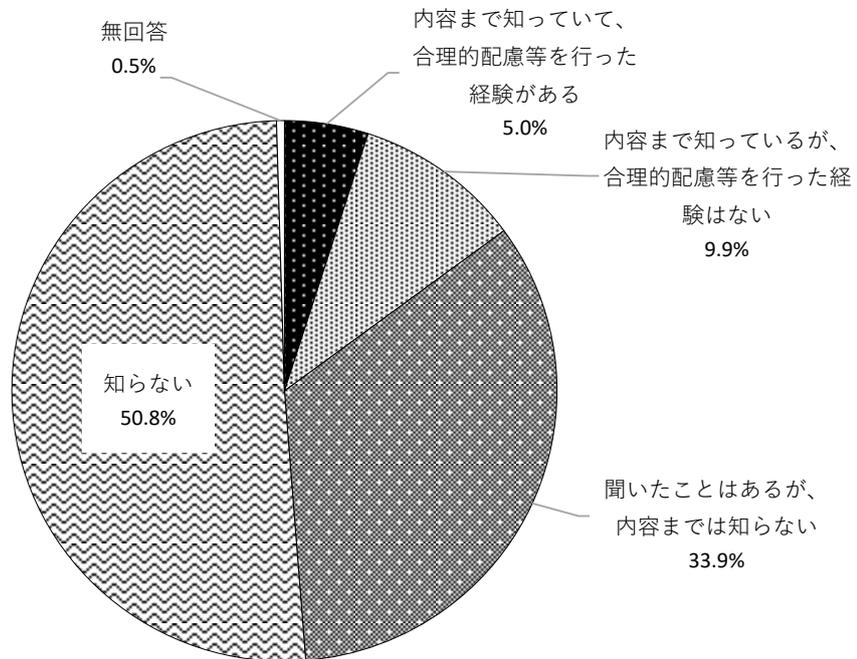
◇「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は1割未満となっている

問 17 障がいのある人もない人も、お互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会づくりを目指して、平成28年4月に、いわゆる「障害者差別解消法」が施行され、令和6年4月に改正法が施行されます。この法律を知っていますか。(1つのみ)

“障害者差別解消法”の認知度については、「知らない」が50.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が33.9%、「内容まで知っているが、合理的配慮等を行った経験はない」が9.9%となっている。

なお、「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は5.0%となっている。

全体 n=644

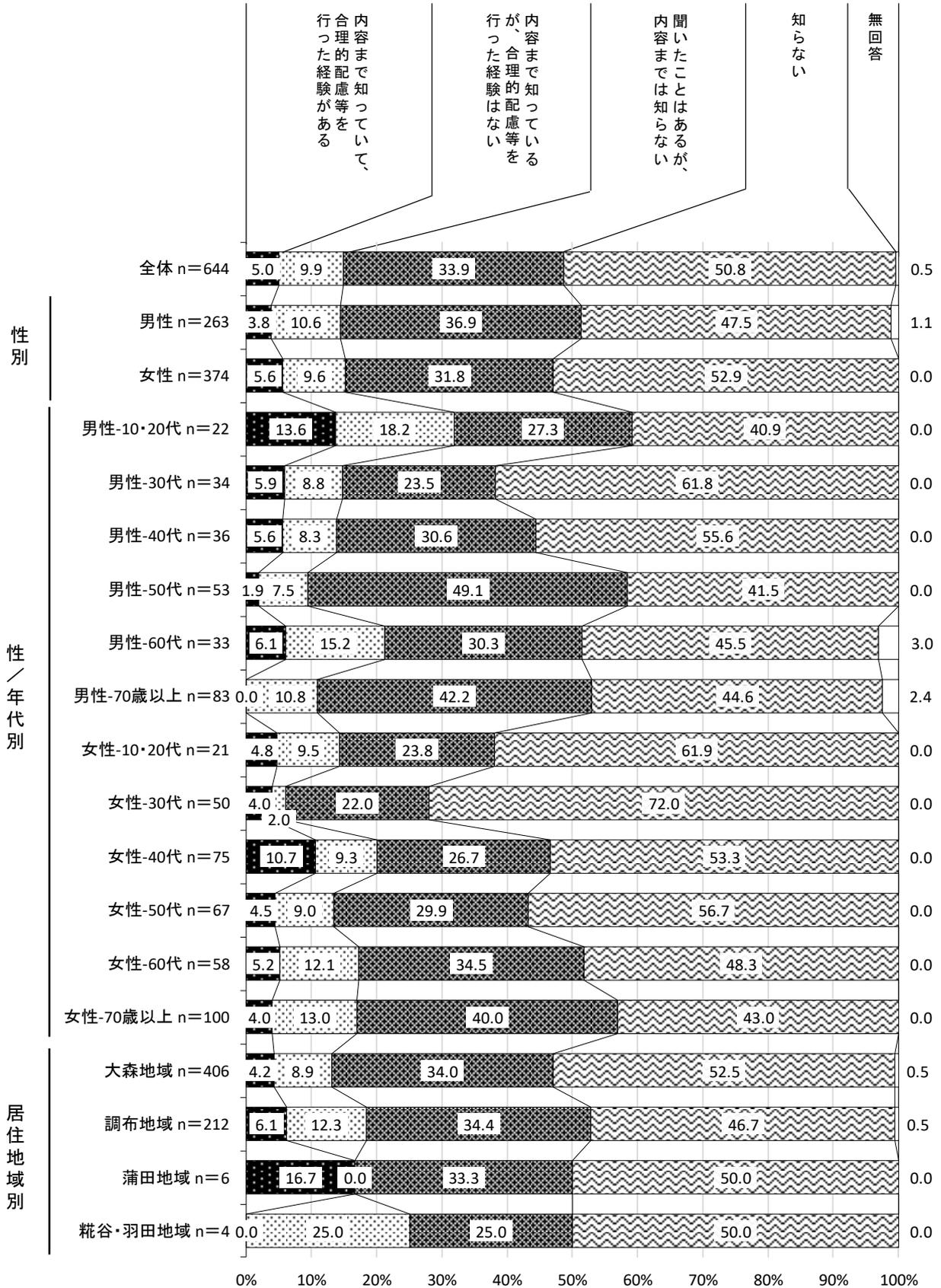


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は女性40代で1割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



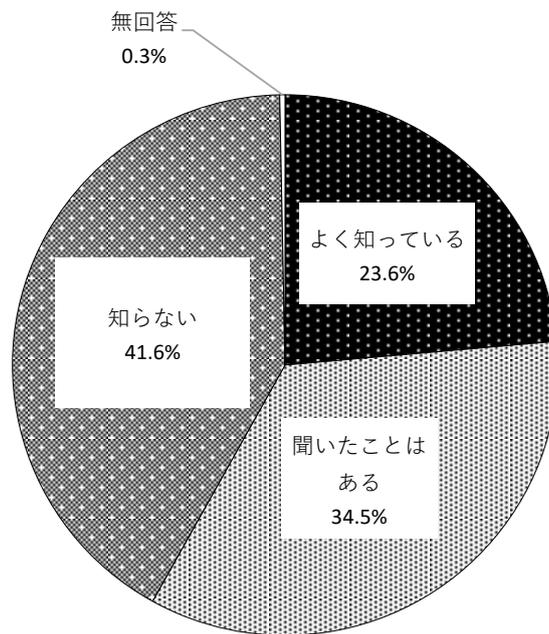
(4)「ヘルプカード(たすけてねカード)」の認知度

◇「よく知っている」は2割前半となっている

問 18 「ヘルプカード(たすけてねカード)」を知っていますか。(1つのみ)
※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード。(大田区が作成)

“ヘルプカード”の認知度については、「知らない」が41.6%で最も高く、次いで「聞いたことはある」が34.5%、「よく知っている」が23.6%となっている。

全体 n=644

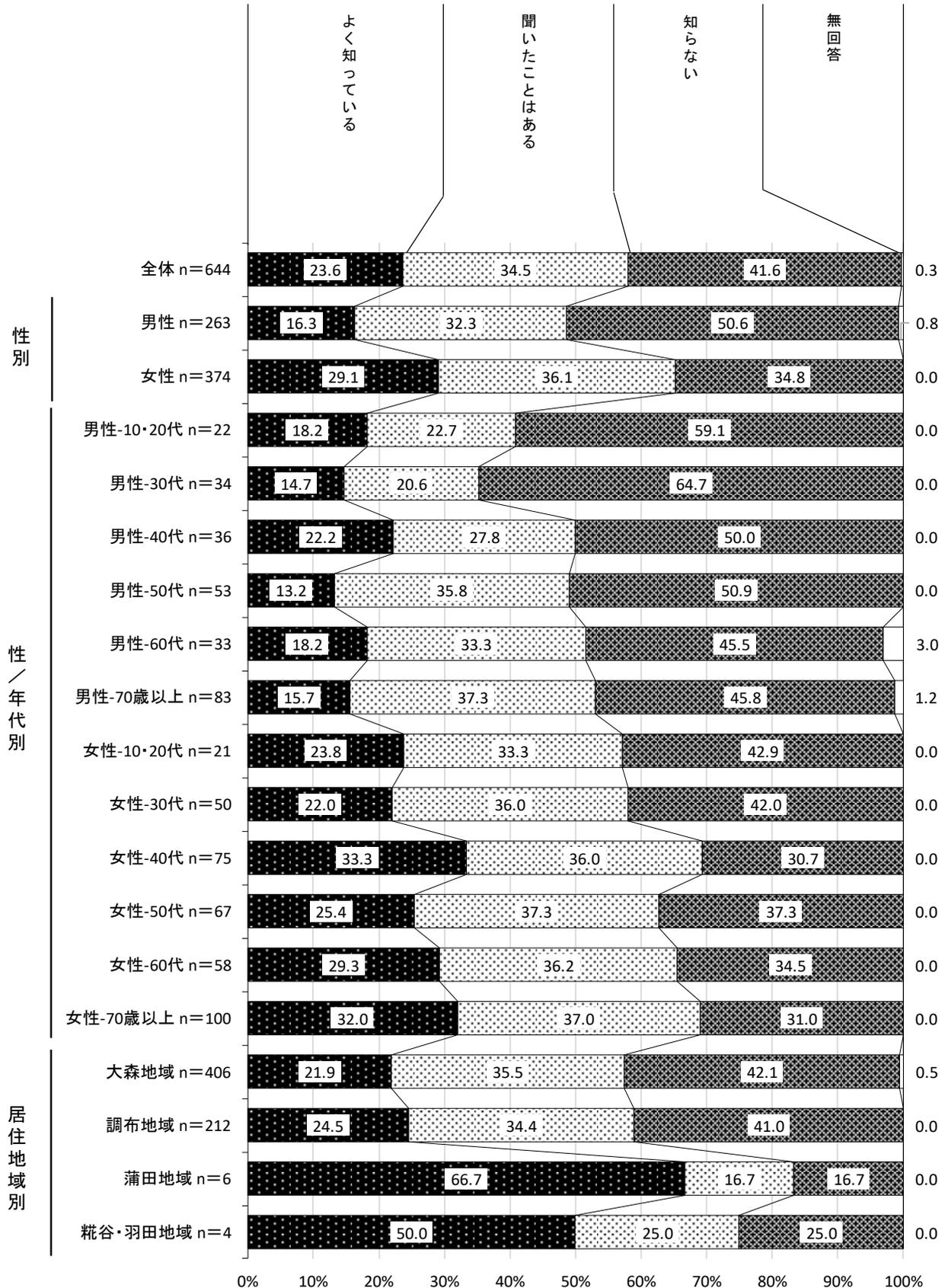


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「よく知っている」は男性が16.3%、女性が29.1%と、女性が12.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「よく知っている」は男性では40代で2割前半、女性では40代、70歳以上で3割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



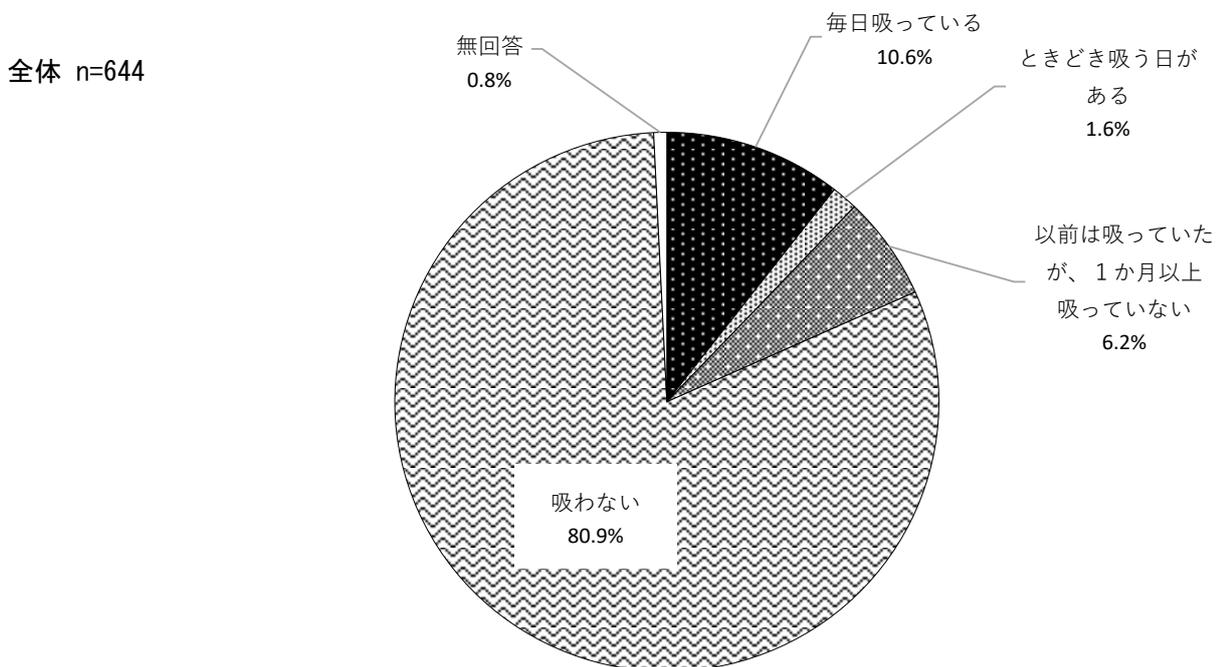
8 喫煙について

(1) 喫煙状況

◇「毎日吸っている」は1割前半となっている

問 19 あなたは、たばこを吸いますか。(1つのみ)

喫煙状況については、「吸わない」が80.9%で最も高く、次いで「毎日吸っている」が10.6%、「以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない」が6.2%となっている。

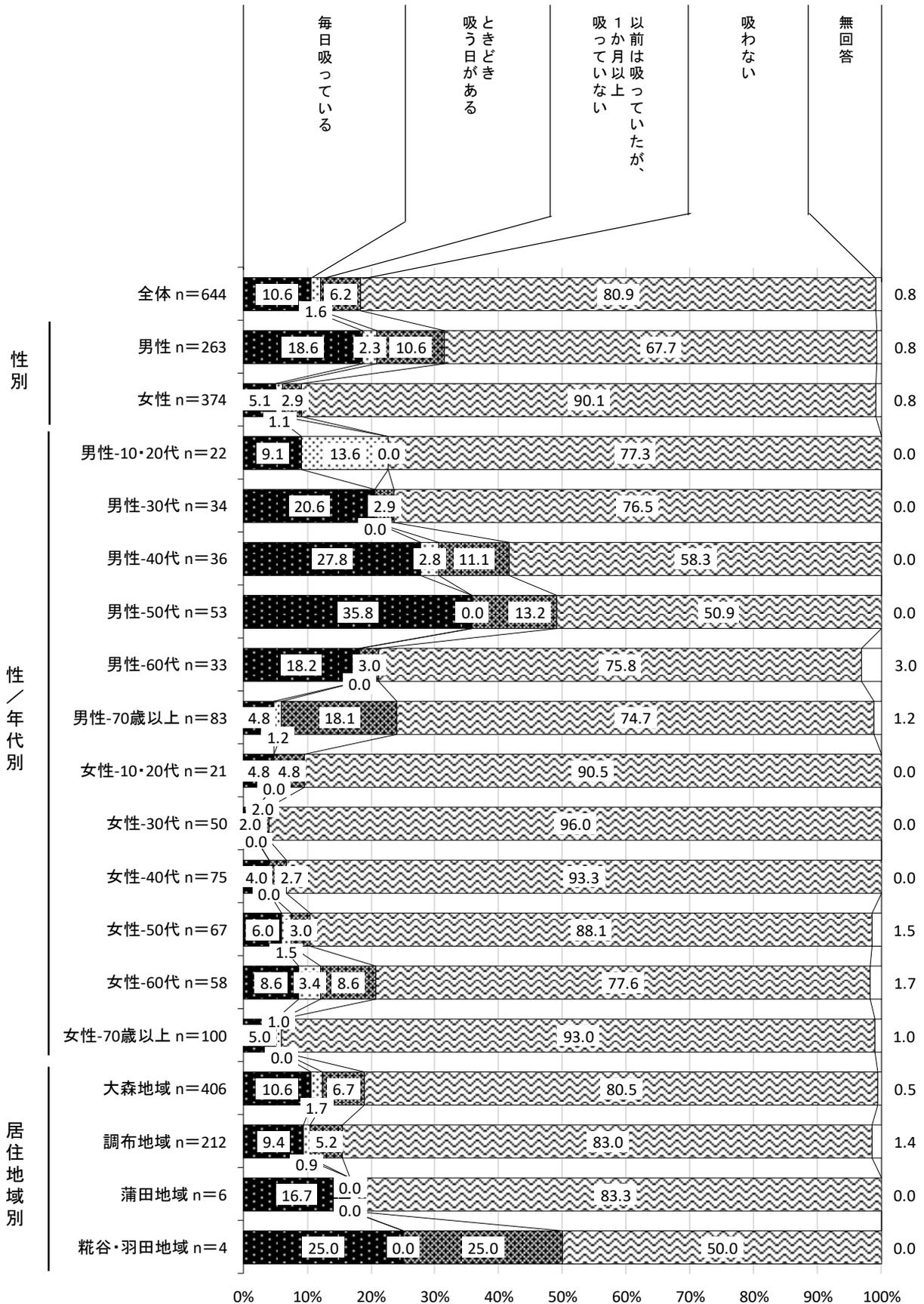


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「毎日吸っている」は男性が18.6%、女性が5.1%と、男性が13.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「毎日吸っている」は男性50代で3割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「毎日吸っている」は大森地域で1割後半と高くなっている。

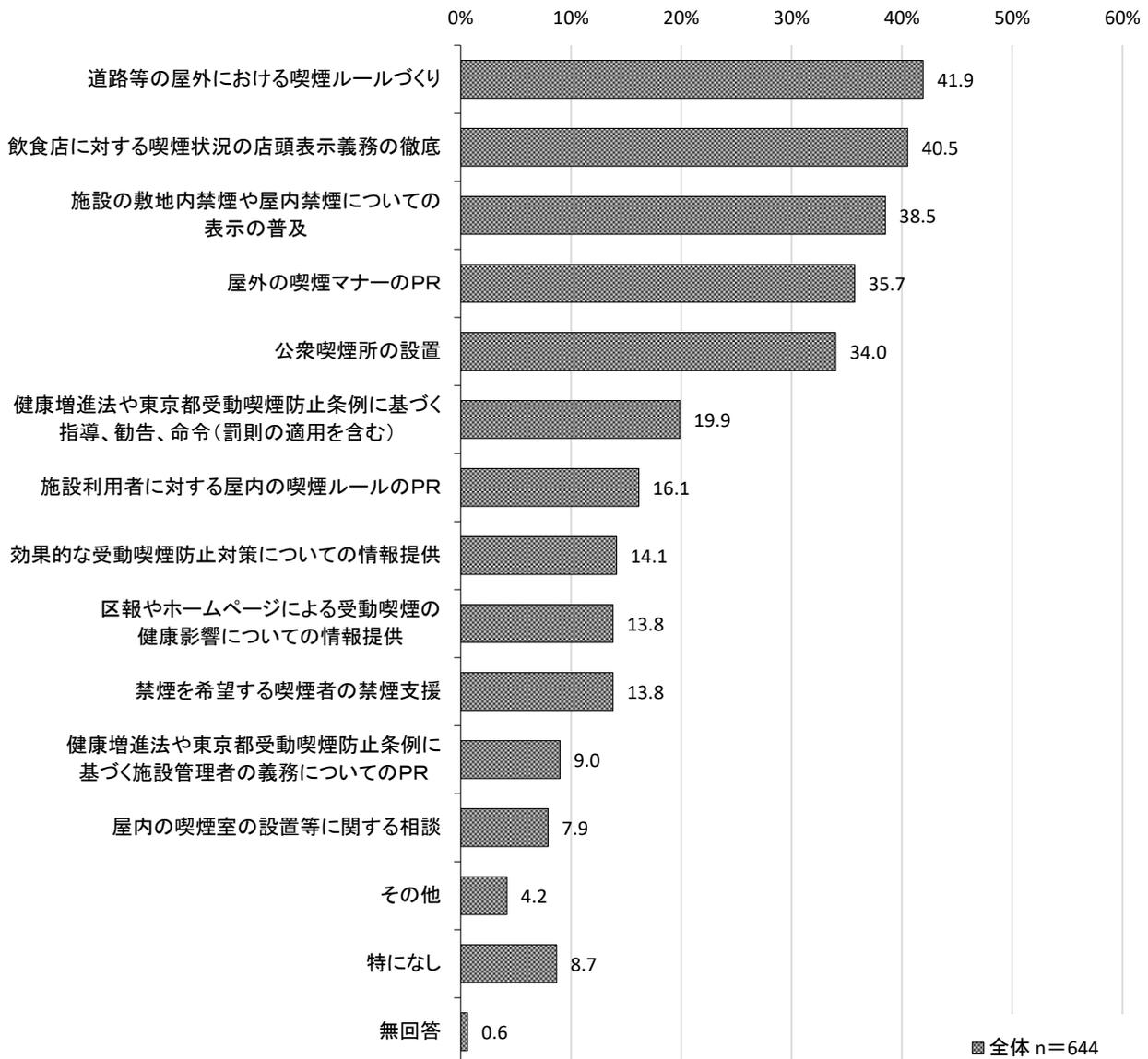


(2) 大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組

◇「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が4割前半で最も高くなっている

問 20 受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。(複数回答可)

大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組については、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が41.9%で最も高く、次いで「飲食店に対する喫煙状況の店頭表示義務の徹底」が40.5%、「施設の敷地内禁煙や屋内禁煙についての表示の普及」が38.5%となっている。
 なお、「特になし」は8.7%となっている。

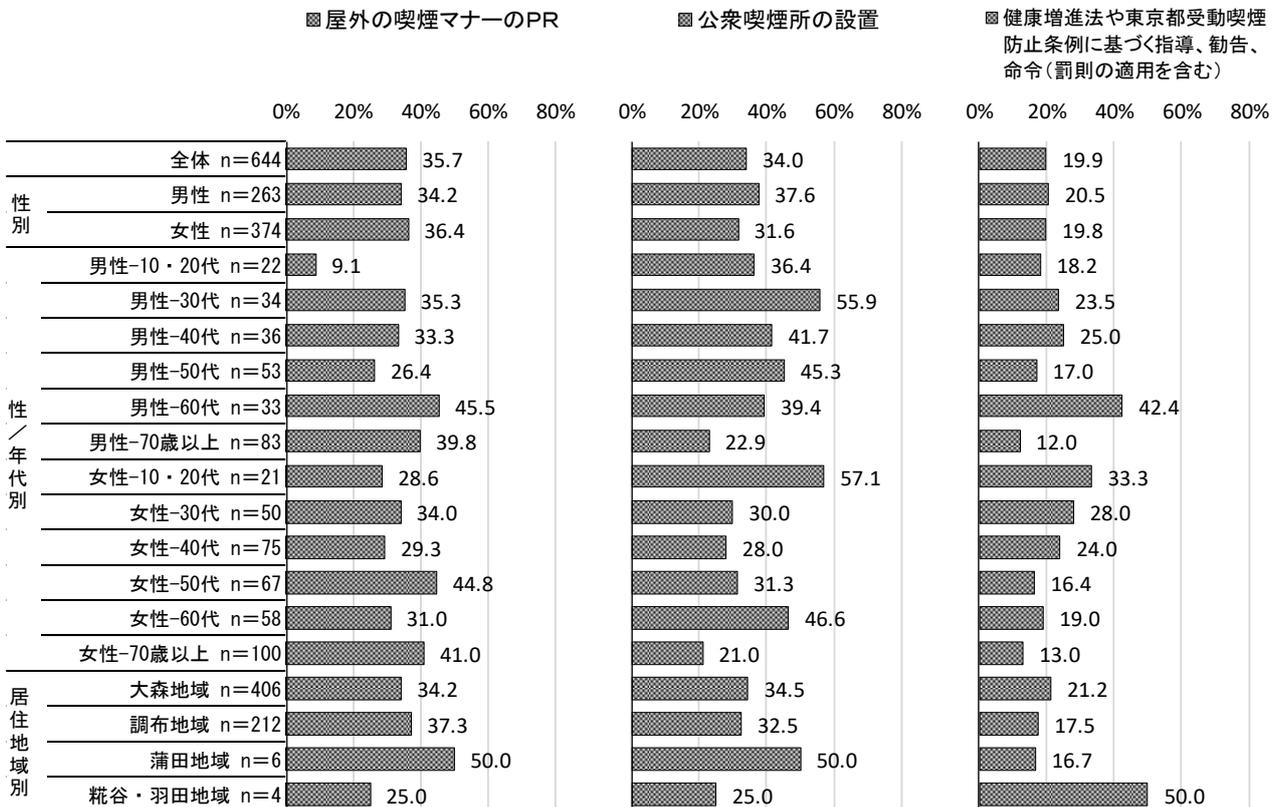
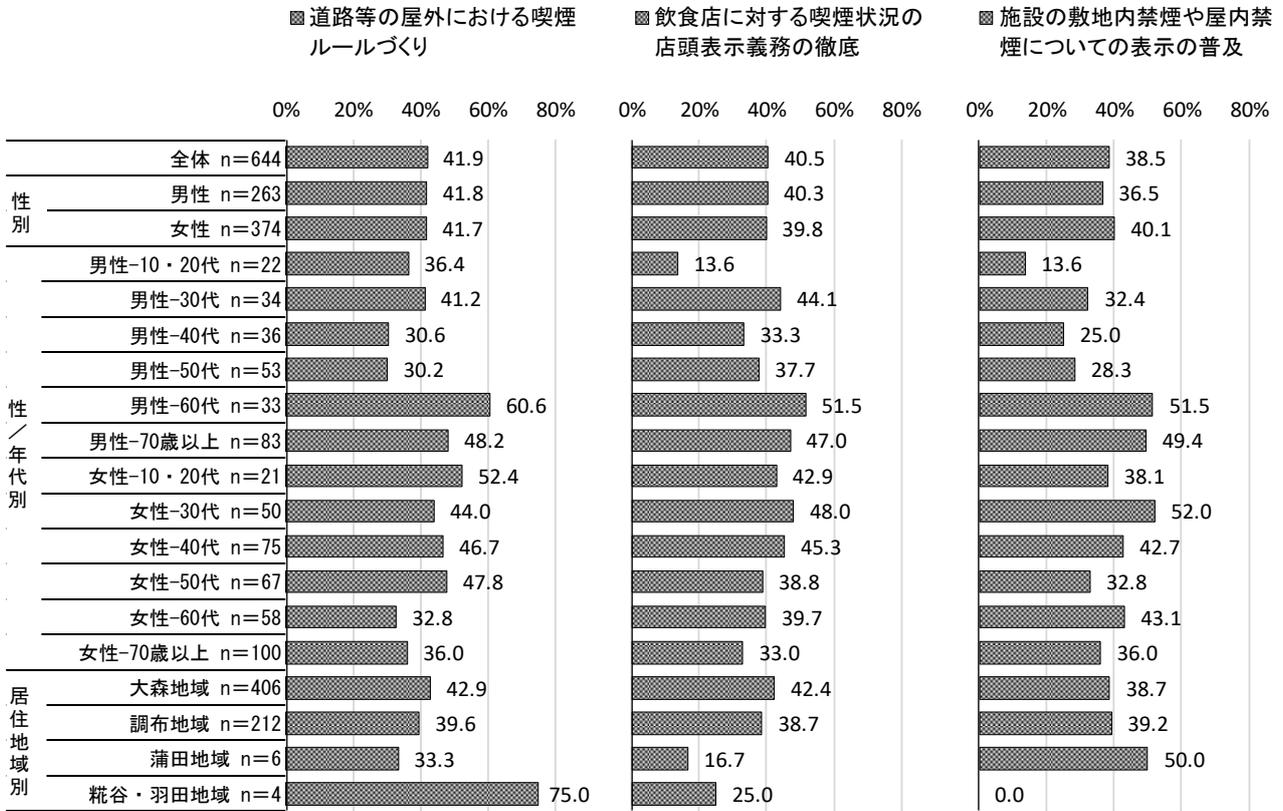


■性別・性/年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が最も高くなっている。

性/年代別でみると、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」は男性では60代で6割前半、女性では40代、50代で4割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



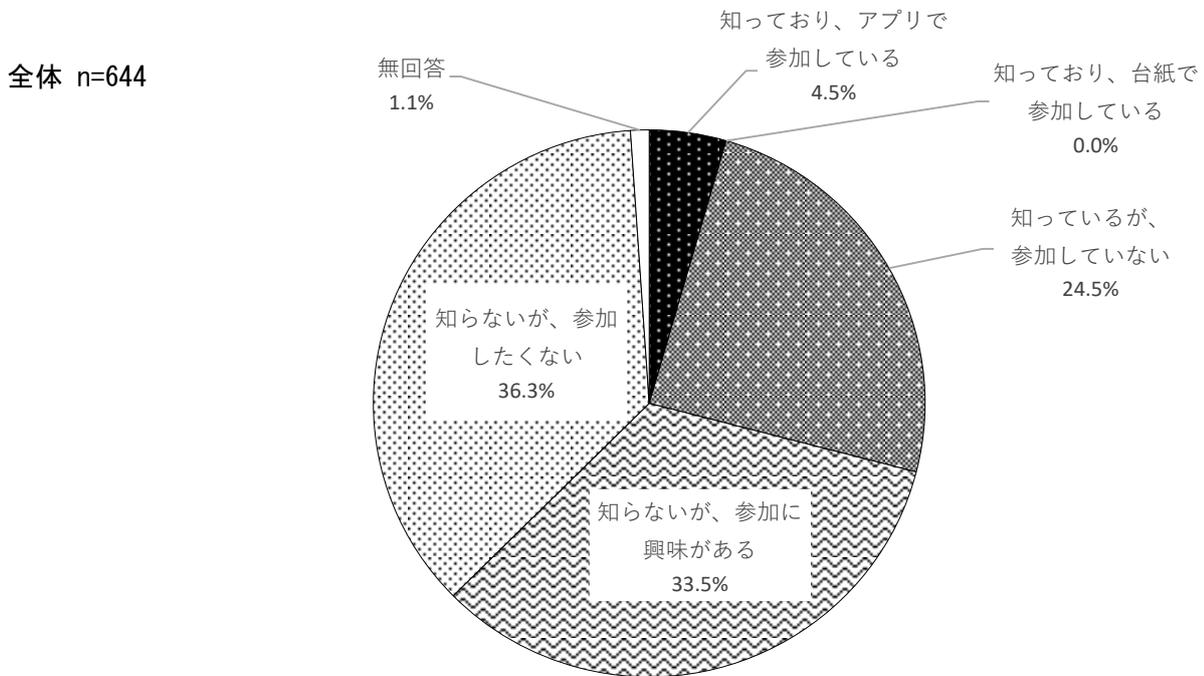
9 健康づくりについて

(1) 「はねびよん健康ポイント」の認知度

◇《知っている》（「知っており、アプリで参加している」、「知っており、台紙で参加している」、「知っているが、参加していない」の合計値）は2割後半となっている

問 21 大田区の「はねびよん健康ポイント」を知っていますか。（1つのみ）

“はねびよん健康ポイント”の認知度については、「知っており、アプリで参加している」、「知っており、台紙で参加している」、「知っているが、参加していない」の合計値《知っている》が29.0%で、「知らないが、参加に興味がある」、「知らないが、参加したくない」の合計値《知らない》は69.8%となっている。

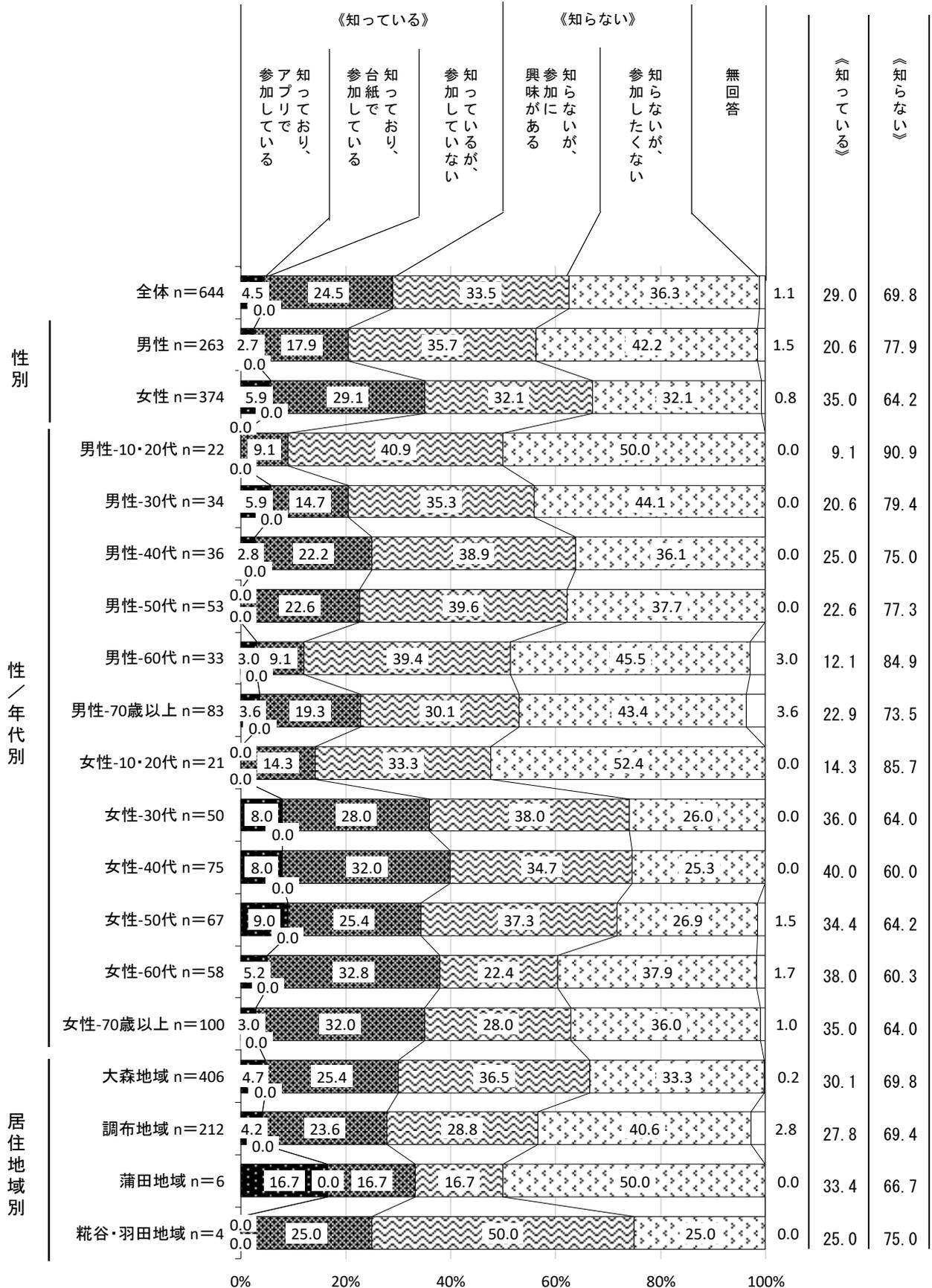


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性 20.6%、女性 35.0%と、女性が 14.4 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性では 40 代で 2 割半ば、女性では 40 代で 4 割と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



10 医療について

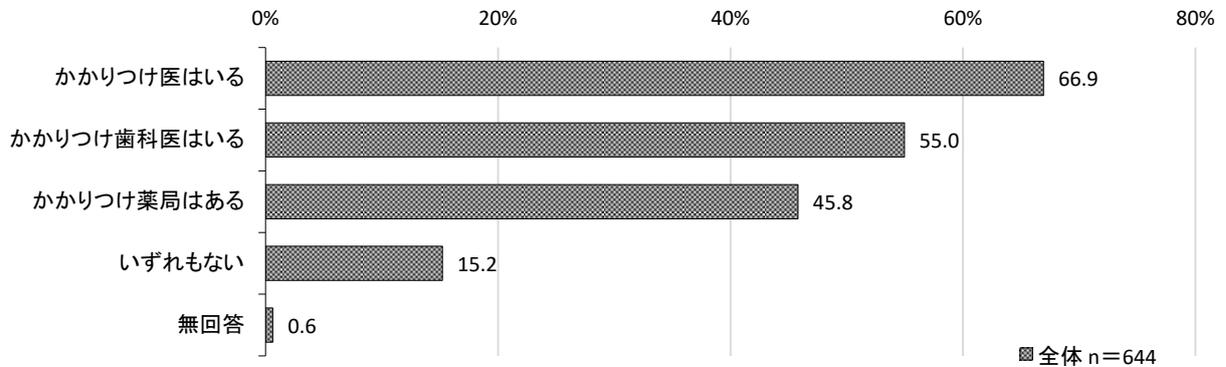
(1) かかりつけの医療機関

◇「かかりつけ医はいる」は6割後半となっている

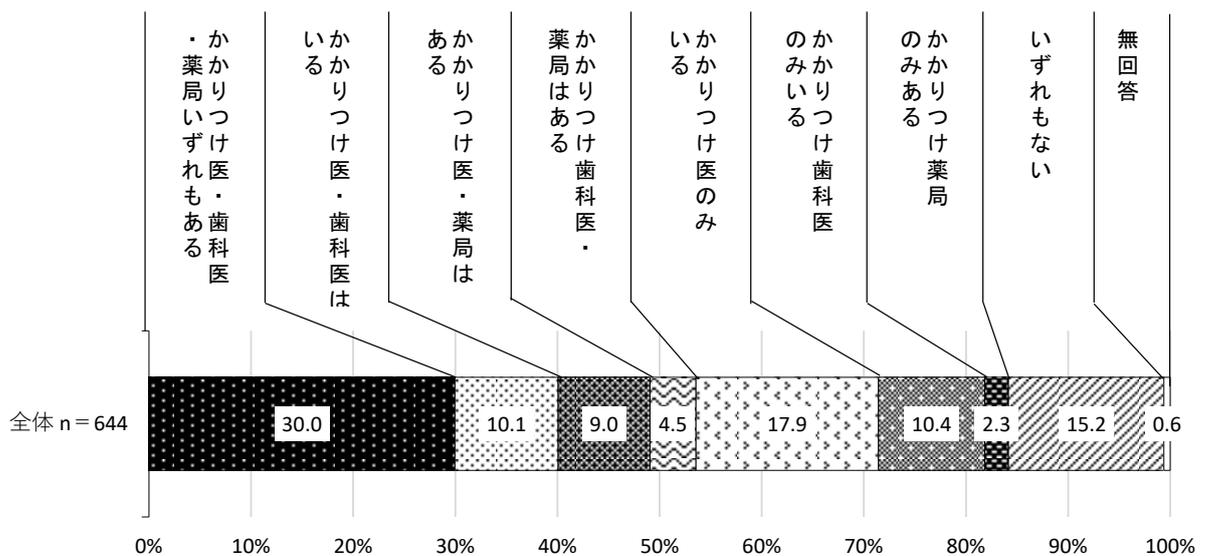
問 22 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(複数回答可)

かかりつけの医療機関については、「かかりつけ医はいる」が66.9%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医はいる」が55.0%、「かかりつけ薬局はある」が45.8%となっている。

なお、「いずれもない」は15.2%となっている。



■ かかりつけの医療機関の状況

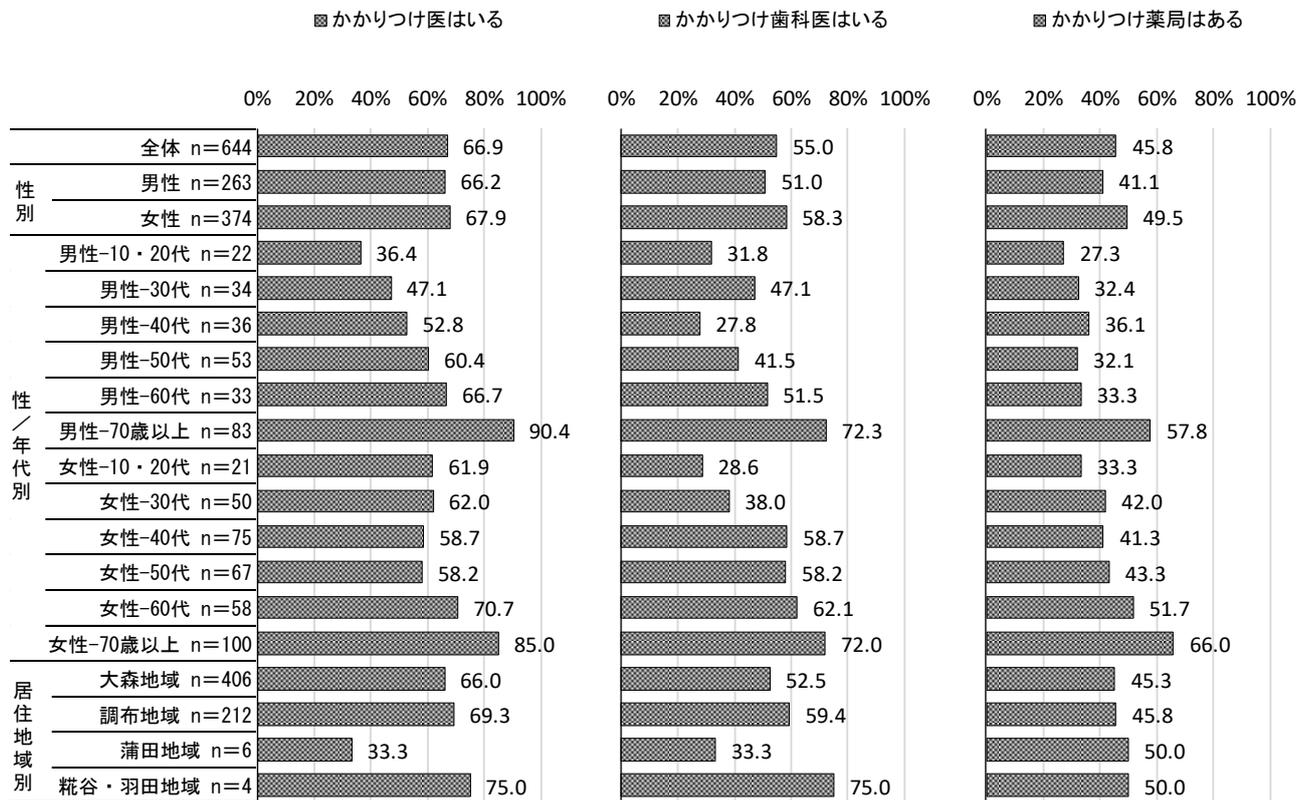


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「かかりつけ医はいる」は男性が66.2%、女性が67.9%と、大きな差はみられない。「かかりつけ歯科医はいる」は男性が51.0%、女性が58.3%と、女性が7.3ポイント上回っている。「かかりつけ薬局はある」は男性が41.1%、女性が49.5%と、女性が8.4ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「かかりつけ医はいる」、「かかりつけ歯科医はいる」、「かかりつけ薬局はある」のすべてで、男性、女性ともに70歳以上が最も高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



11 食品ロス・フードドライブについて

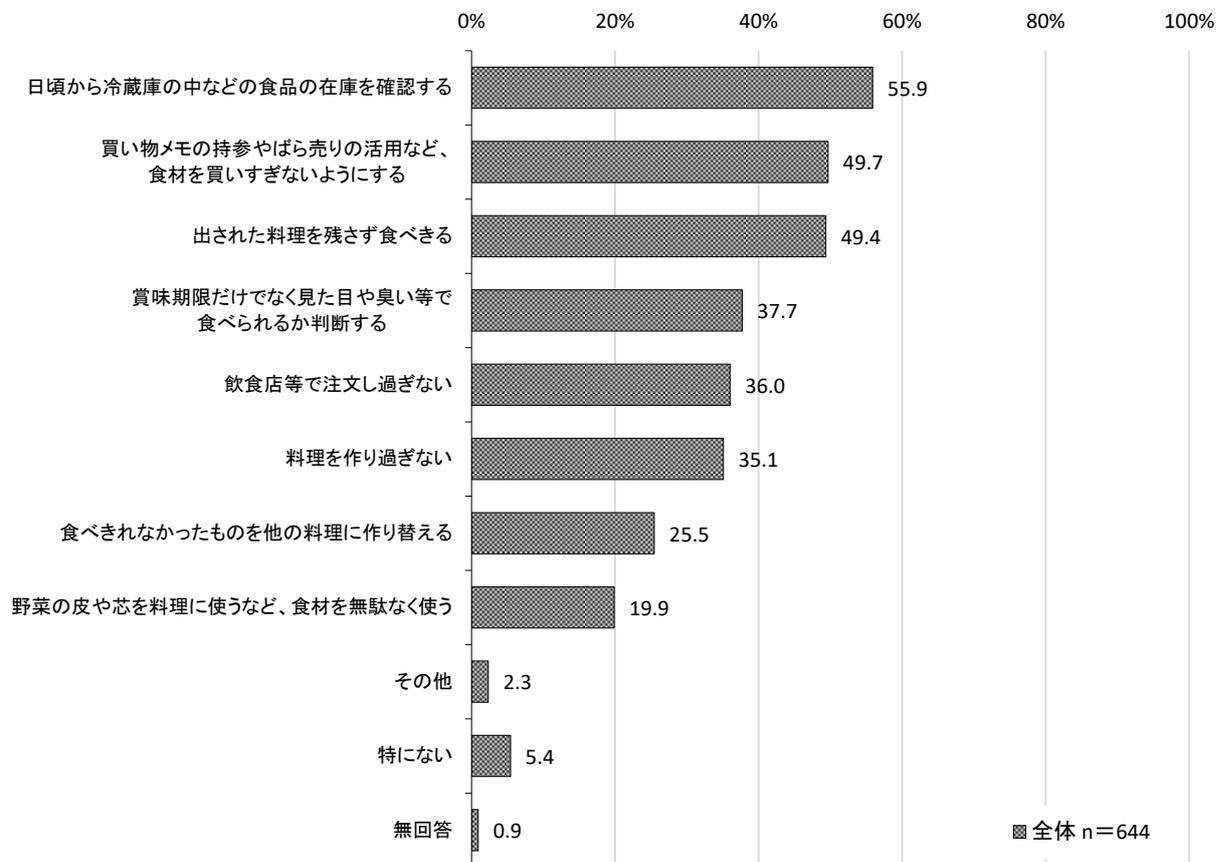
(1) 食品ロスを減らすための取り組み

◇「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が5割半ばで最も高くなっている

問 23 生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。(複数回答可)

食品ロスを減らすための取り組みについては、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が55.9%で最も高く、次いで「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」が49.7%、「出された料理を残さず食べきる」が49.4%となっている。

なお、「特にない」は5.4%となっている。

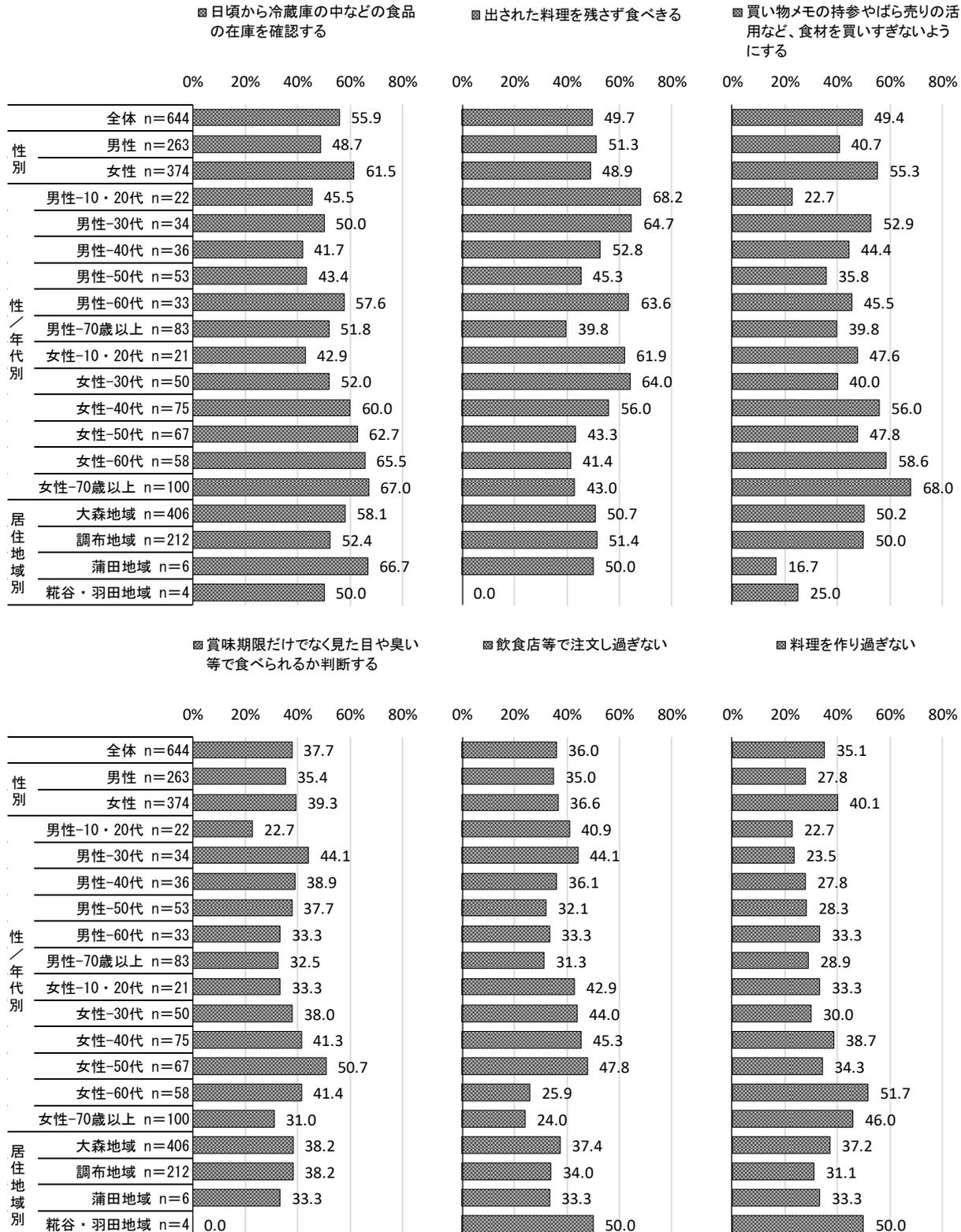


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性では「出された料理を残さず食べきる」、女性では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」は男性が48.7%、女性が61.5%と、女性が12.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、女性70代では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」がともに6割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」は大森地域で5割後半と高くなっている。

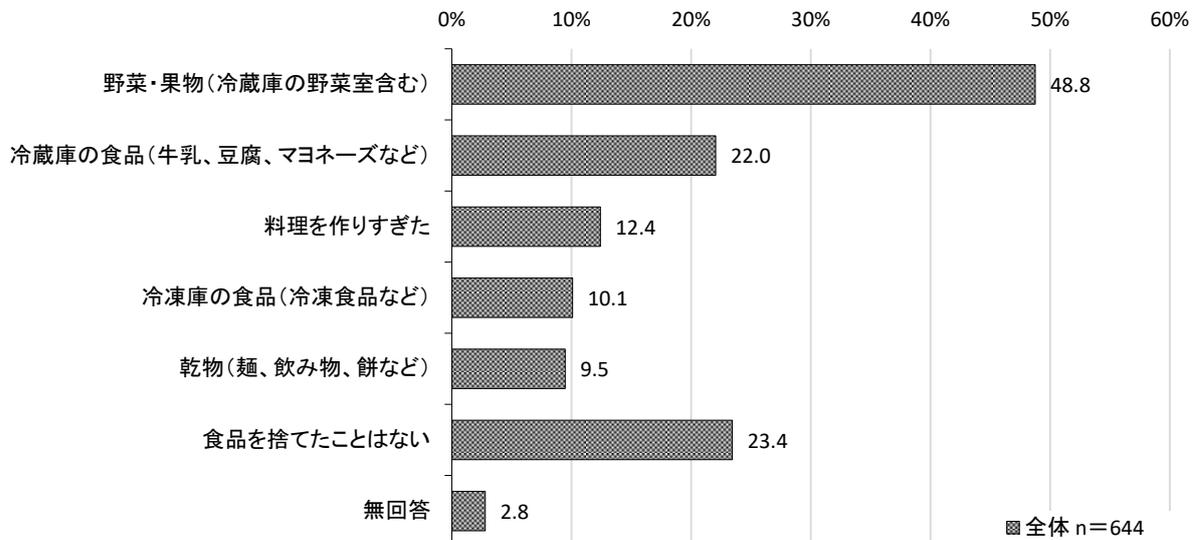


(2) 食品ロスとなった食品は何が多かったか

◇「野菜・果物（冷蔵庫の野菜室含む）」が4割後半で最も高くなっている

問 24 食品ロスとなった食品は何が多かったですか。（複数回答可）

食品ロスとなった食品については、「野菜・果物（冷蔵庫の野菜室含む）」が48.8%、次いで「冷蔵庫の食品（牛乳、豆腐、マヨネーズなど）」が22.0%、「料理を作りすぎた」が12.4%となっている。なお、「食品を捨てたことはない」は23.4%となっている。

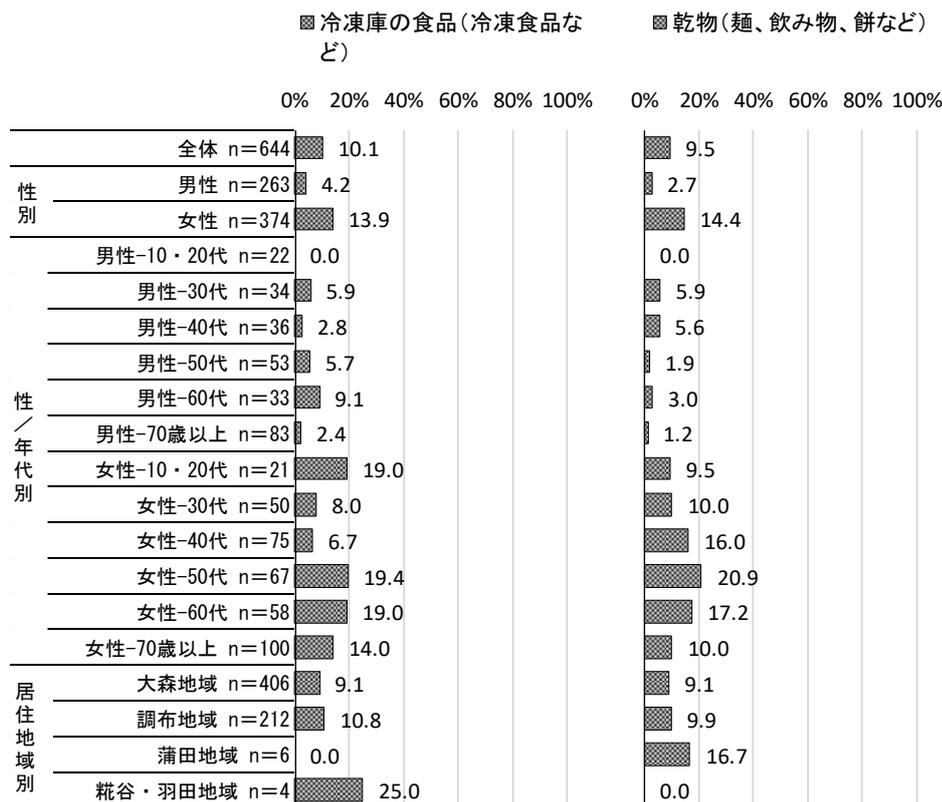
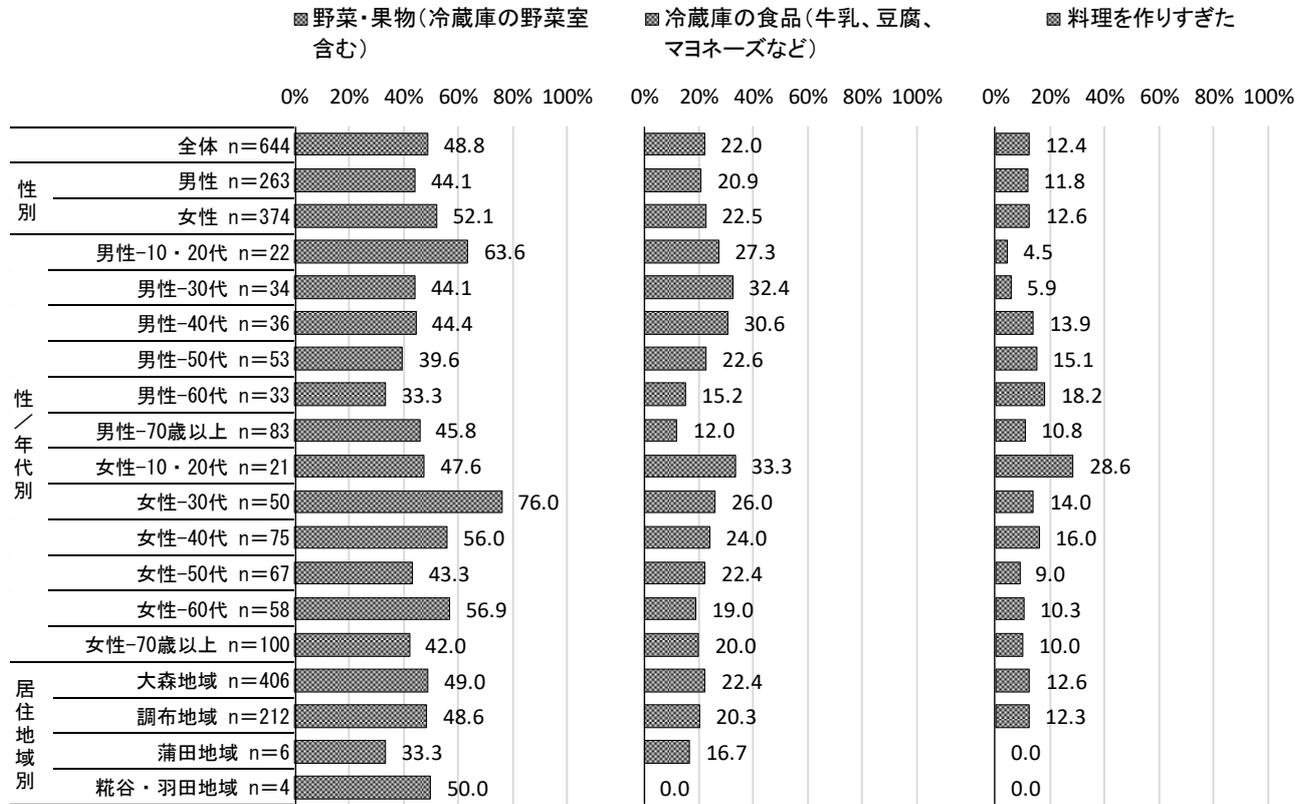


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「野菜・果物（冷蔵庫の野菜室含む）」が最も高く、男性が44.1%、女性が52.1%と、女性が8ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「野菜・果物（冷蔵庫の野菜室含む）」は女性30代で約7割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



(3)「大田区食べきり応援団」の認知度

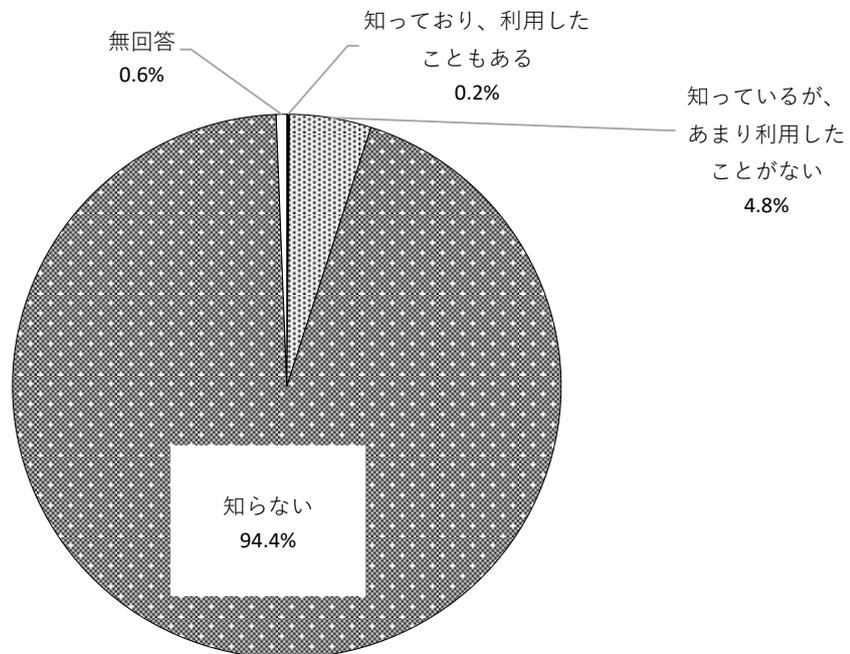
◇《知っている》(「知っており、利用したこともある」、「知っているが、あまり利用したことがない」の合計値)は1割未満となっている

問 25 大田区食べきり応援団を知っていますか。(1つのみ)

※「大田区食べきり応援団」とは、大田区に登録された、食品ロス削減に取り組む事業者の事です。

“大田区食べきり応援団”の認知度については、「知っており、利用したこともある」、「知っているが、あまり利用したことがない」の合計値《知っている》が5.0%で、「知らない」が、94.4%となっている。

全体 n=644

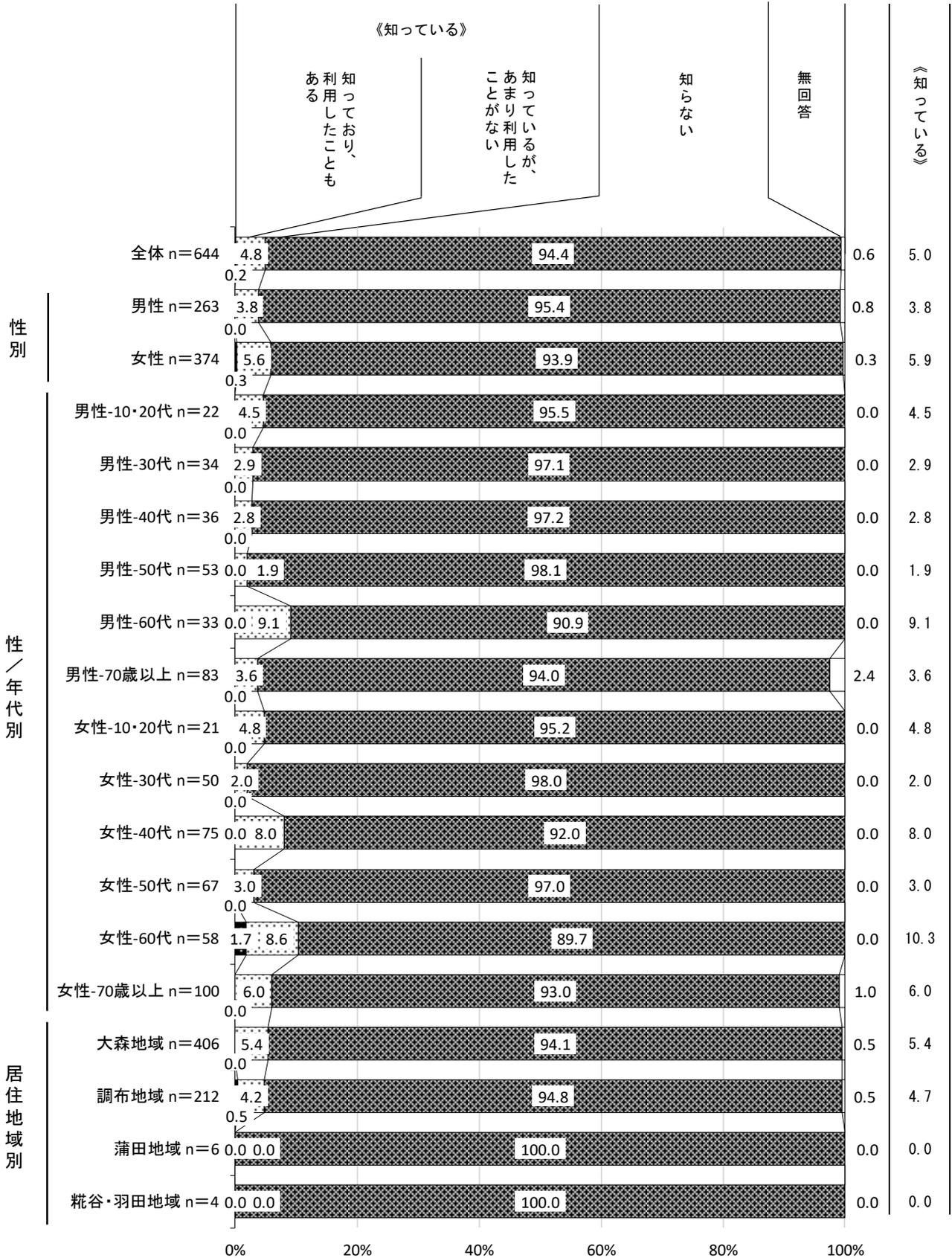


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性/年代別でみると、《知っている》はほぼ全ての年代で1割未満となっており、女性60代が約1割と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。

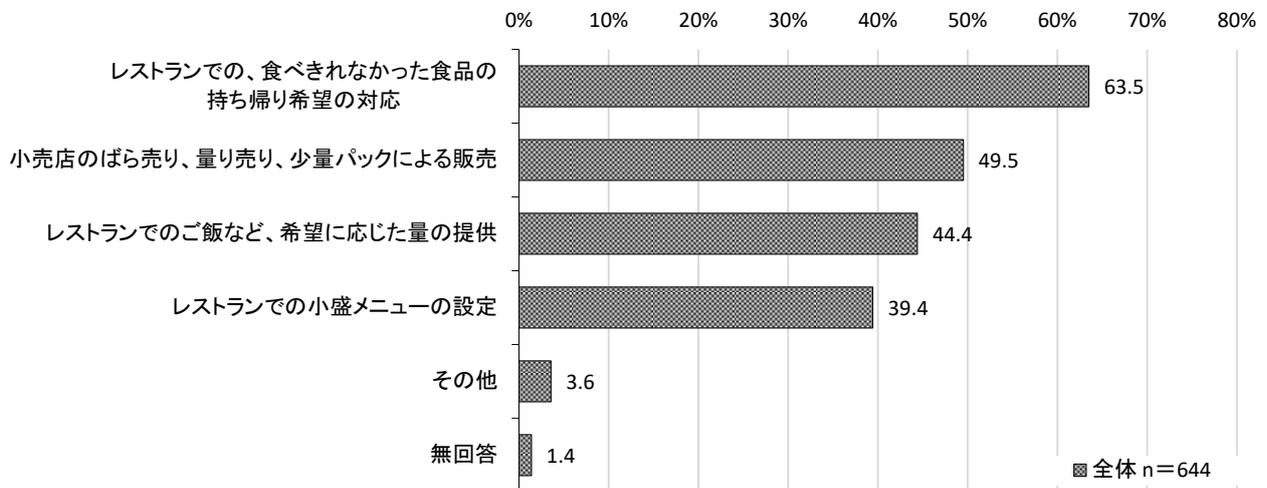


(4) 食品ロス削減への取り組み

◇「レストランでの、食べきれなかった食品の持ち帰り希望の対応」が6割前半で最も高くなっている

**問 26 食品ロスを削減するためには、店舗がどのような取組みをしていけば良いと思いますか。
(複数回答可)**

食品ロス削減への取り組みについては、「レストランでの、食べきれなかった食品の持ち帰り希望の対応」が63.5%で最も高く、次いで「小売店のばら売り、量り売り、少量パックによる販売」が49.5%、「レストランでのご飯など、希望に応じた量の提供」が44.4%となっている。

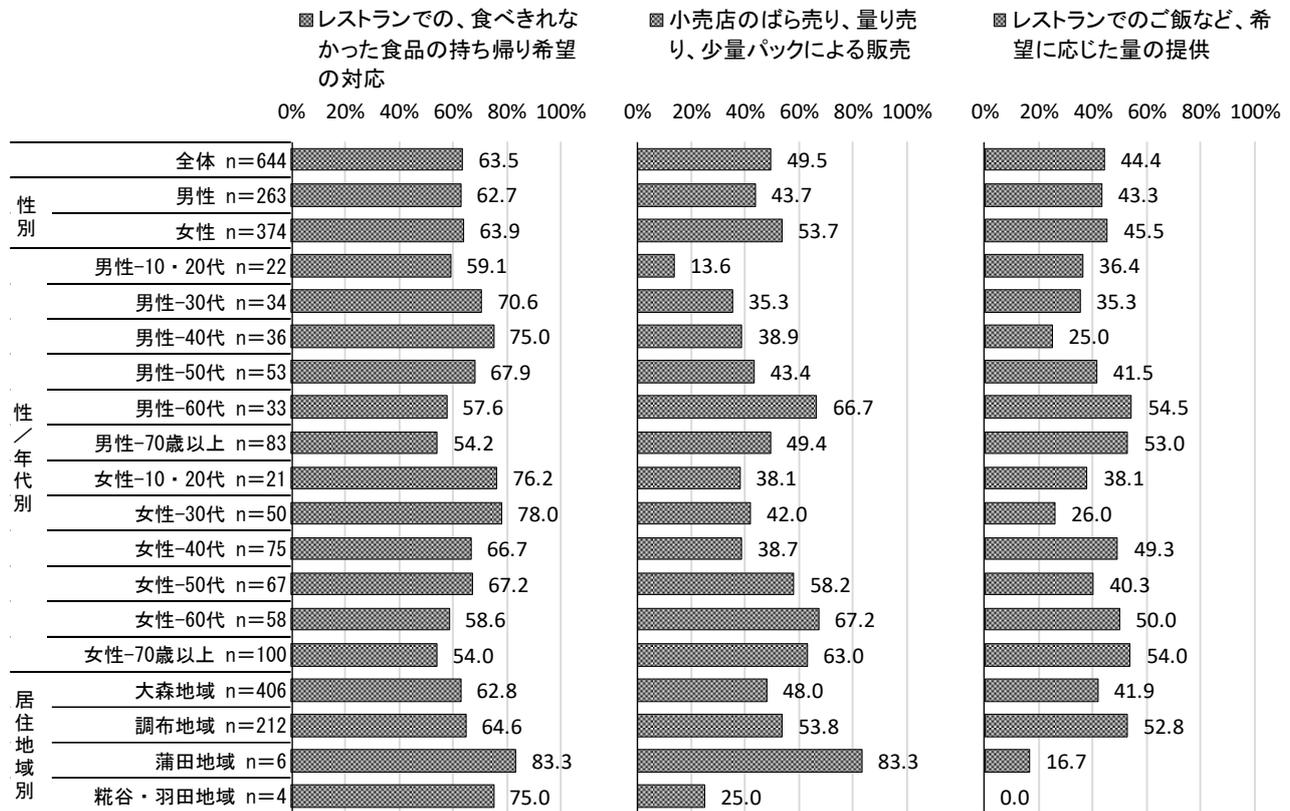


■性別・性/年代別・居住地域別

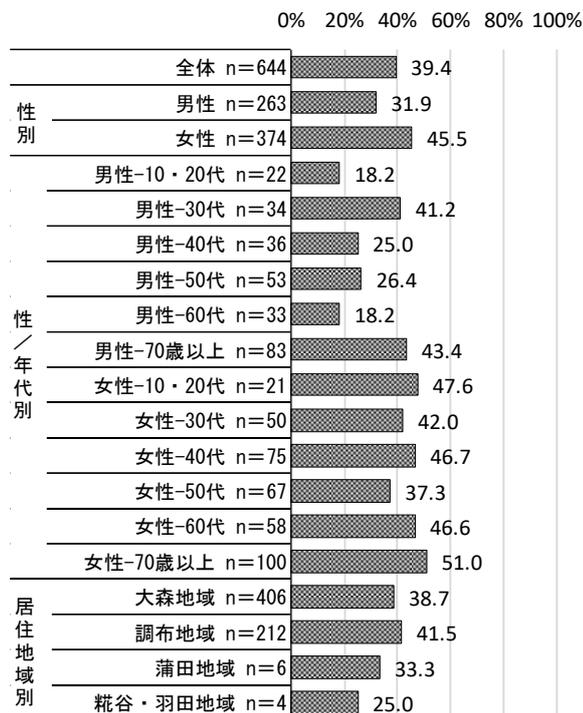
性別でみると、男性、女性ともに「レストランでの、食べきれなかった食品の持ち帰り希望の対応」が最も高くなっている。

性/年代別でみると、「レストランでの、食べきれなかった食品の持ち帰り希望の対応」は男性では40代で7割半ば、女性では30代で7割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「レストランでの、食べきれなかった食品の持ち帰り希望の対応」が最も高くなっている。



■ レストランでの小盛メニューの設定



12 地球環境について

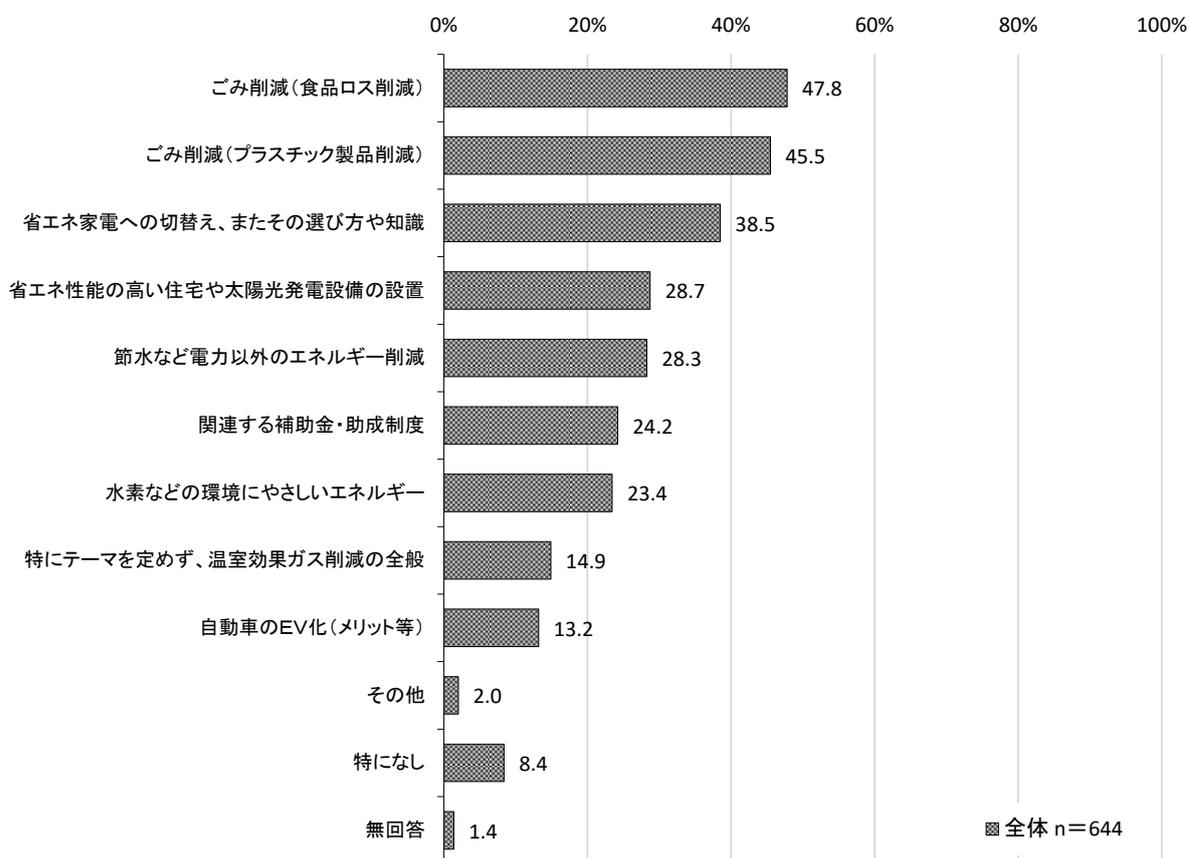
(1) 地球温暖化防止のために、関心のある実践行動や学んでみたいこと

◇「ごみ削減（食品ロス削減）」が4割後半で最も高くなっている

問 27 地球温暖化防止のためには、温室効果ガス削減が有効となります。関心のある実践行動や、学んでみたいと思われる内容を教えてください。（複数選択可）

地球温暖化防止のために、関心のある実践行動や学んでみたいことについては、「ごみ削減（食品ロス削減）」が47.8%で最も高く、次いで「ごみ削減（プラスチック製品削減）」が45.5%、「省エネ家電への切替え、またその選び方や知識」が38.5%となっている。

なお、「特になし」は8.4%となっている。

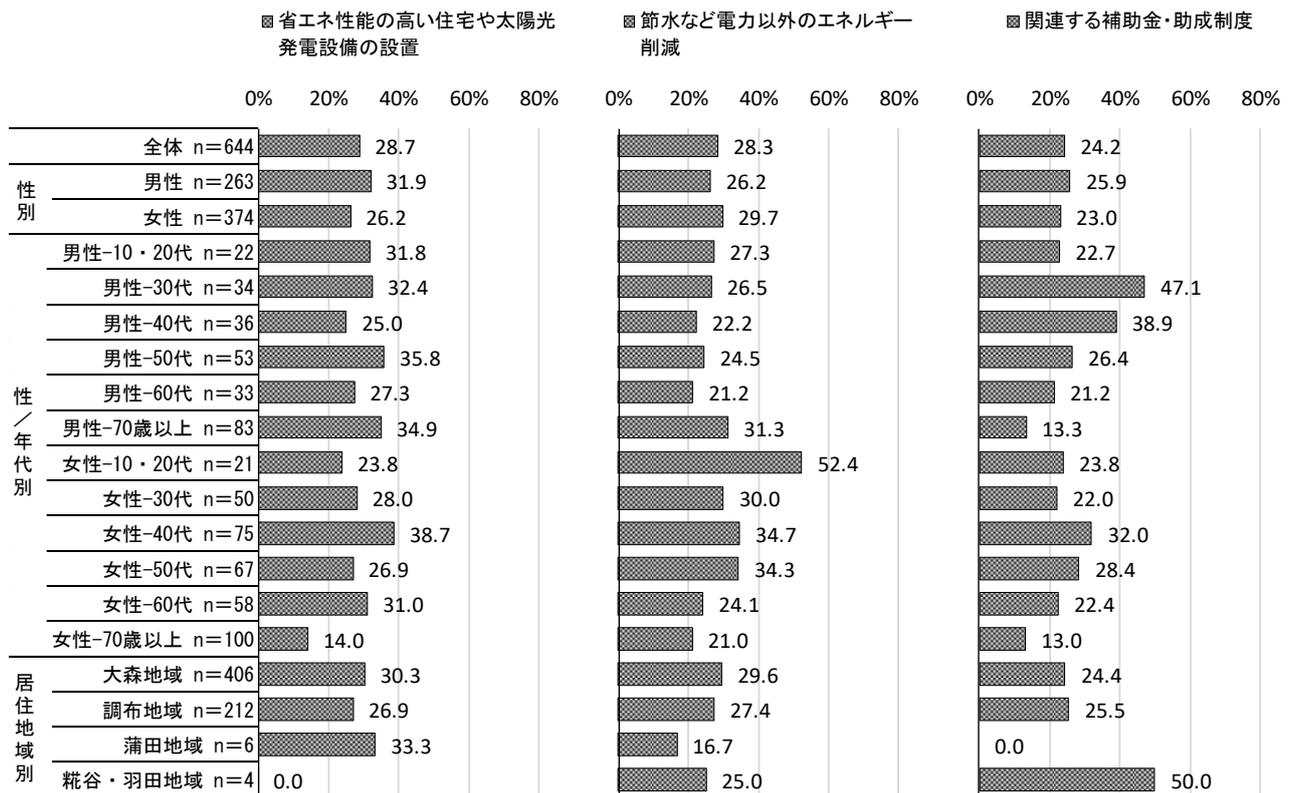
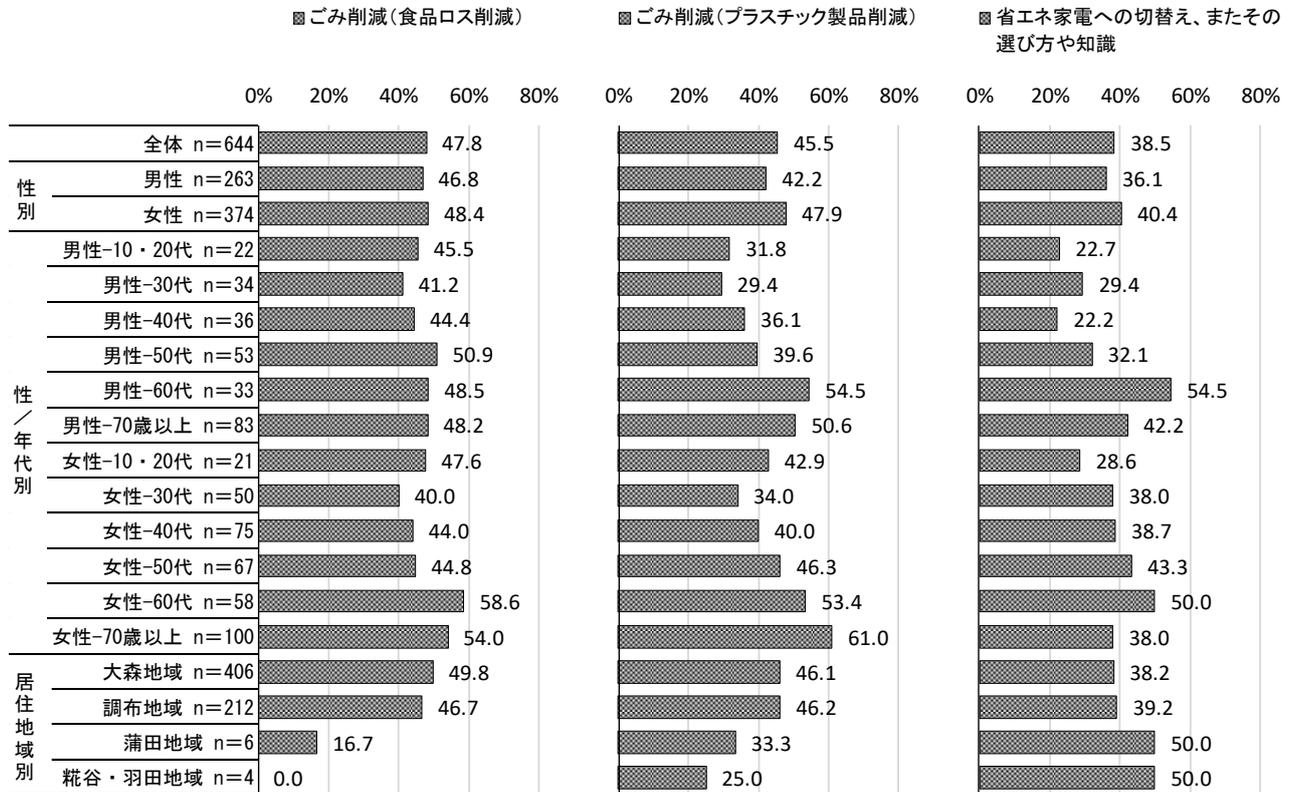


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「ごみ削減（食品ロス削減）」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、男性60代では「ごみ削減（プラスチック製品削減）」、「省エネ家電への切替え、またその選び方や知識」が5割前半で高くなっている。「ごみ削減（食品ロス削減）」は女性60代で5割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。

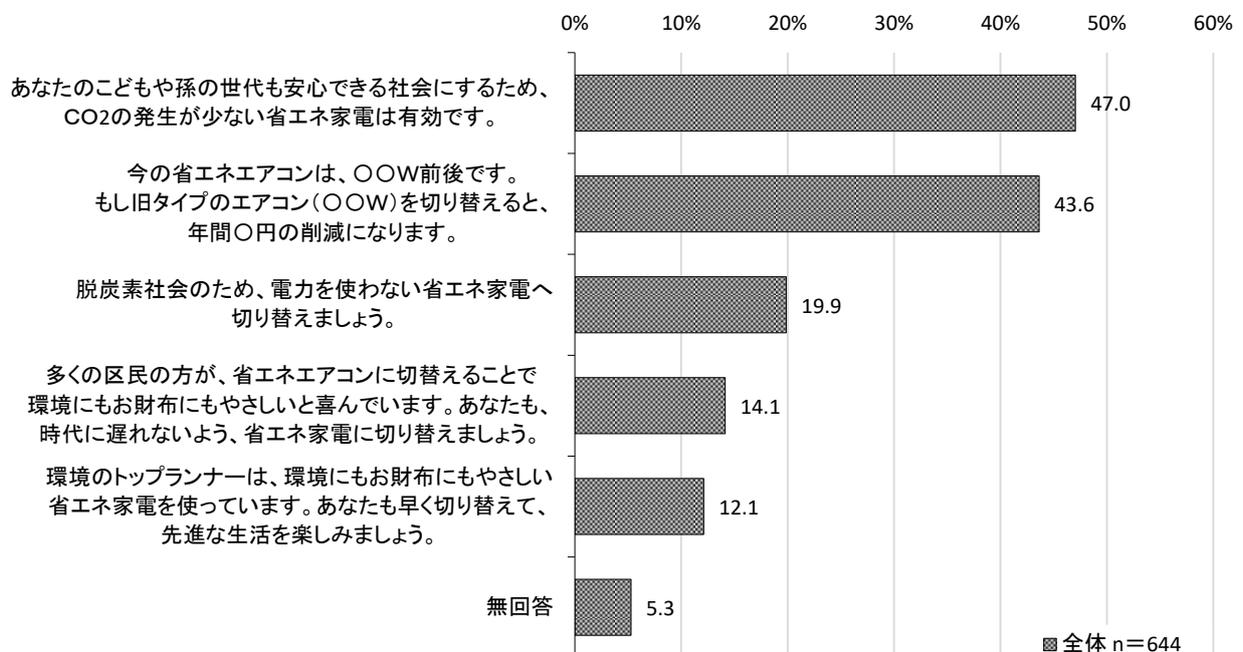


(2) どのようなメッセージで行動変容につながるか

◇「あなたの子どもや孫の世代も安心できる社会にするため、CO2の発生が少ない省エネ家電は有効です。」が4割後半で最も高くなっている

問 28 大田区は 2050 年に向けて脱炭素社会、電力の省エネを進めていく必要があります。その際、どのようなメッセージだと、行動変容につながりますか。(複数選択可)

どのようなメッセージで行動変容につながるかについては、「あなたの子どもや孫の世代も安心できる社会にするため、CO2の発生が少ない省エネ家電は有効です。」が47.0%で最も高く、次いで「今の省エネエアコンは、〇〇W前後です。もし旧タイプのエアコン(〇〇W)を切り替えると、年間〇円の削減になります。」が43.6%、「脱炭素社会のため、電力を使わない省エネ家電へ切り替えましょう。」が19.9%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「あなたの子どもや孫の世代も安心できる社会にするため、CO₂の発生が少ない省エネ家電は有効です。」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「あなたの子どもや孫の世代も安心できる社会にするため、CO₂の発生が少ない省エネ家電は有効です。」は男性では70歳以上で約5割後半、女性では60代で6割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。

